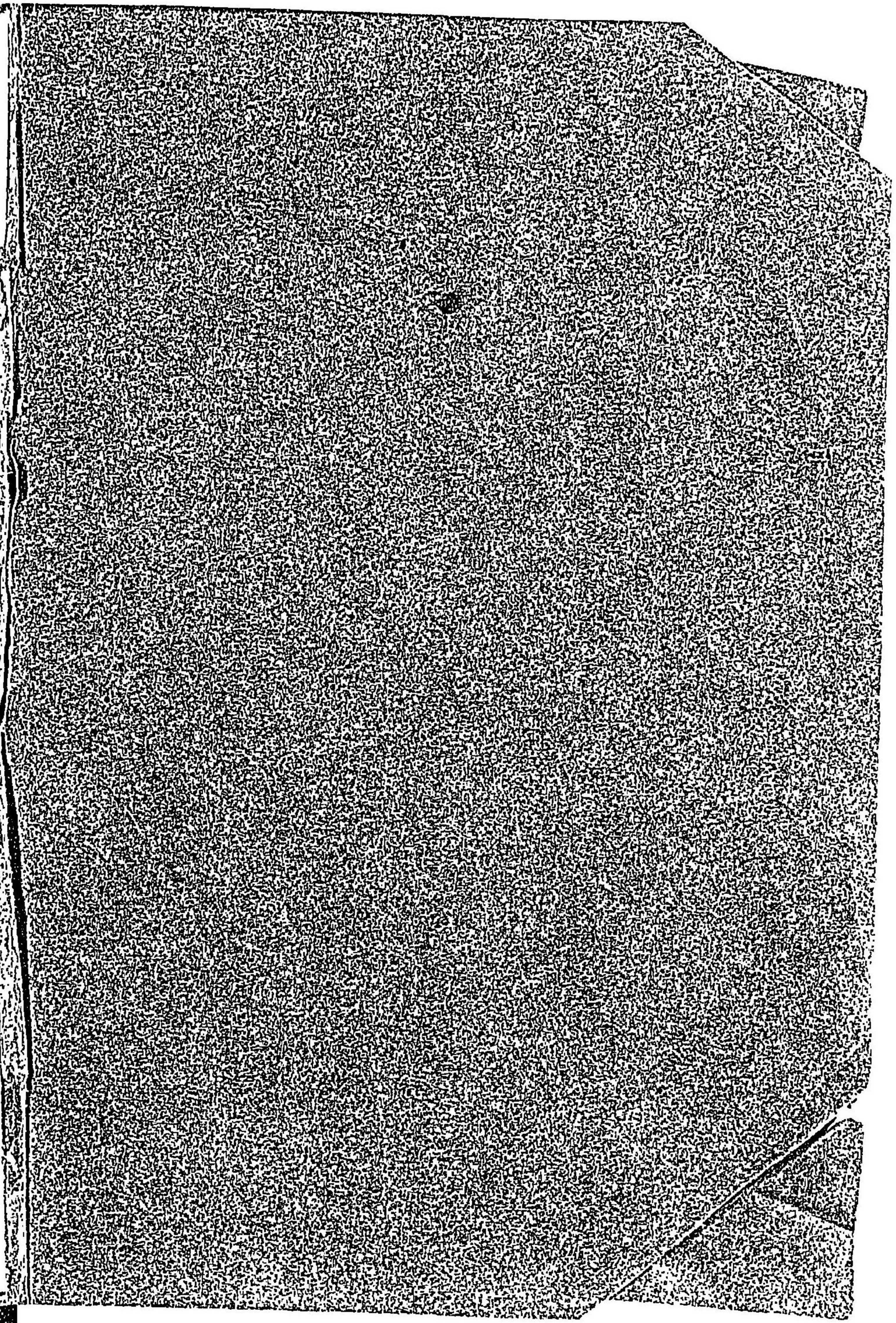
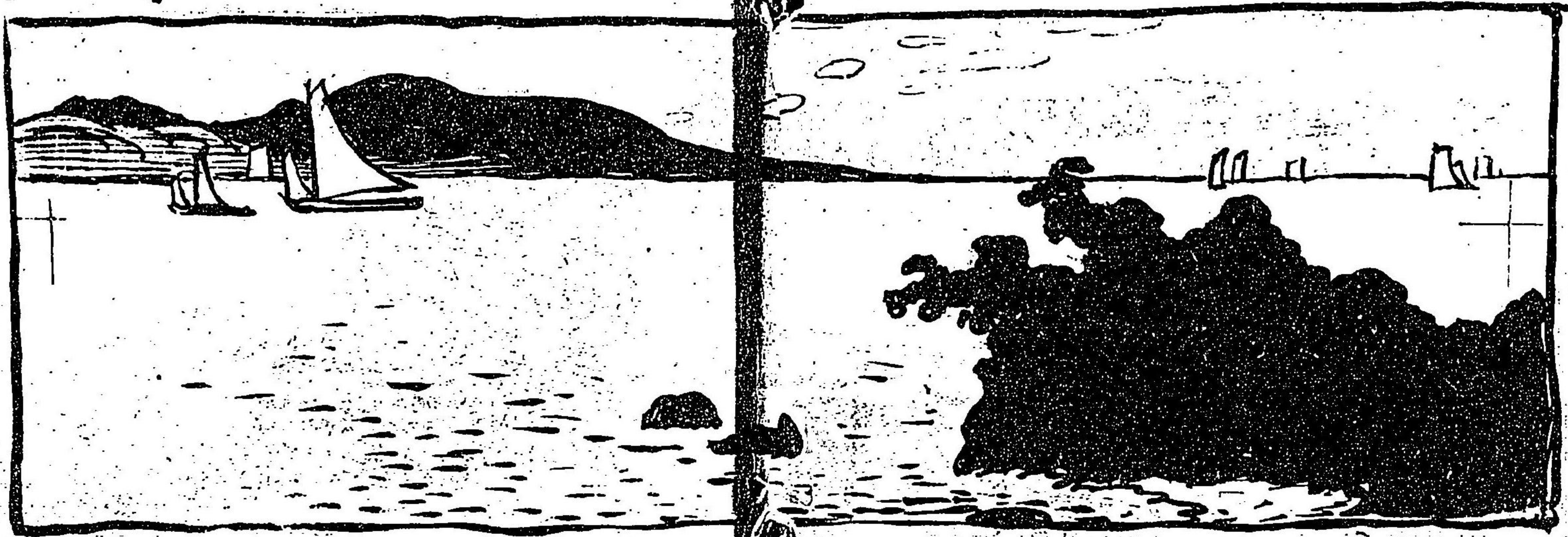


29  
344

寫  
生  
の  
仕  
方









7-320





29-347



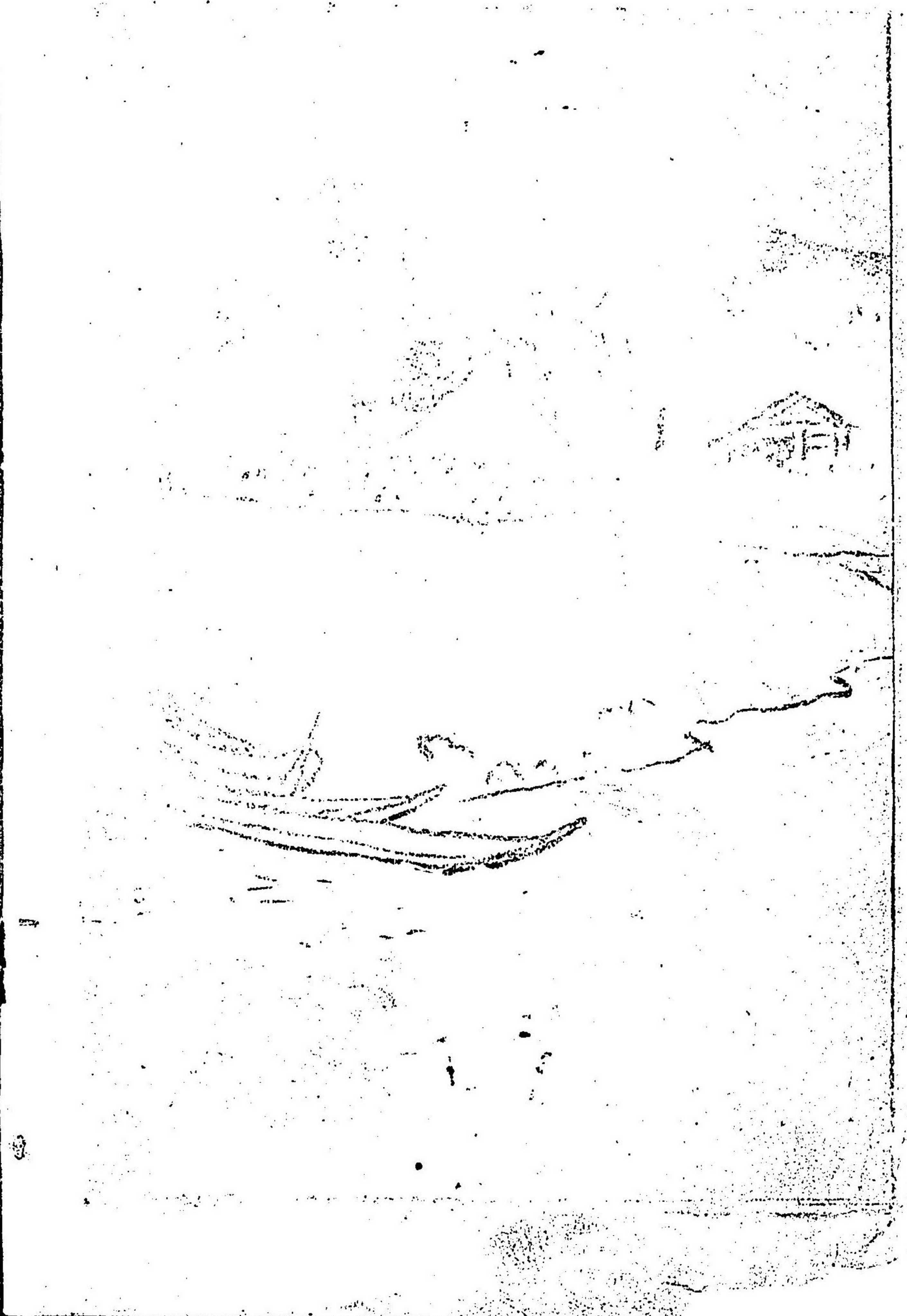
29-347



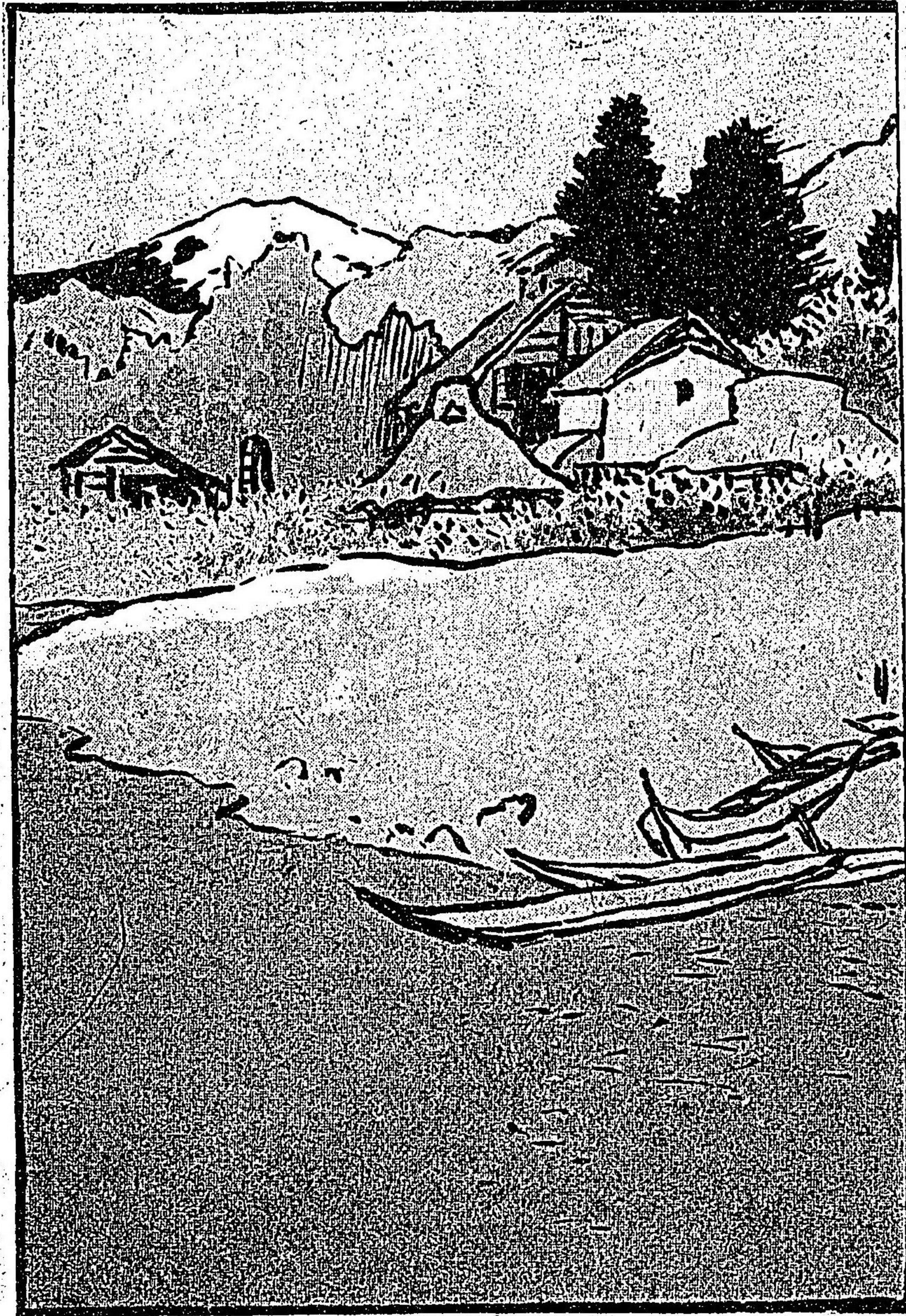




柿の實





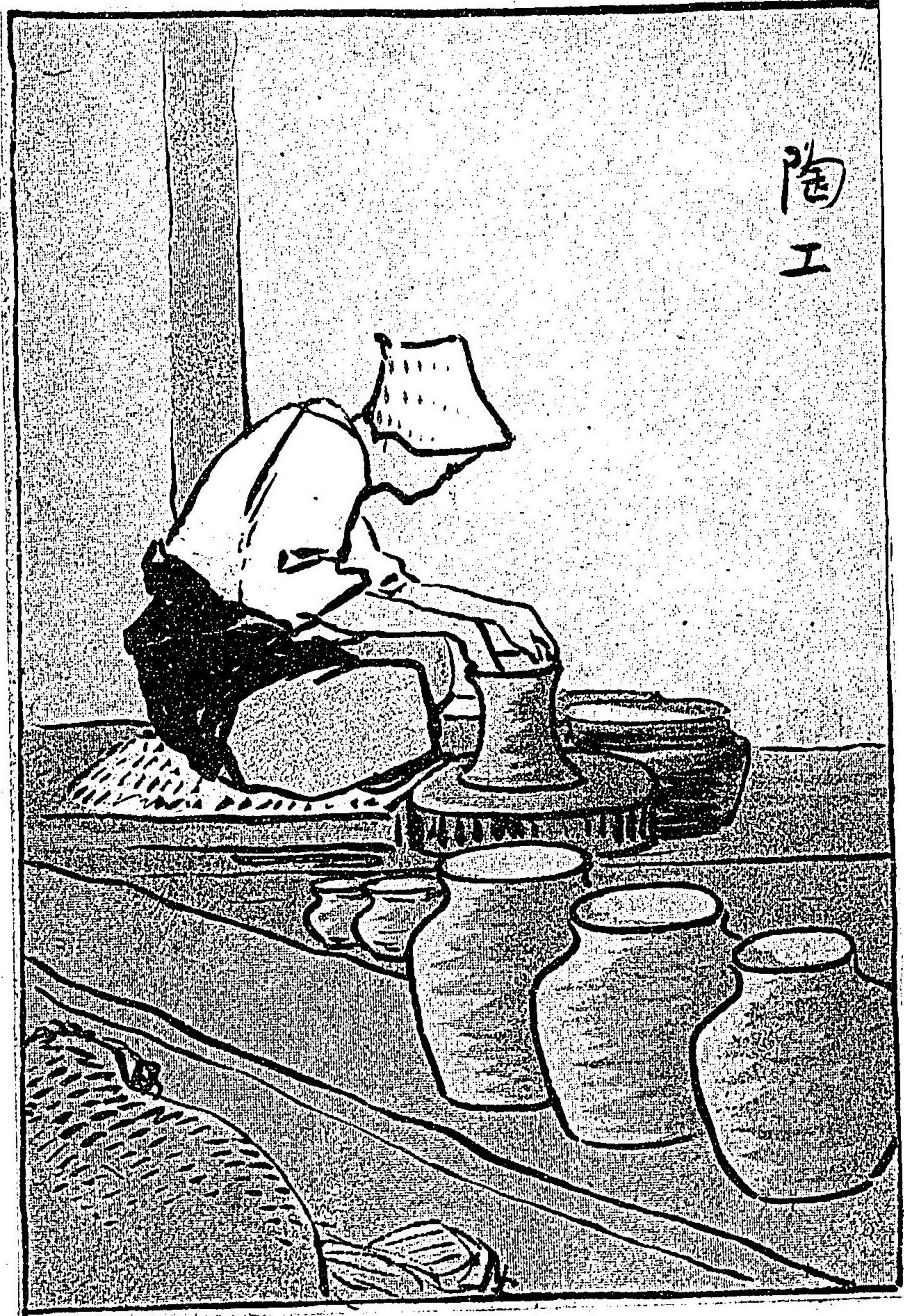








陶工







# 寫生の仕方

伊藤龍涯編

## 寫生の仕方

寫生といへば勿論見た通りの物を  
畫に描き現はしすれば善いのであ  
る併しそれ丈けの事にも種々の簡



單なる心得が無ければ一寸纏まり  
悪いものである殊に今まで少しも  
畫と云ふことを書いた事の無い人  
々には最も必要な條件であらうと  
思はるゝ

一、位置撰み方

景色にあれ物品にあれ一つの寫生  
を爲さんとする時には先づその見

る場所を撰擇して取り掛のであつ  
て見所が悪るければ如何程周蜜に  
注意して描く共甚だしく見劣りの  
せらるゝものである假令ば市街の  
道路を普通に平行に見ては敢て趣  
味の少なき場合にも少しく自己の  
位置を轉じて側面或は階上より望  
む時は意外の面白味を發見するこ



とありまたは亂雜に並べられたる  
器具の觀方によりて一種趣味ある  
畫となるが如き場合が屢々あるさ  
れば此の弊を避けんとするには最  
初ある寫生をなさんとする時に先  
づ一つの物に就て二個所以上に見  
所を變へて然る後に適當なる場所  
より觀て筆を下すのが必要である

風景の如きも上より見下すのと下  
より見上る場合とは非常に趣きが  
違ふ、人物や物品は正面と側面とあ  
るいは背面と夫れく異なつた趣  
味のある者であるその内の最も適  
切に面白く感ぜらるゝ方面から寫  
生をするのである

一、寫生の主眼



ある物を畫面に寫生せんとするに  
は始に如何なる場所より着手した  
ら良いかと云ふ事は必ず起て來る、  
でこれには三個の心得がある一、寫  
す所の最も主眼とする點を撰むべ  
し、二、その主眼とする所は畫面の上  
に於て第一に手近き場所に定むべ  
し、三、主眼として寫生する者は成る

六

可く簡單なる者を探る方便宜なり、  
と大畧先づこれである假令ばある  
風景を寫生せんとすればその第一  
に見る所は山であるとか川である  
とかまたはある家であるとか木で  
あるとか云ふことを極めるのであ  
つてその主として觀る所の者を重  
も立ちて寫しさへすれば畫面の散

七



漫して結末の附き悪い様な事はな  
い、若し観る所の物を残さずに片端  
より寫生しようとするをやゝもす  
れば纏まりの附かなくなる者であ  
る

それでその主眼として描く可き者  
はある場合には繪の奥に置いて手  
前の方の者を略して描く事もあれ

共先づ普通には一番に自己の方に  
近き場所にある者をもつて主とす  
る方が便利であつて且つ最も書き  
良いのである、それからあまり數多  
き者やまたは複雑なる者を其の儘  
に主眼として寫生することはその  
道の専門家でない限りは一寸容易  
の者でない、で始めには出來得る丈



け小さい部分を主點として定むるが宜しい、例へば一叢の菊を寫生するとしてもその中の咲き誇れる一本の菊はその内の主眼とす可き者にしてまたその尤も見附きに開ける一輪の花は更にその一本の主點なが如くこの場合にはその一輪の花を主眼と定めて寫生し出來上り

たれば順を遂ふて背景を描き添ふるのであるかくすれば極めて容易に一枚の寫生畫を纏め得ることが出來る、その他人物であれ風景であれ總て成る丈け簡單なる者を主眼として定むるのは寫生の初歩として必要である

### 三、形ちの撮り方



位置と主眼とが定まりたらば次はいよいよ紙に書き現はす方法であるこれには角度によりて物体を極めるのが最も手近であつてそして誤謬の少ない方法である以下の實例に示したのは凡てこの方法を示したものであつて先づ一つの者を寫生すると云ふ場合にはその者

の外側の大體の輪廓を鉛筆か木炭などにて引て見る少き凸凹は觀ないても宜しいすると平面の大略の格好は極まる而して後に内部の肝要な線を加へまた追てに細部分をも寫し行くのでそしなれば敢て面倒なことはなくなるのであるそれから塔や柱の如き直立せる者には



その前に中心となる所へ一本の線を引いて置いてそれが外輪の線を極めて行けば曲りがない尤も幾何や何かの力を借りれば何でも無き様なれ共(塔の畫を見よ)寫生には筆一本を以て寫すのであるから次に眼の具合で寫生する者の高低が一寸見悪くなることがあるこの

場合には圖のある邊に適宜に水平の線を引て而して實物と見較べると高低に就ての誤謬は大概訂正せらるゝ者であるによりて大小の差を生ずる場合にその底度の見極め難い時には同じく此の横線によりて訂正することが出来るからである(泊り舟の圖を見よ)

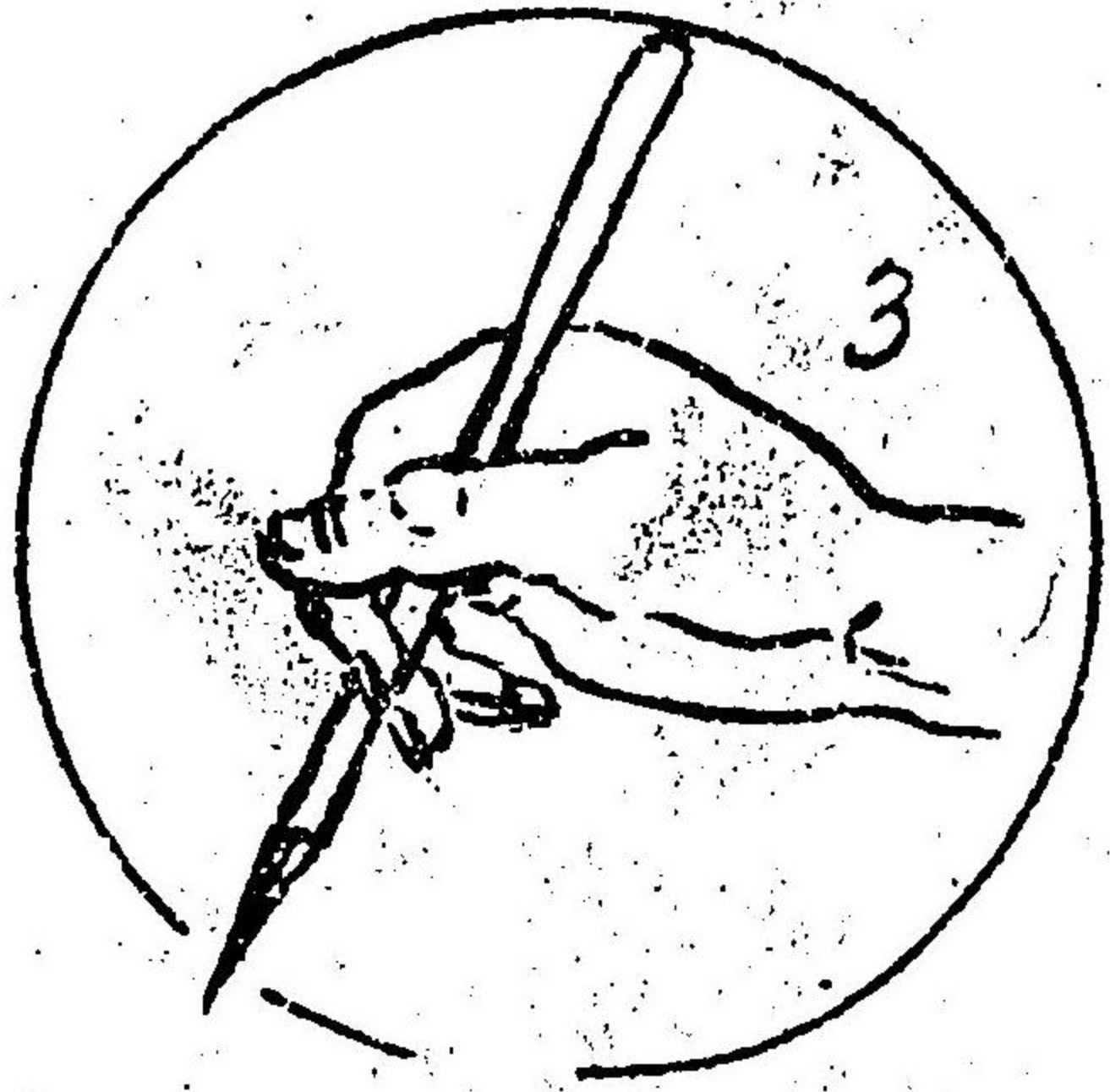
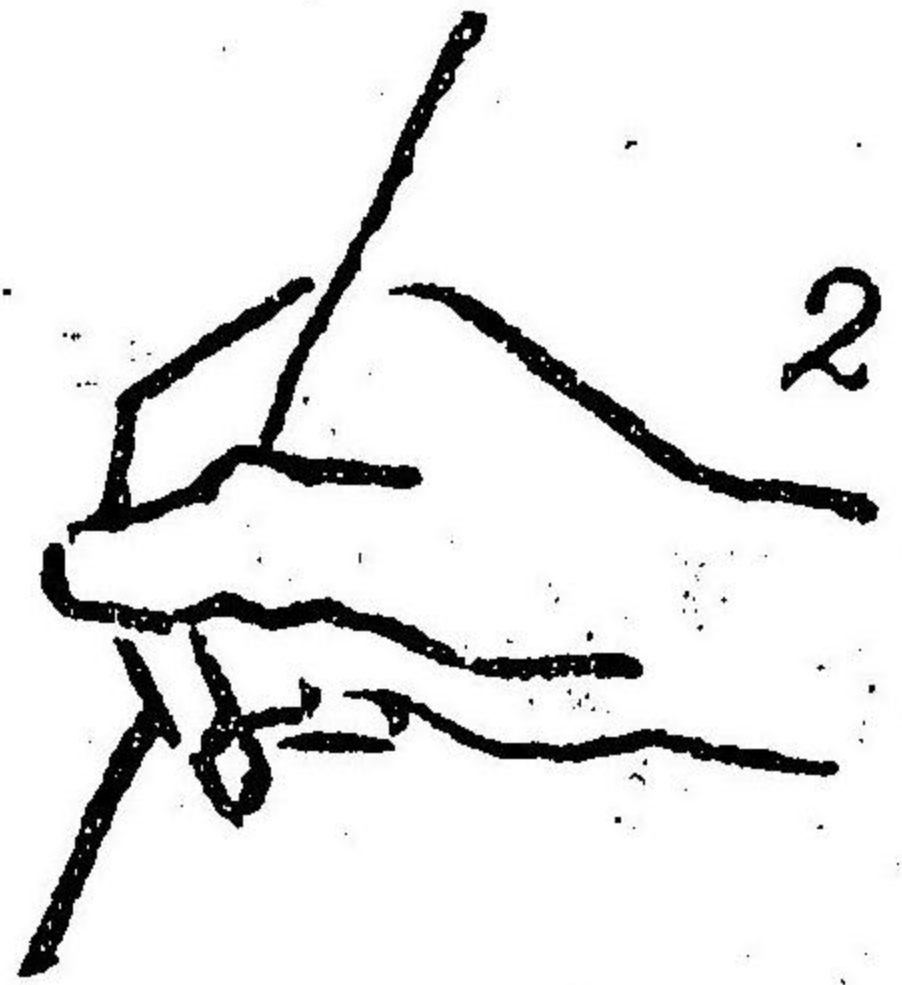
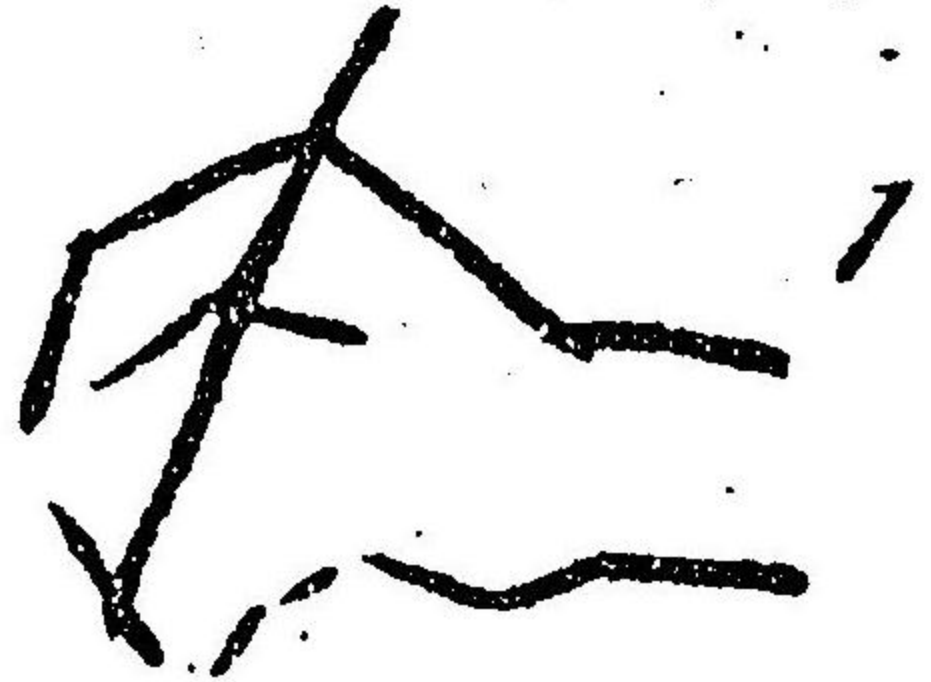
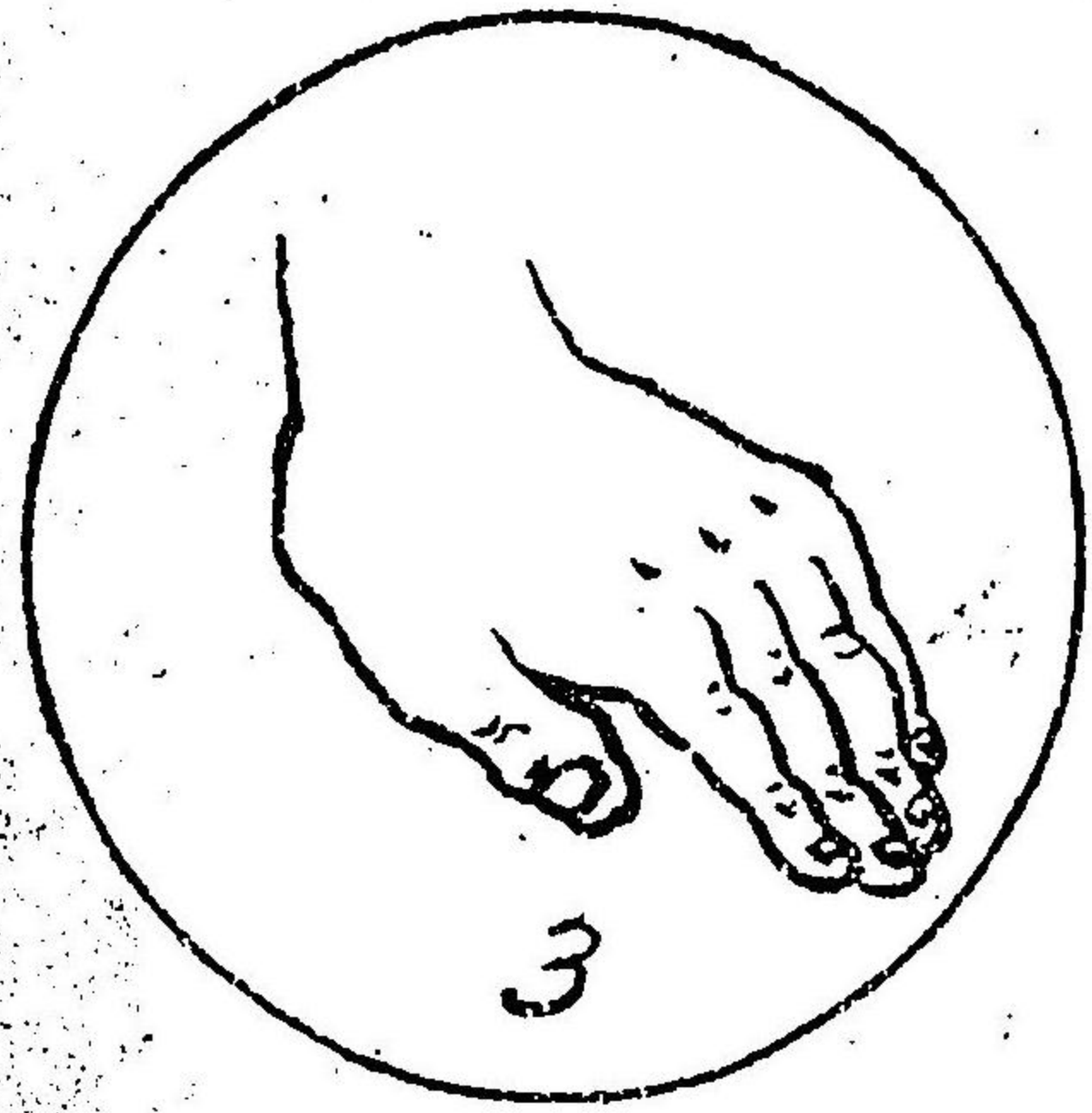


先つこれで形状に付ての寫生は出來たのでその上に色を塗れば立派な寫生畫が出來ると云ふ者であるがしかし寫生と云ふ者は第一に形が正格でなければ實物の面白味が觀られない從而一向價值のない者になつて了ふのであるから形を能く書き取ることの練習は最も

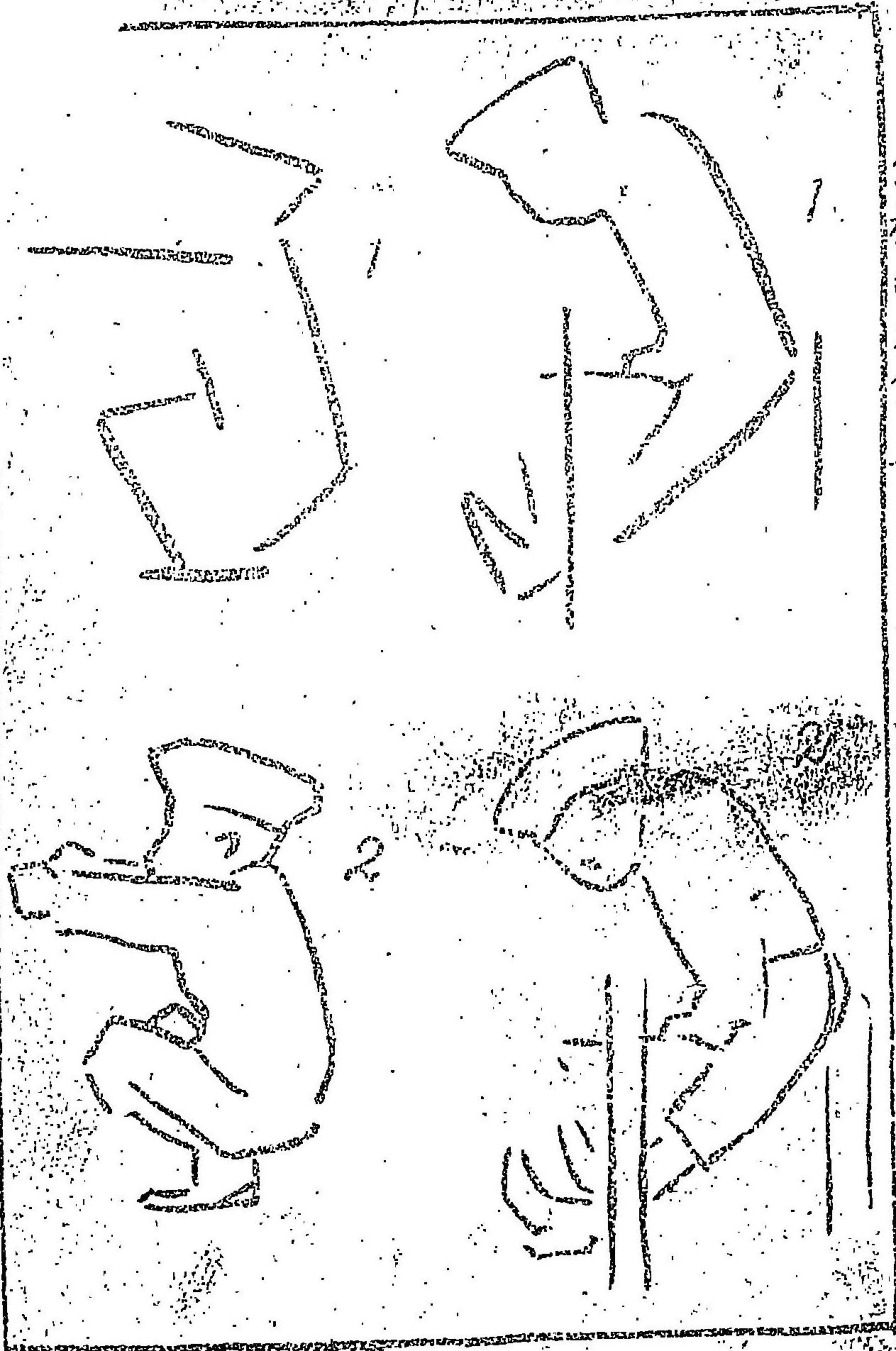
必要であるから以下の實例を參考して一枚も多く練習して見れば形状と云ふことは早く飲み込み得るであらふ



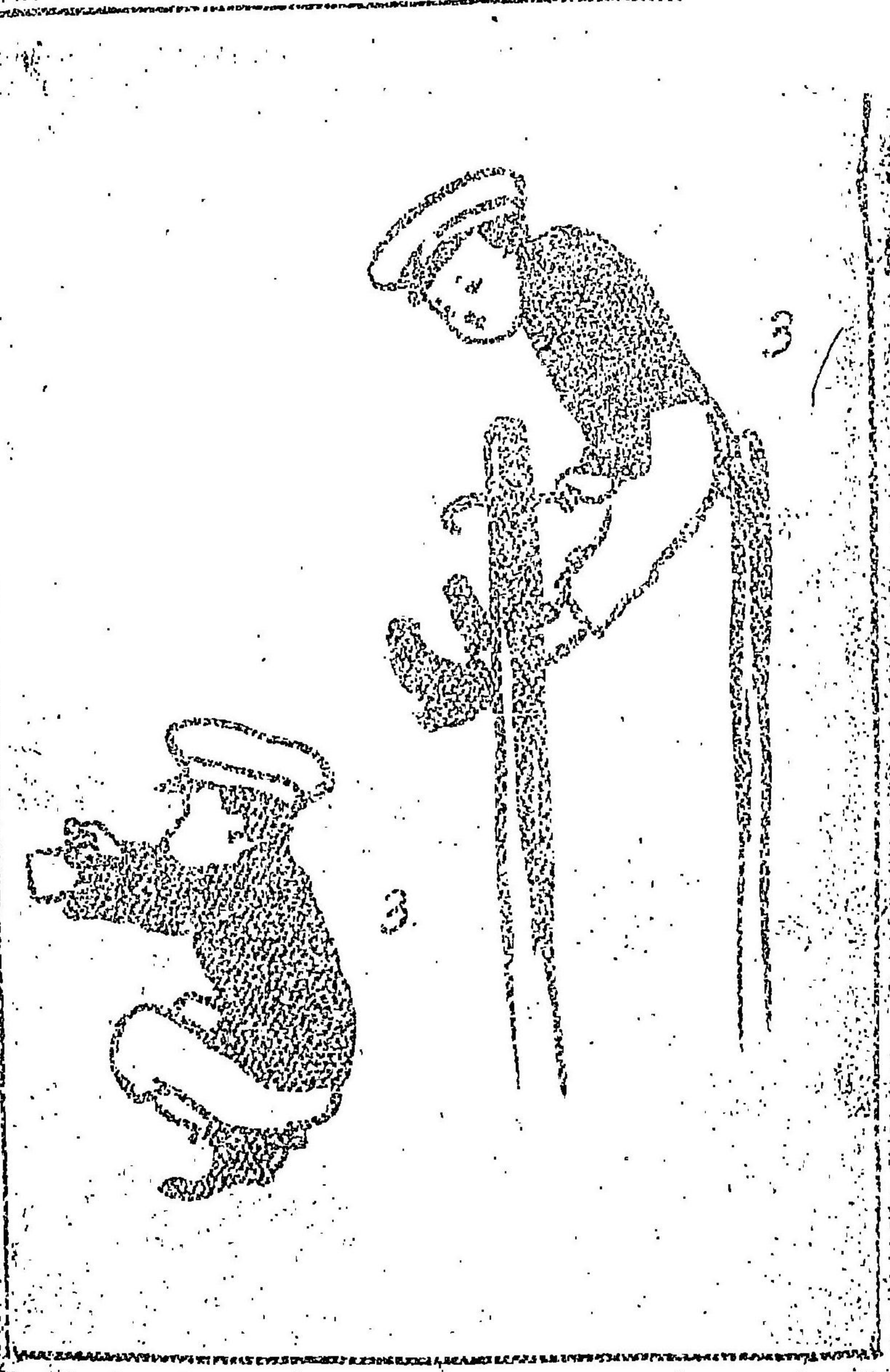
練習畫







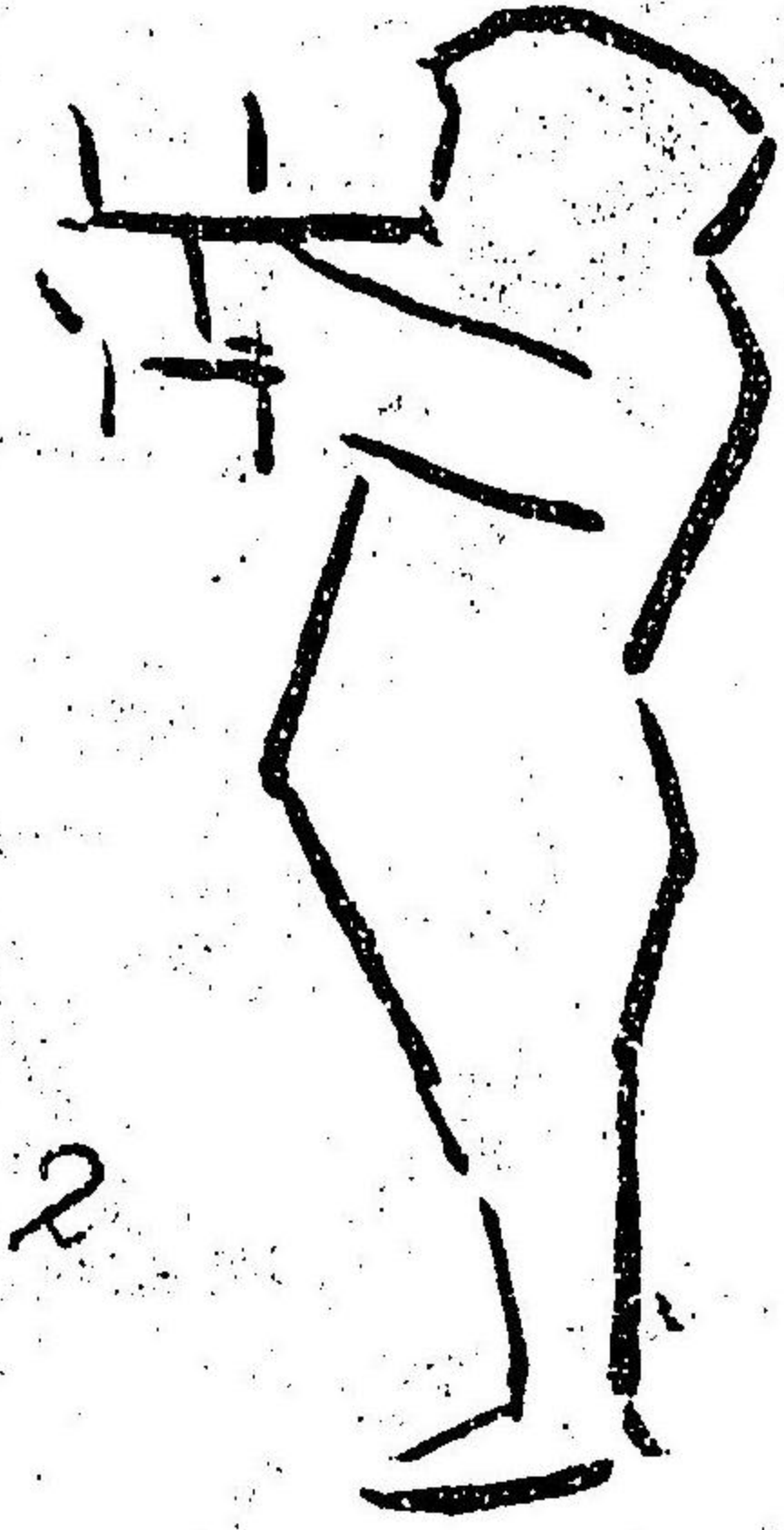
金棒のスケッチ



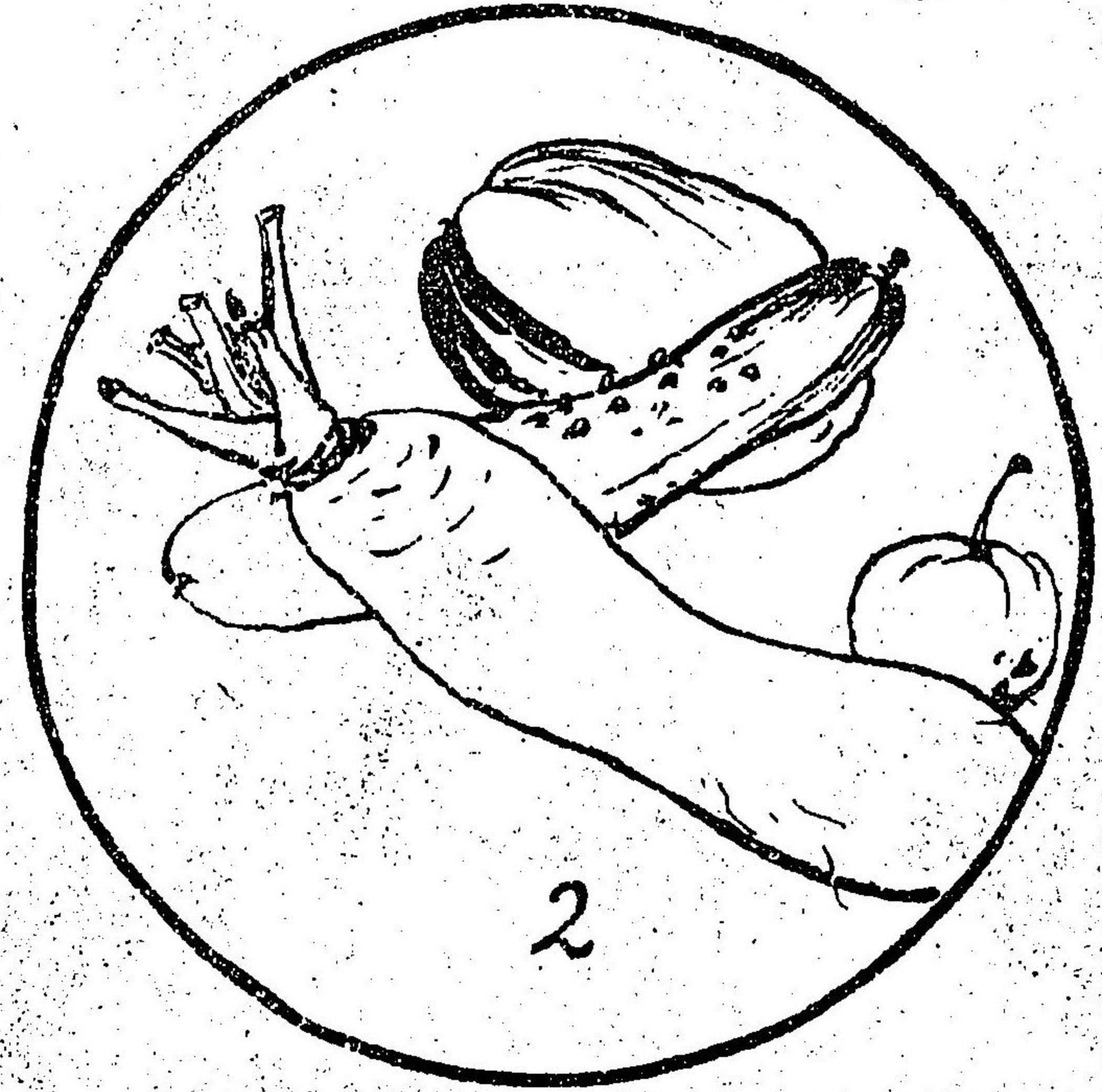
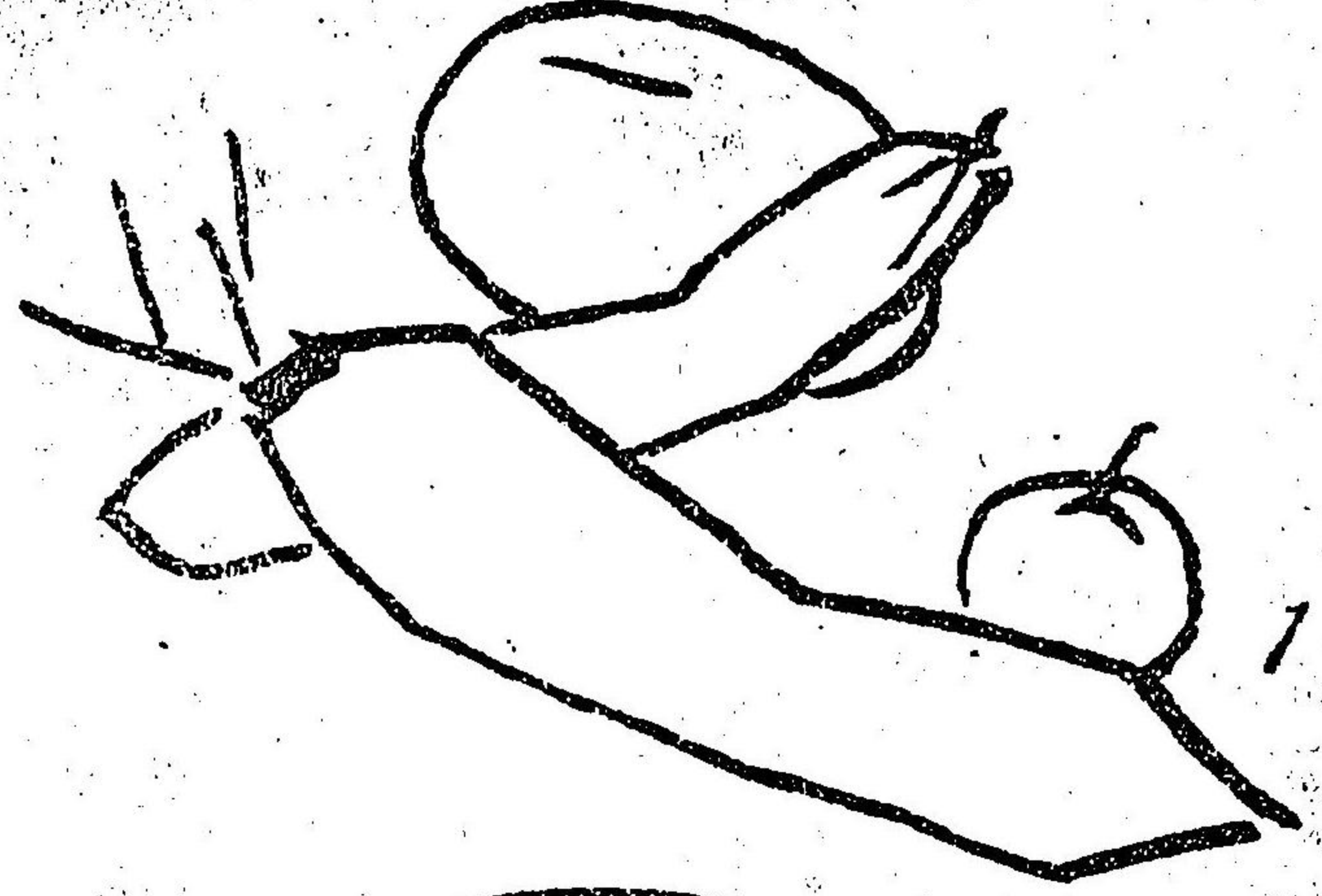
金棒



體操

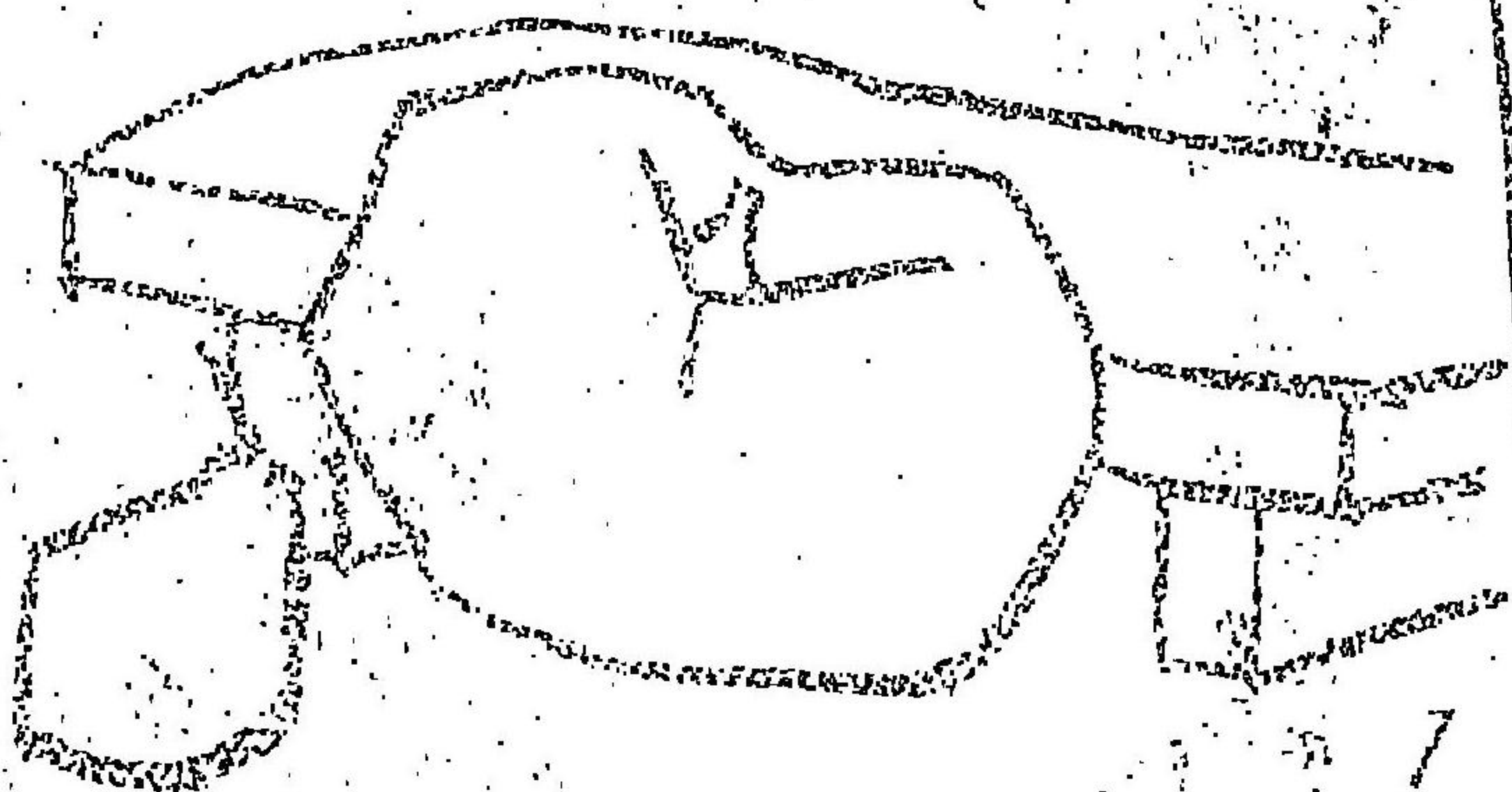


野菜

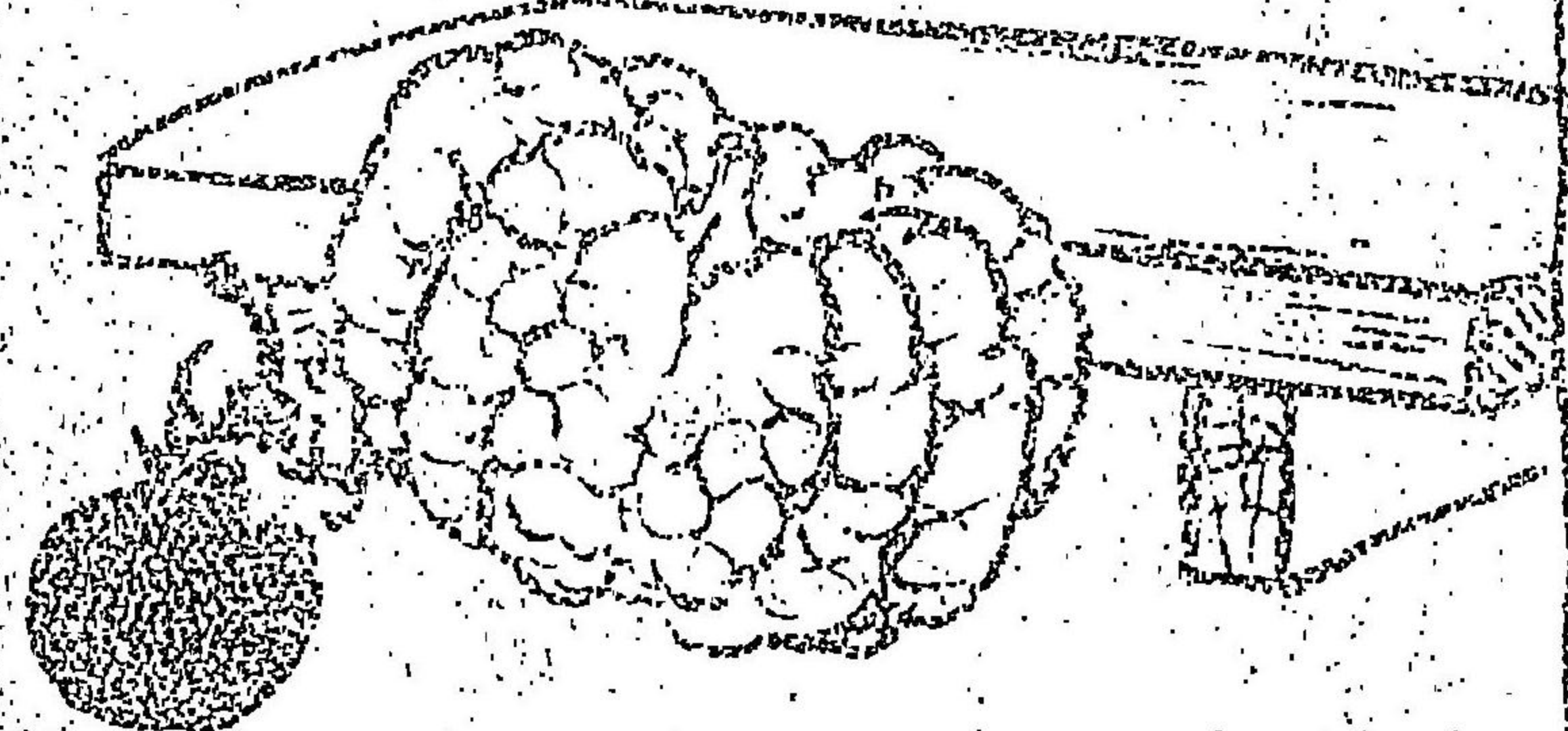




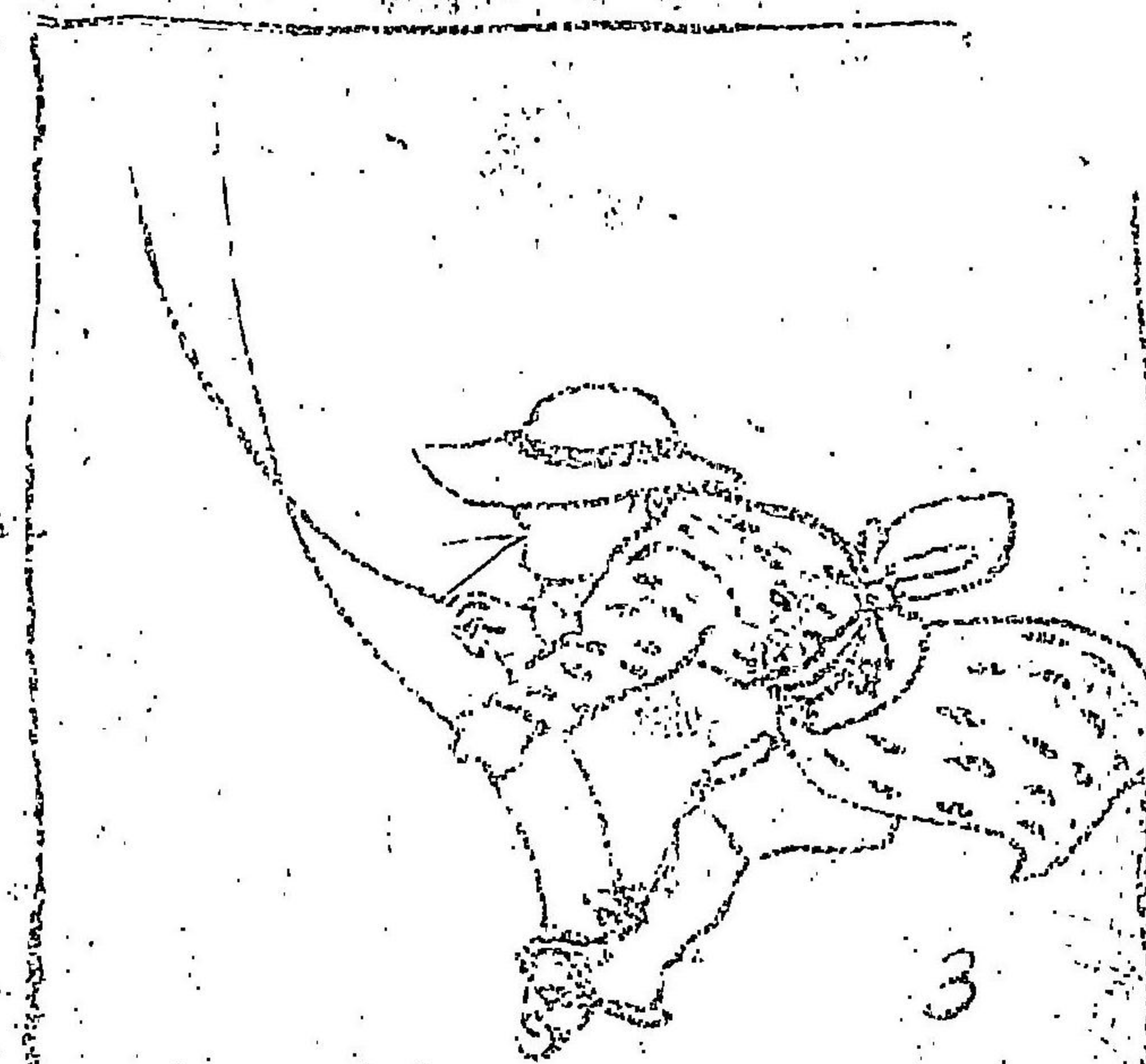
野味



7



2

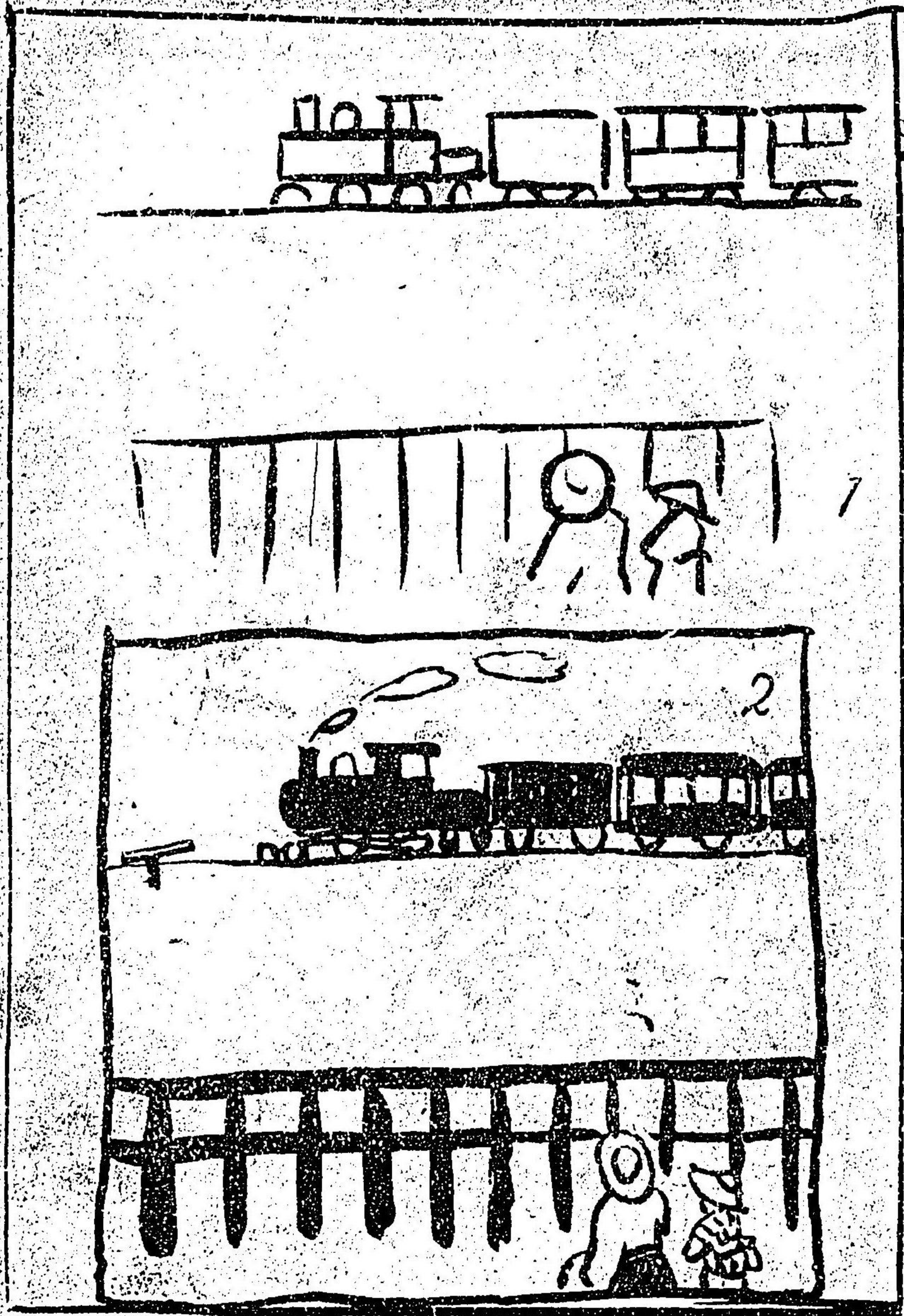


3

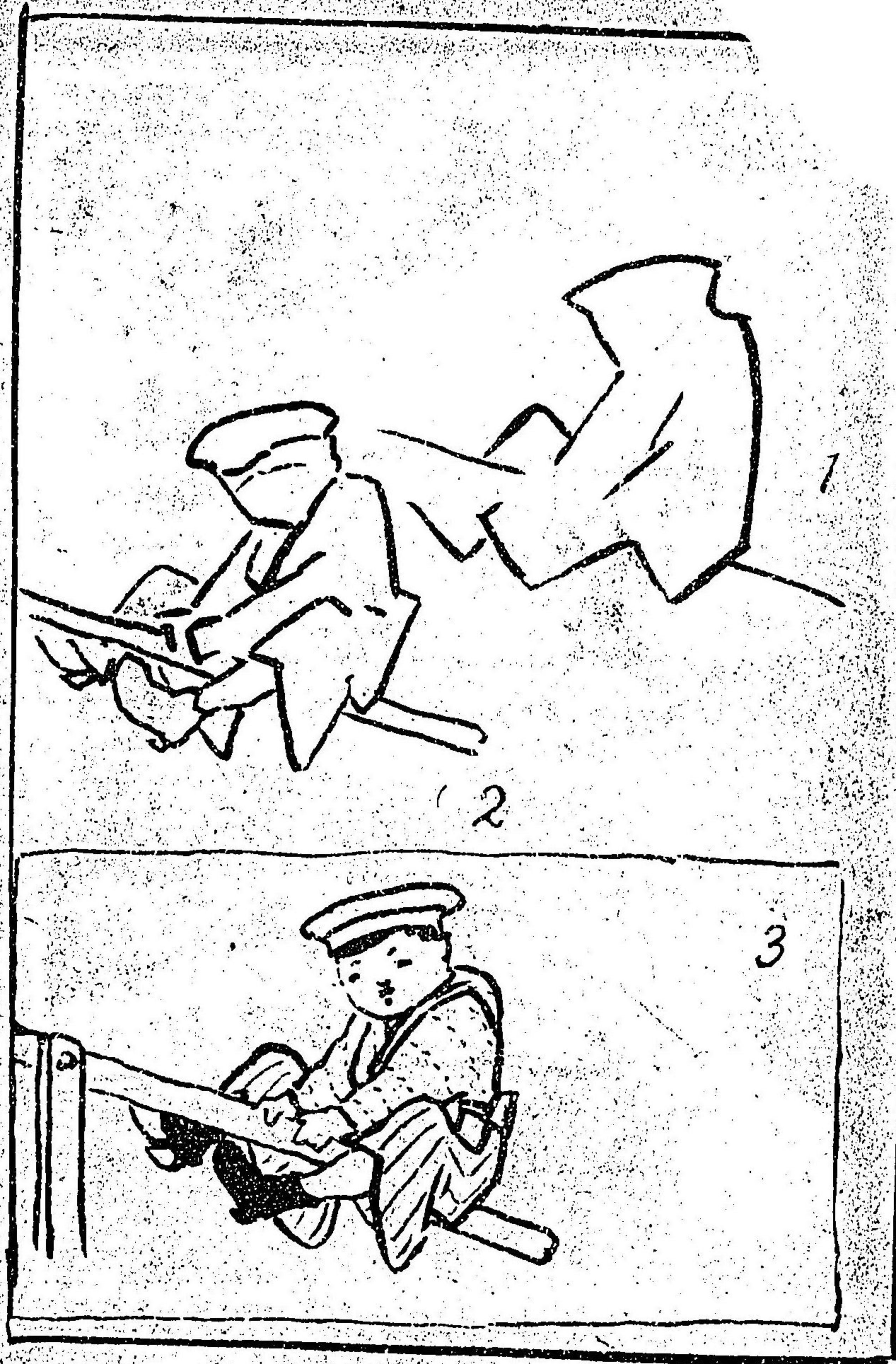


2



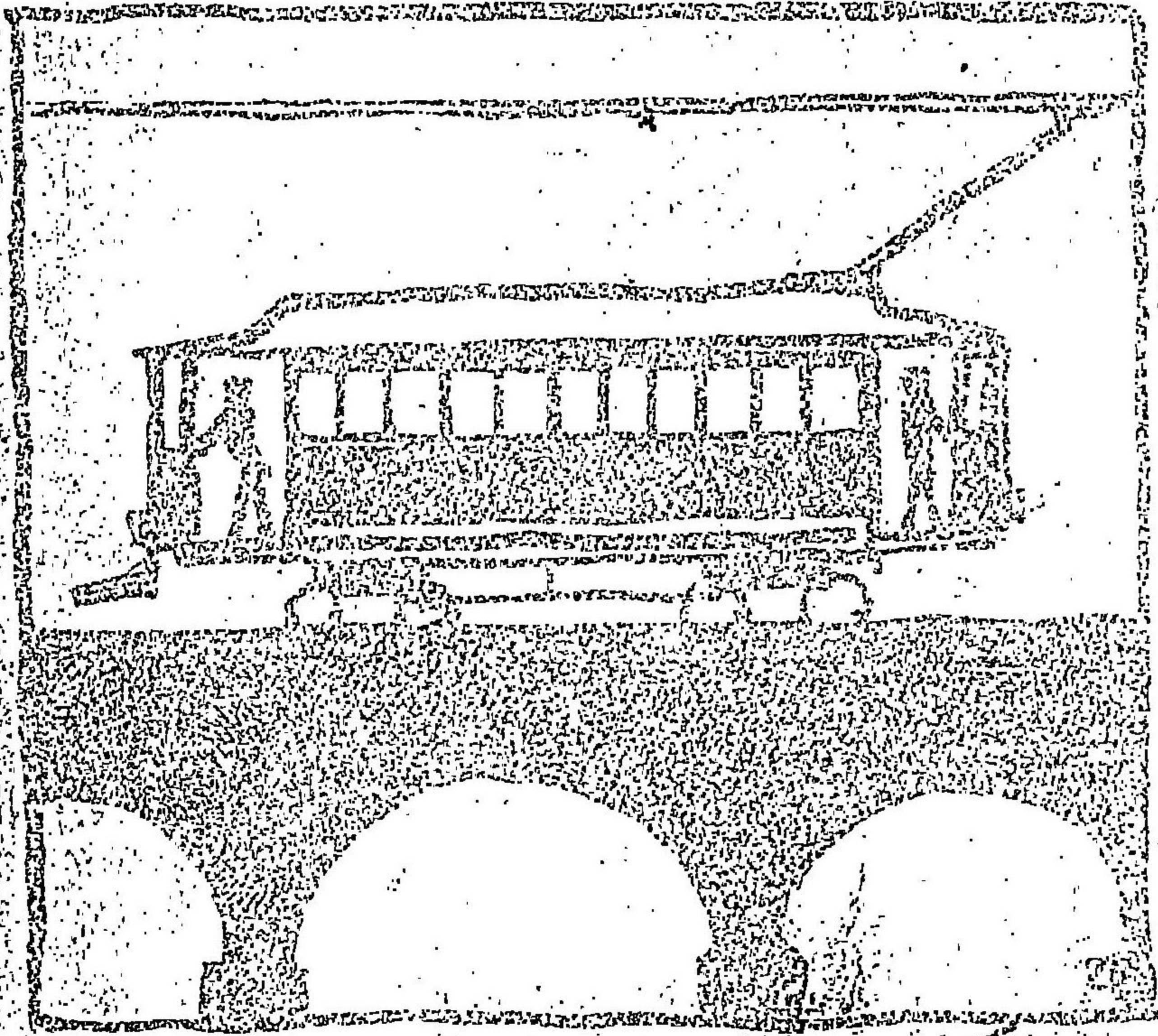


汽  
車

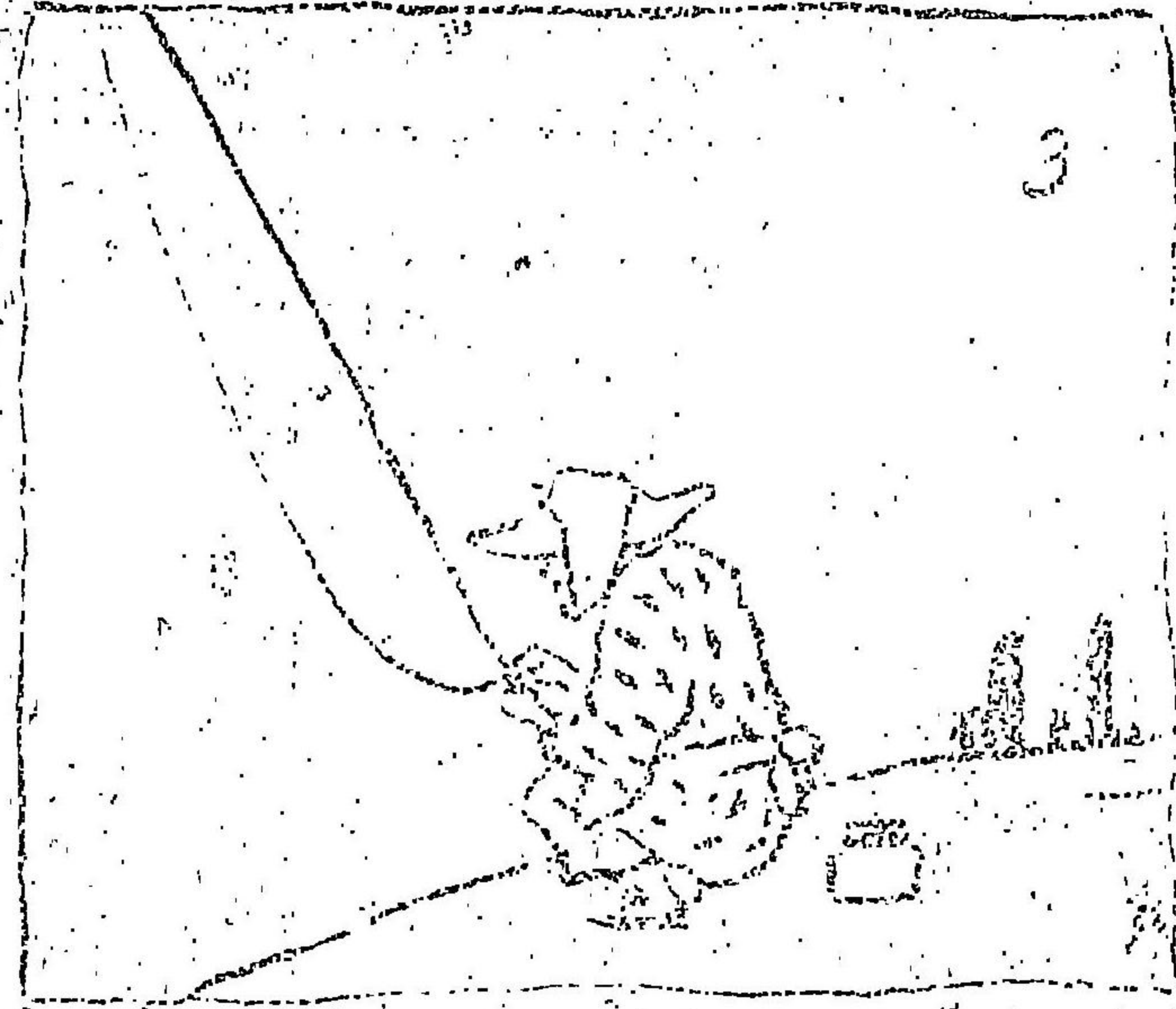
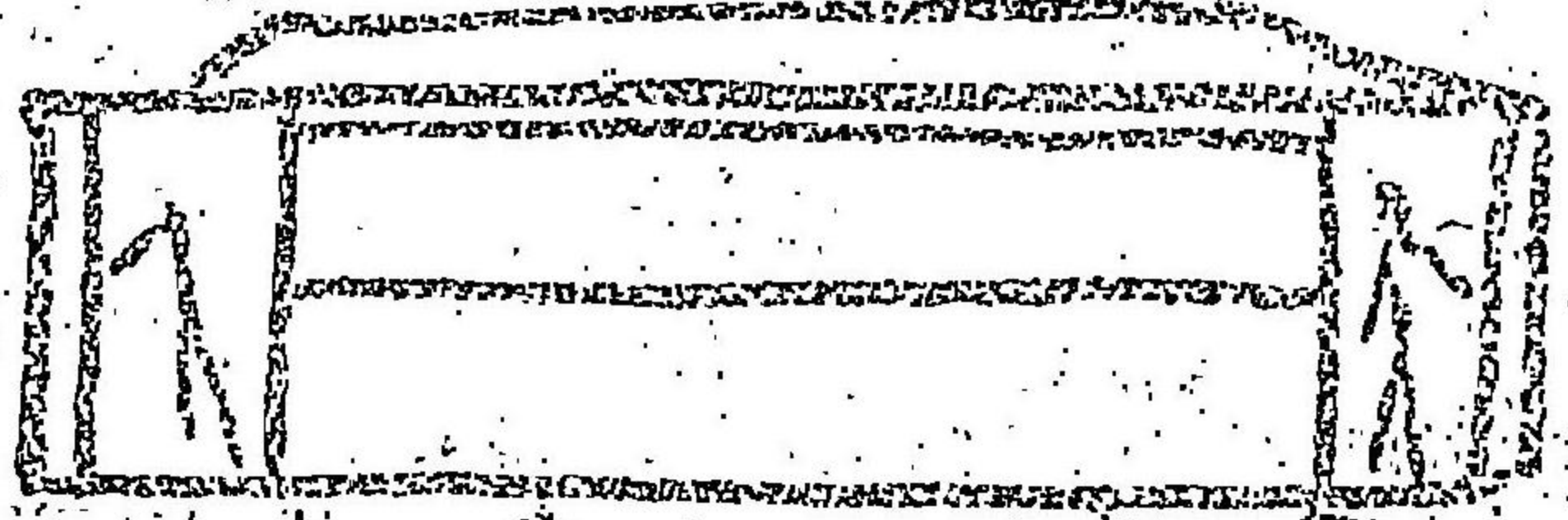


1  
2  
3



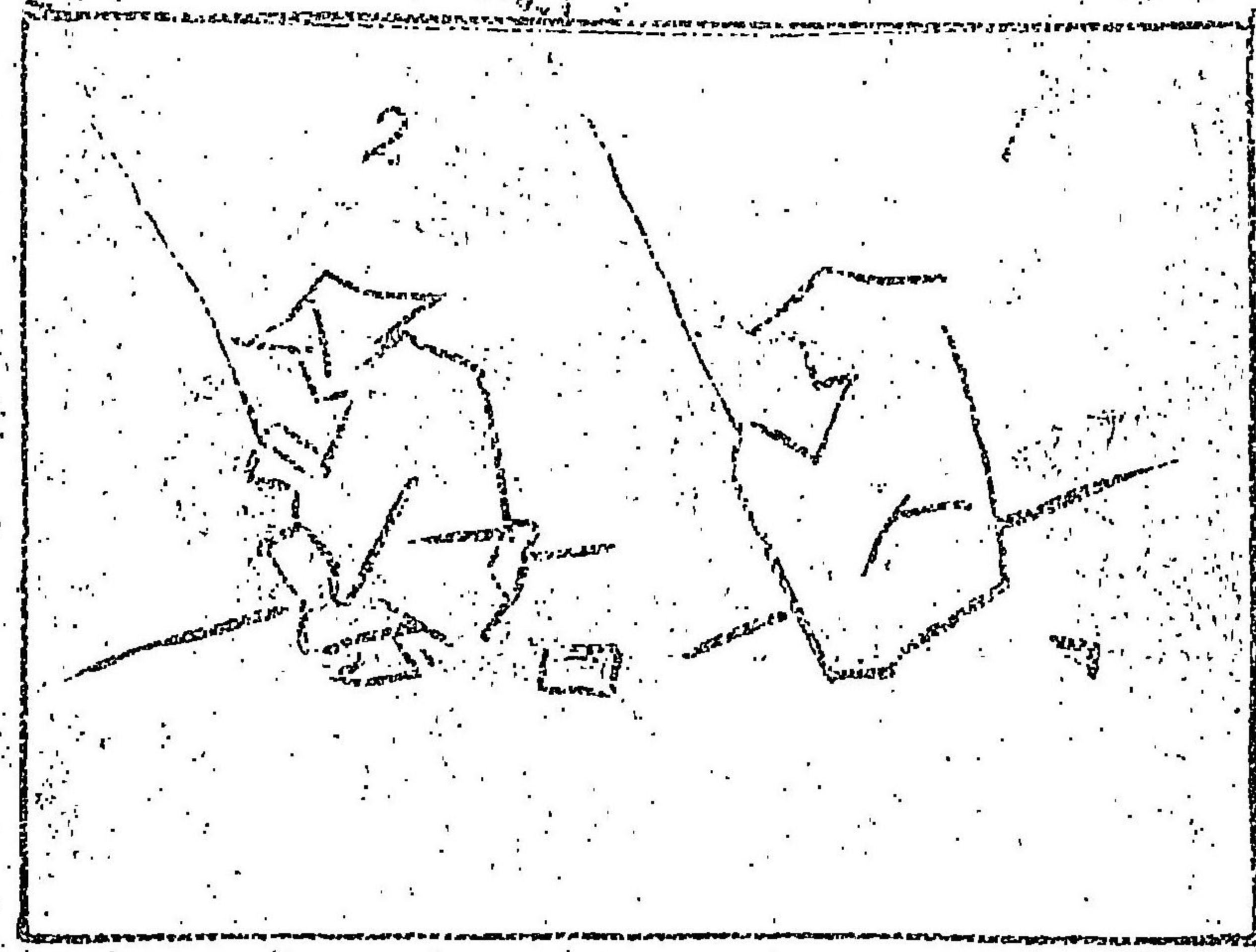


第一册



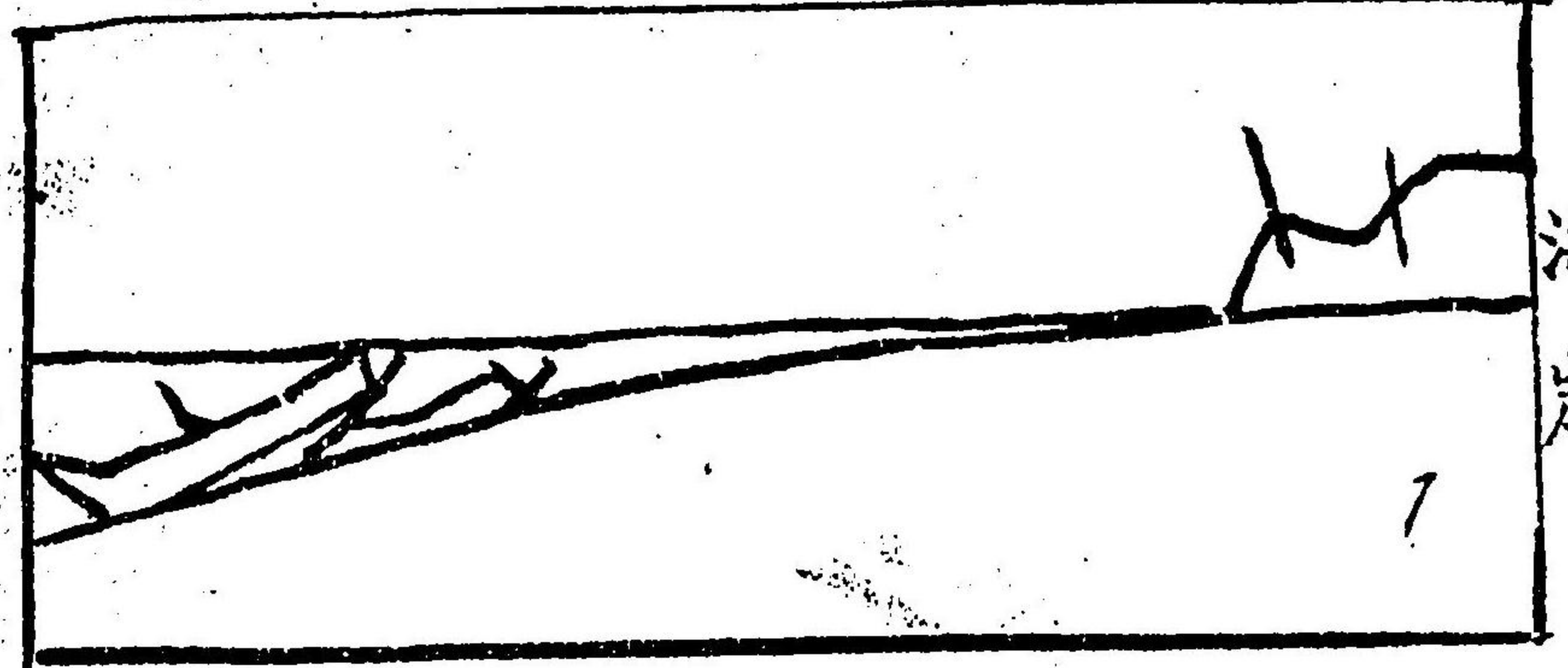
3

約人

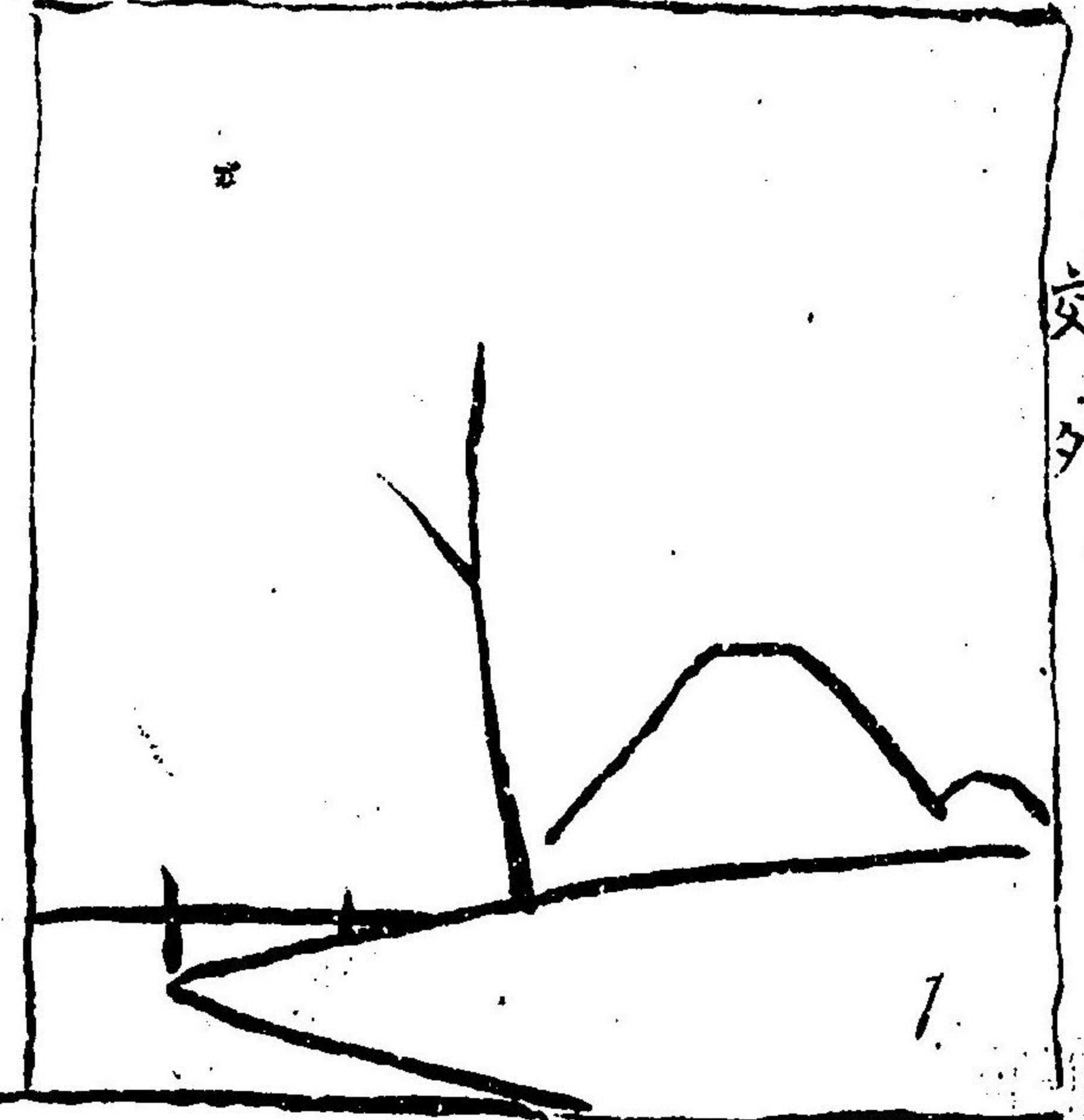
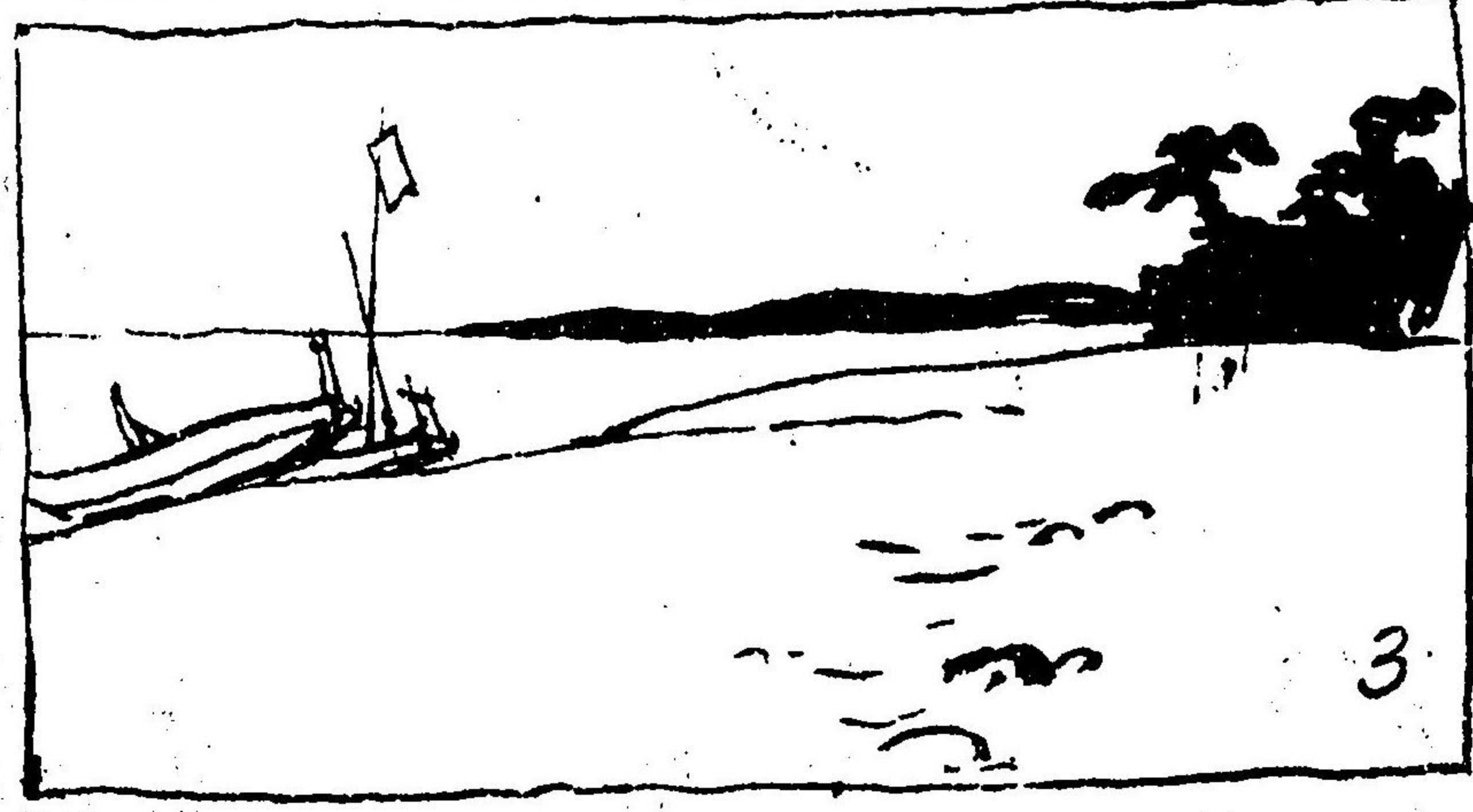
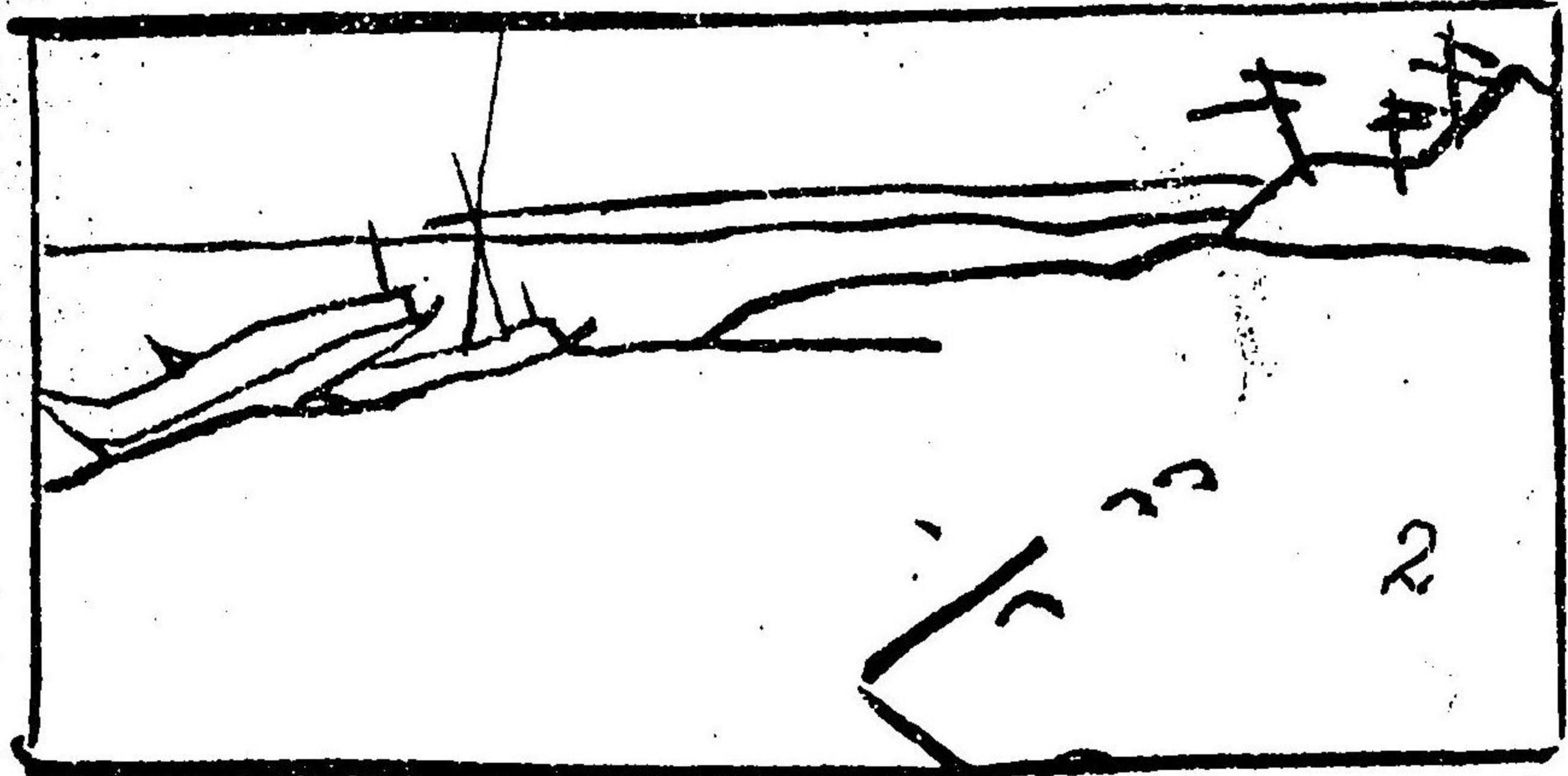


2

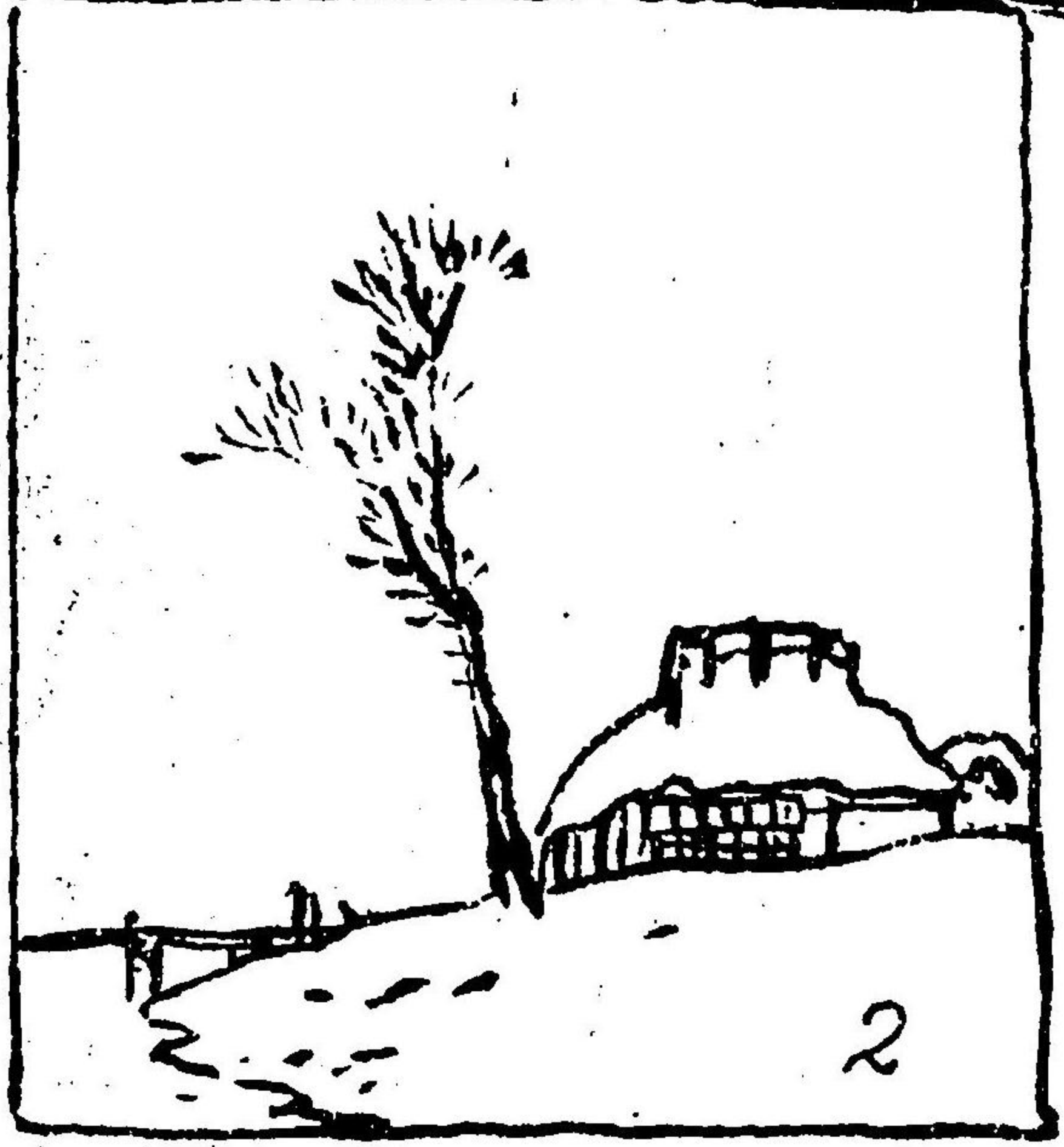




海岸



郊外







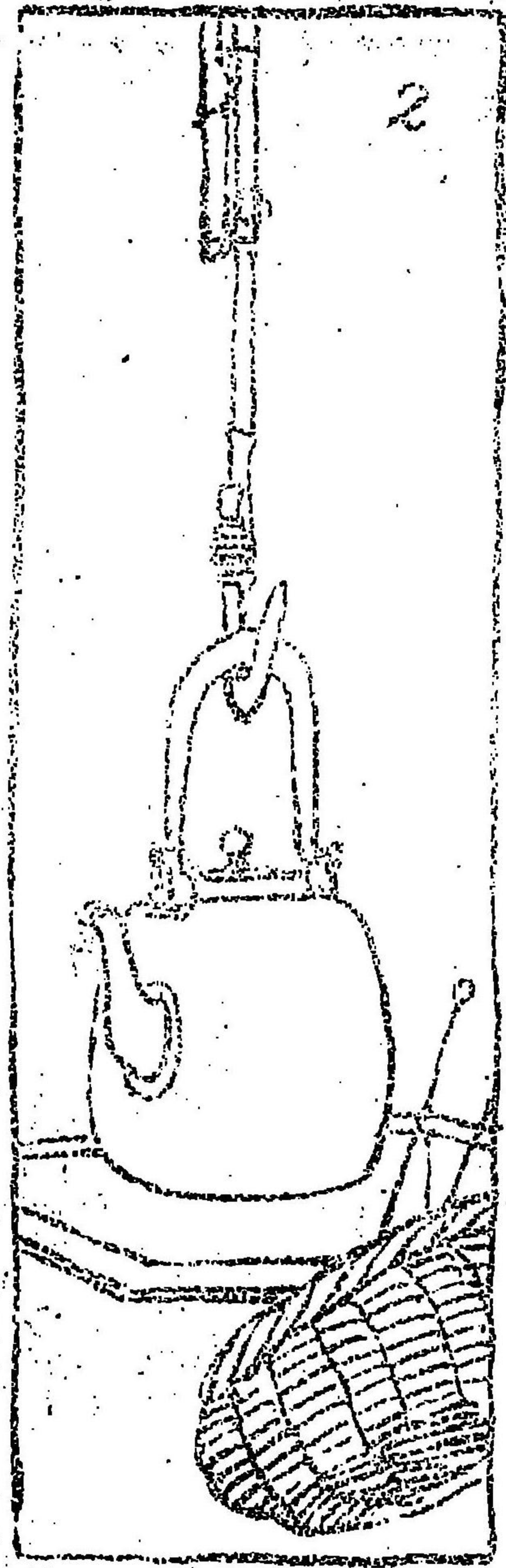
小娘



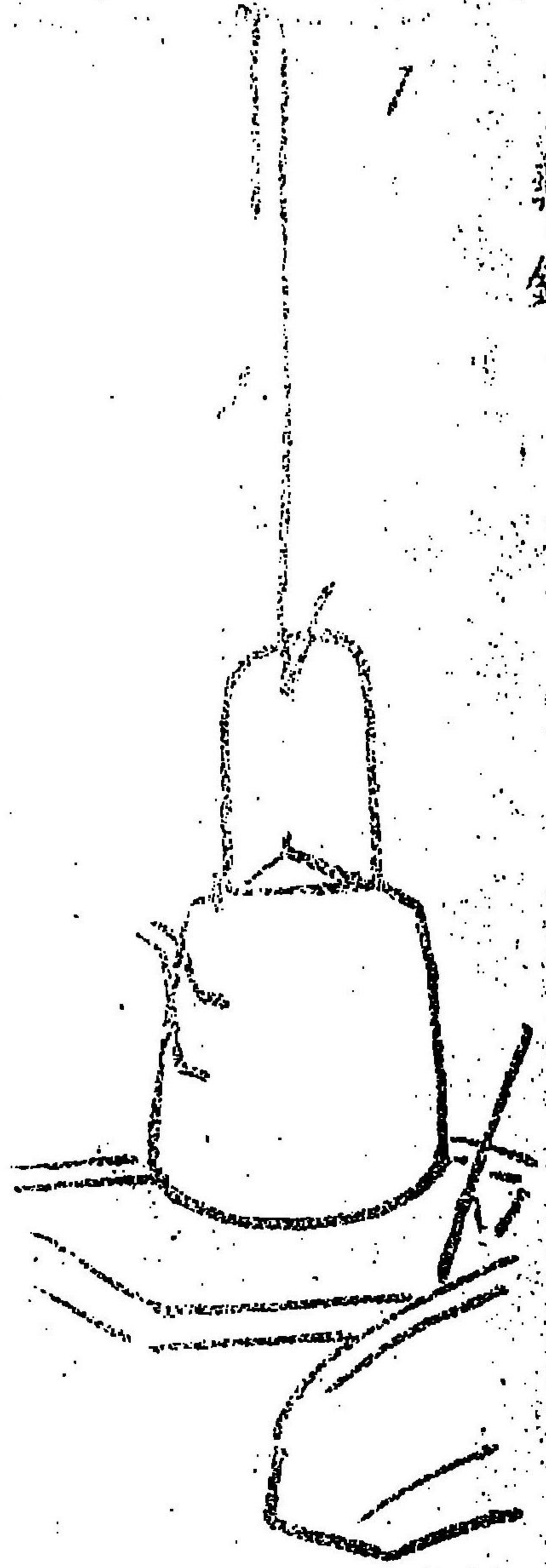
右歸



3



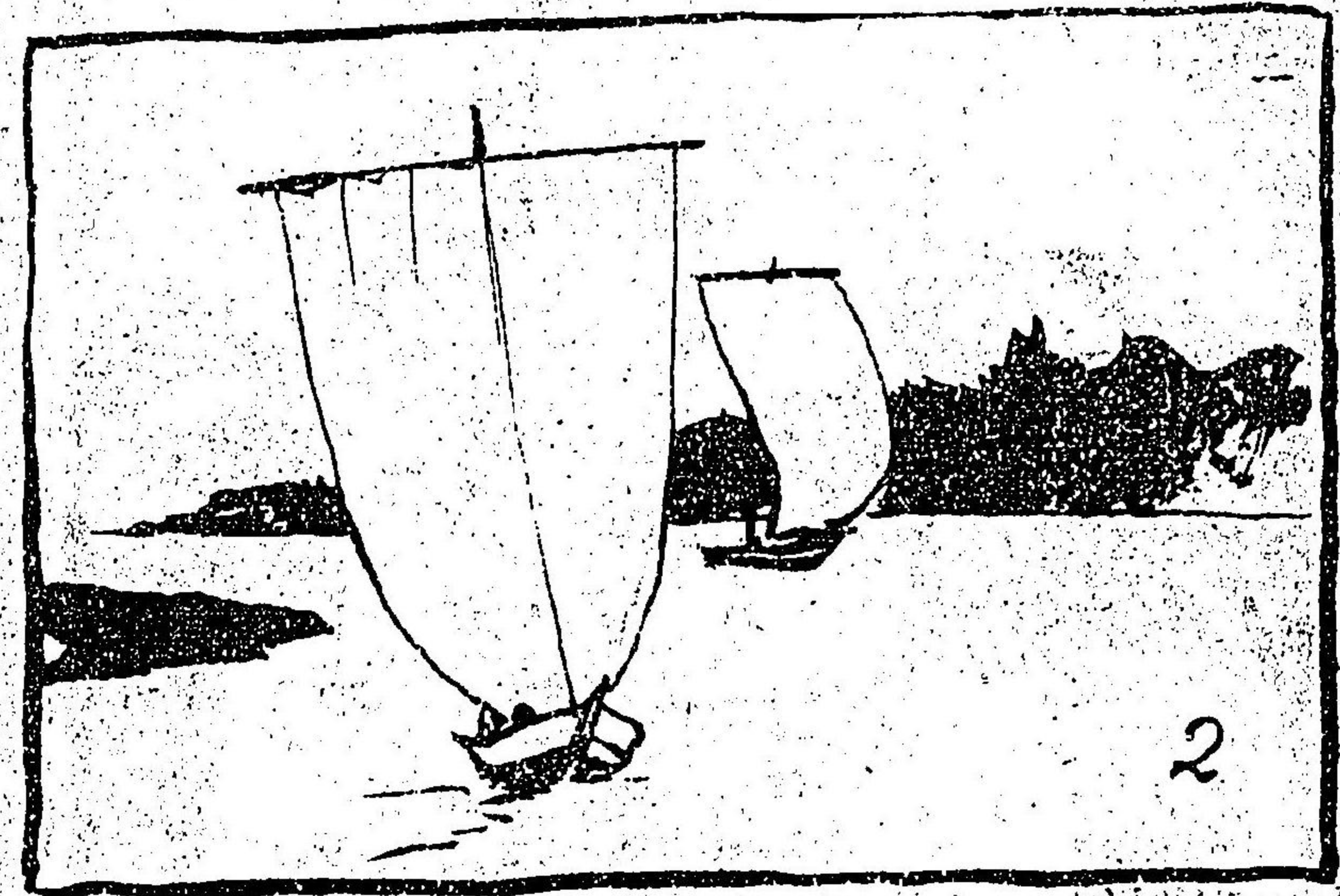
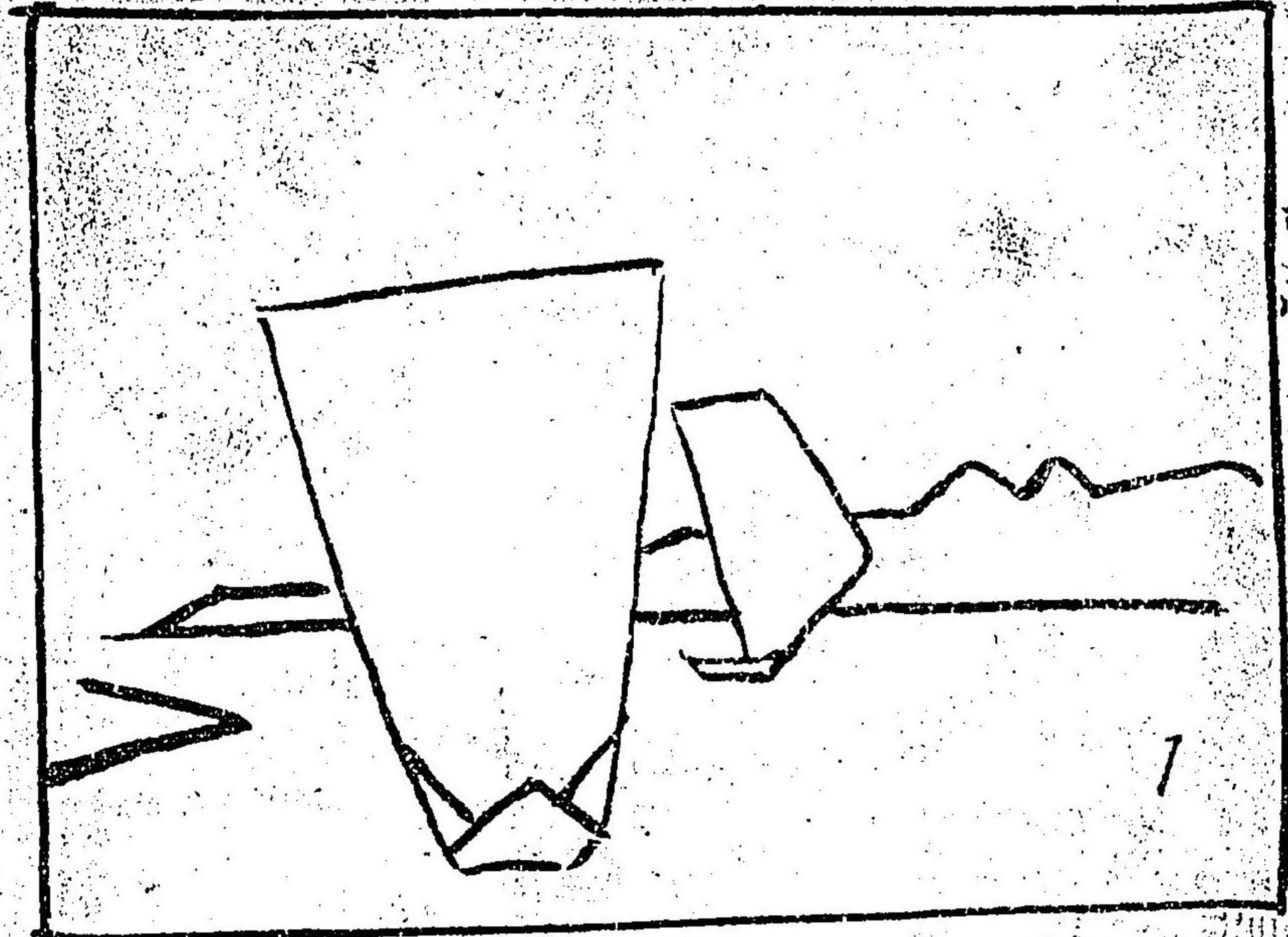
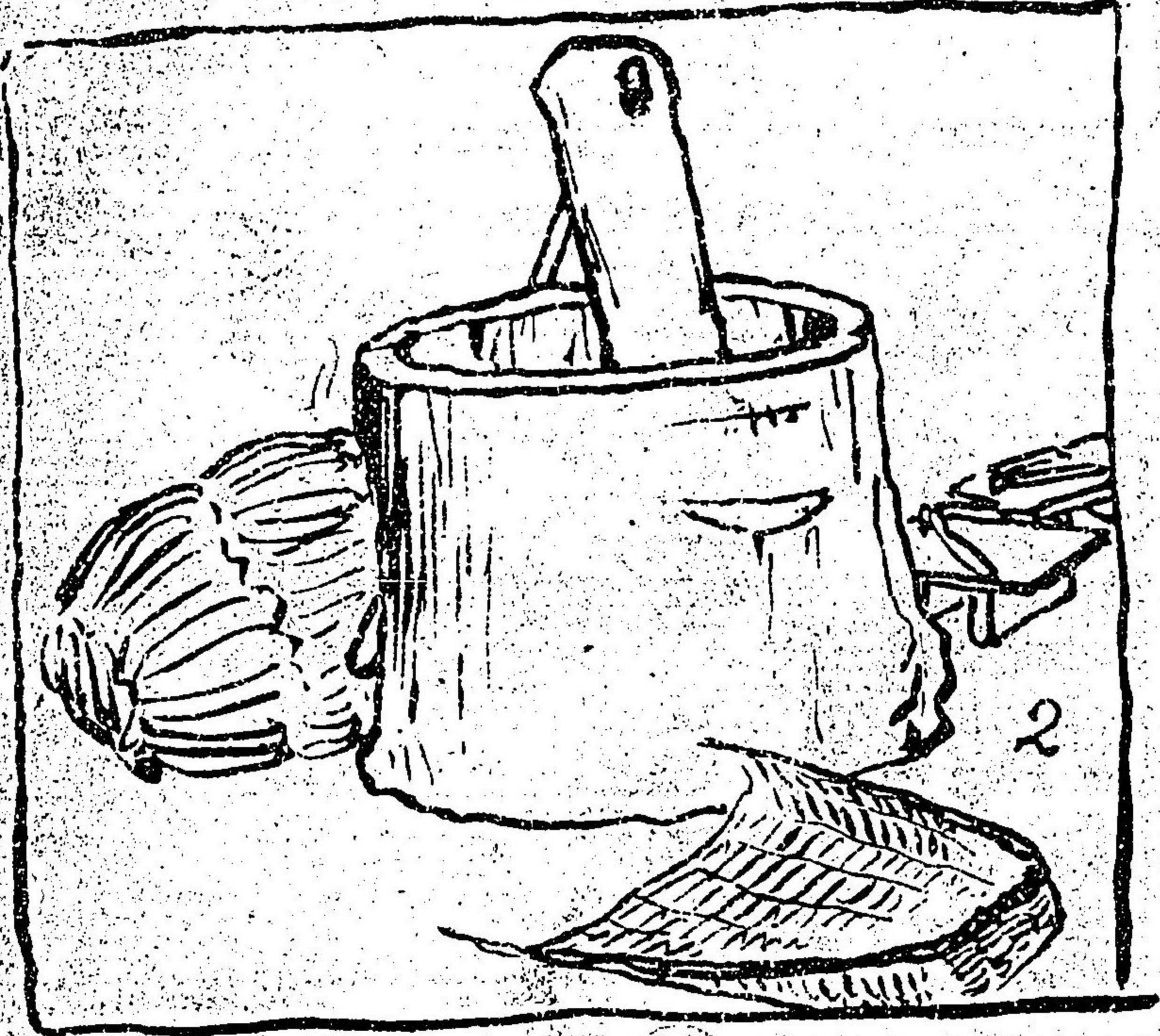
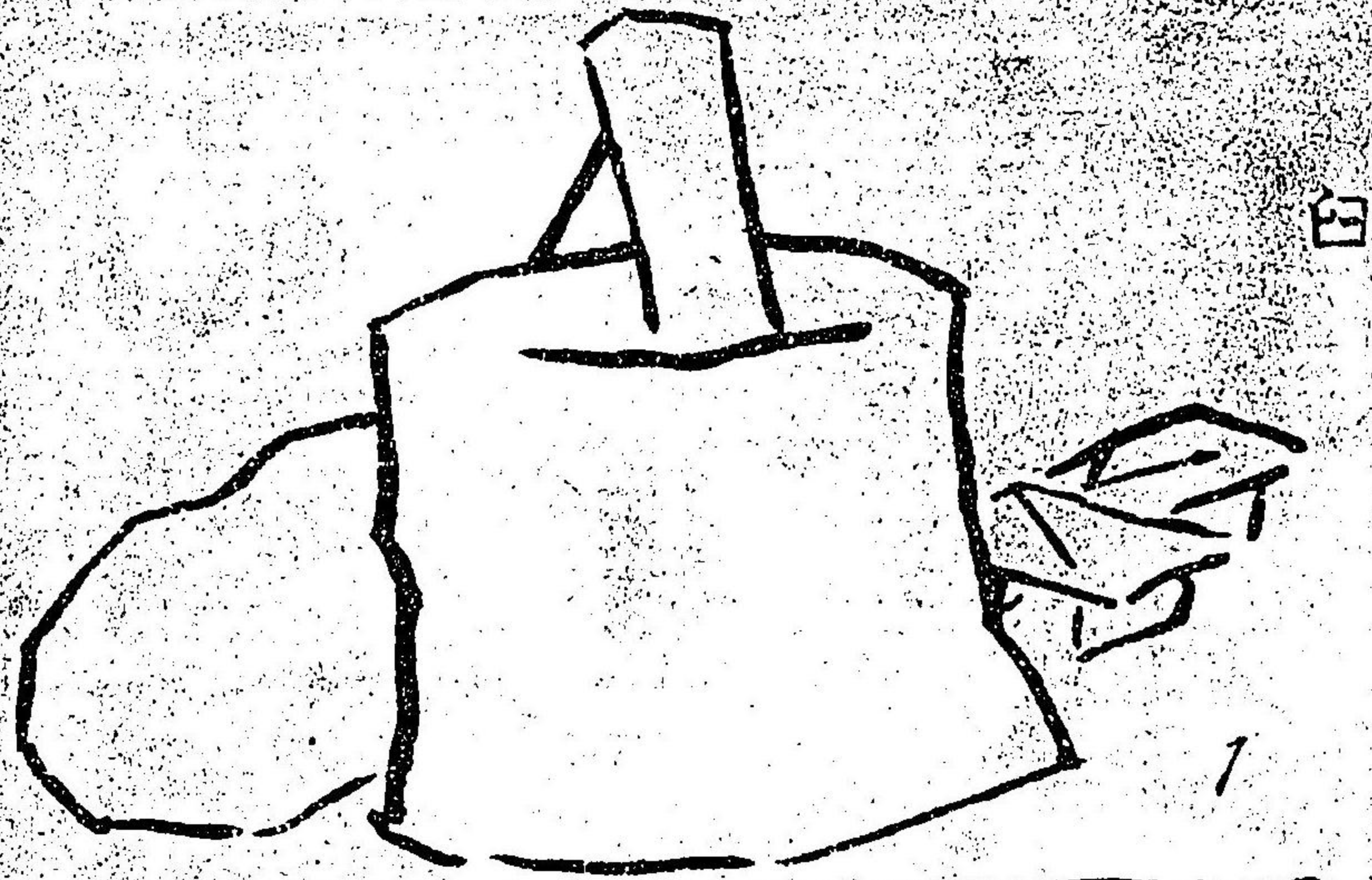
2



7

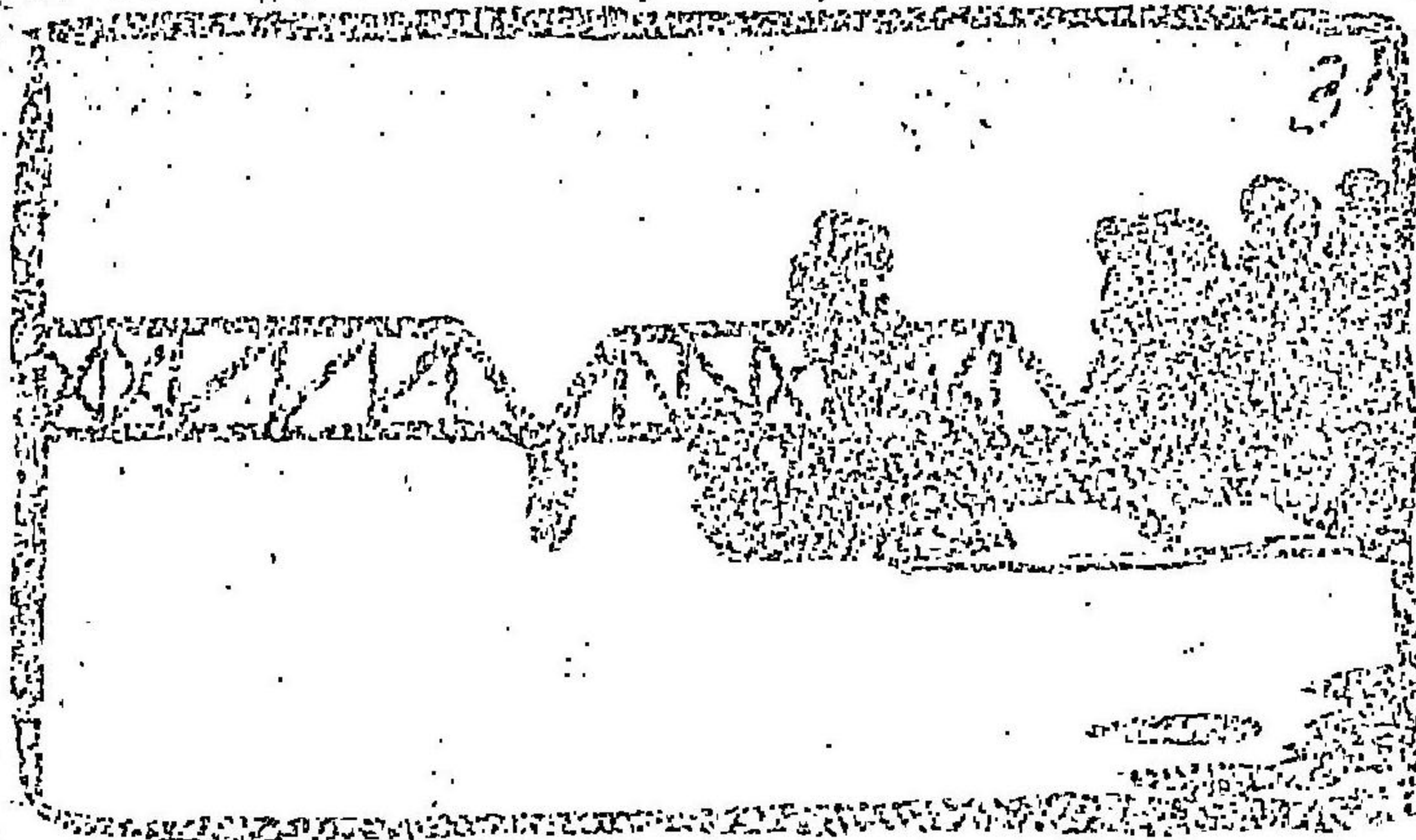
茶鐘



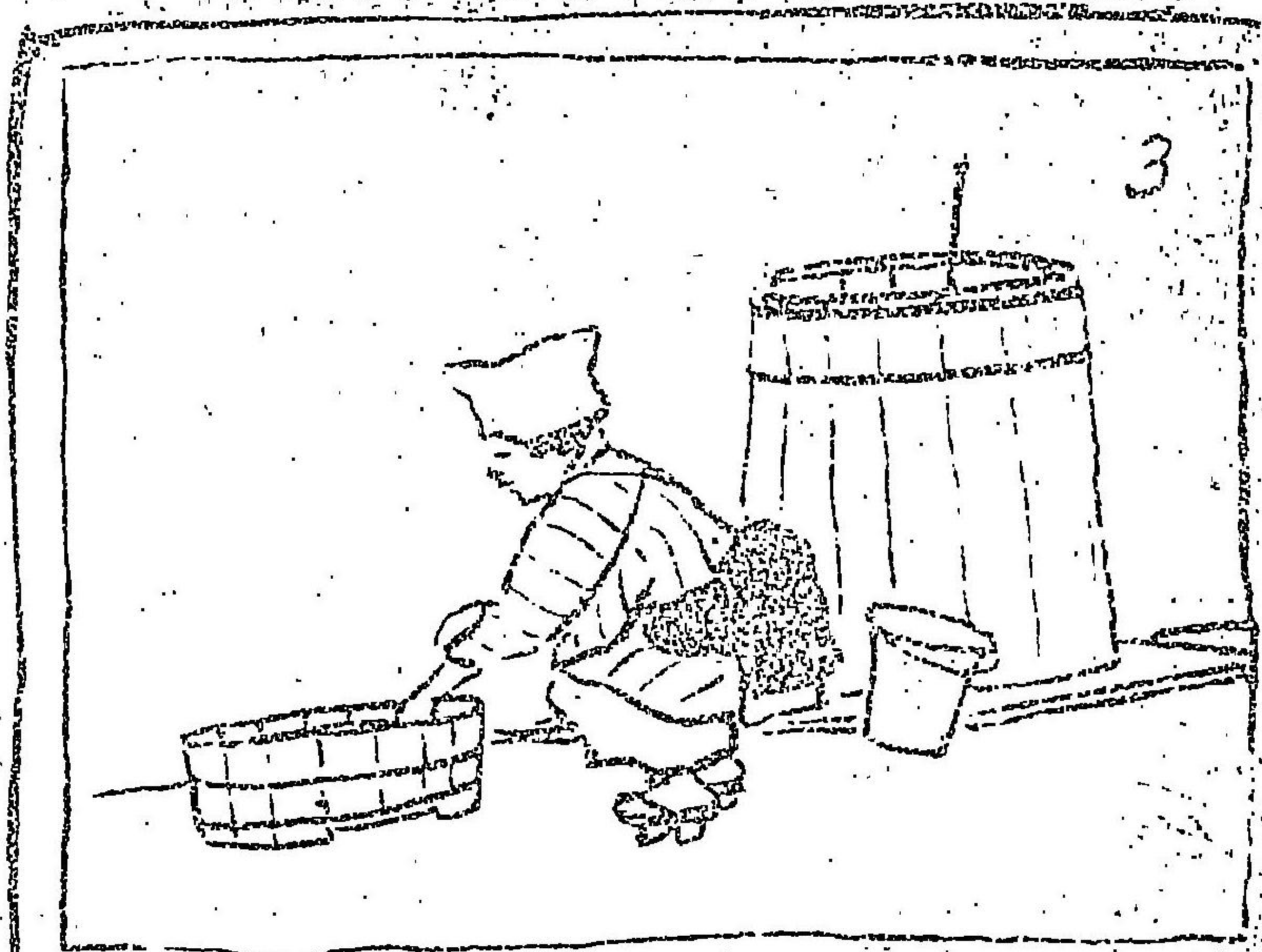
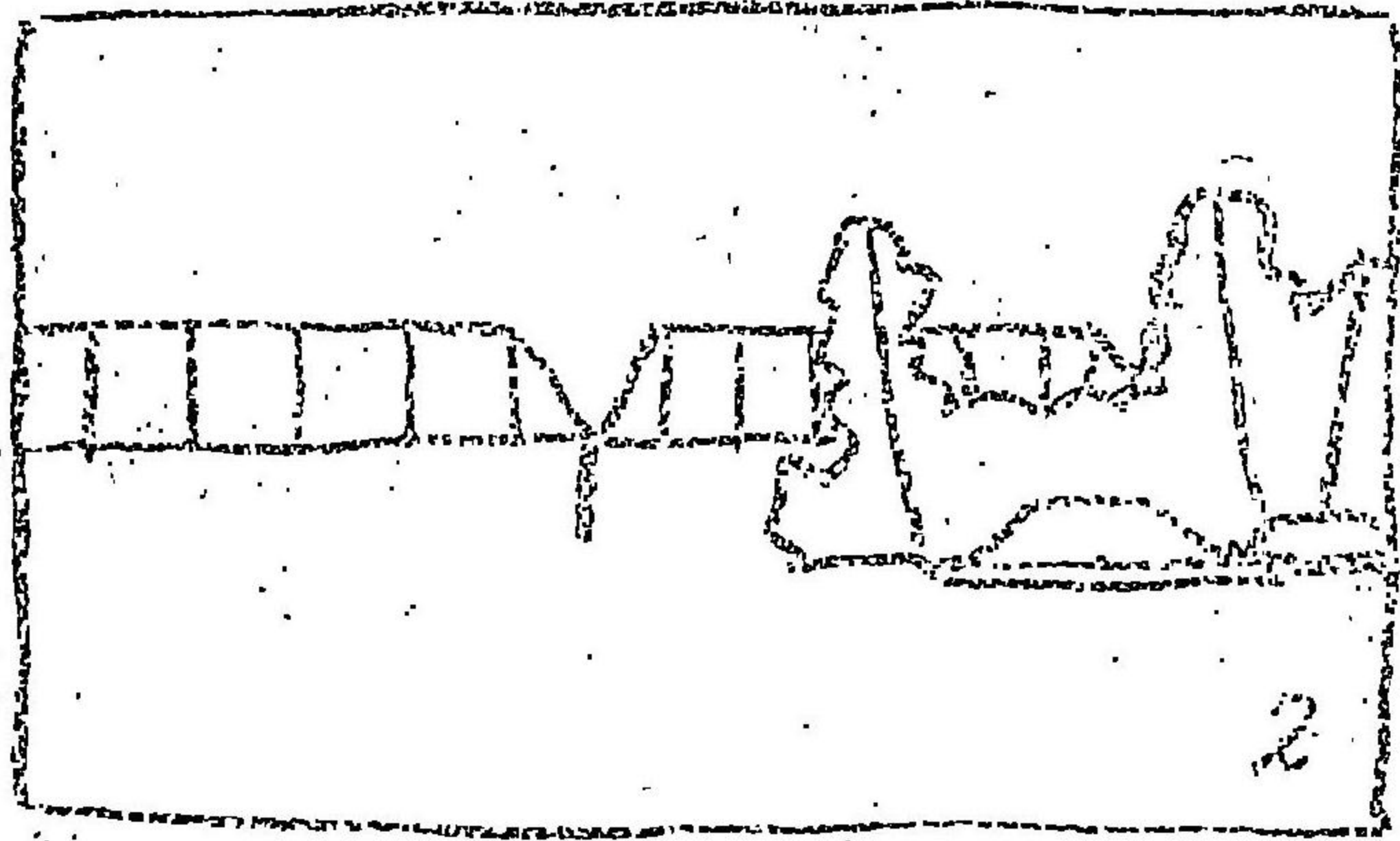
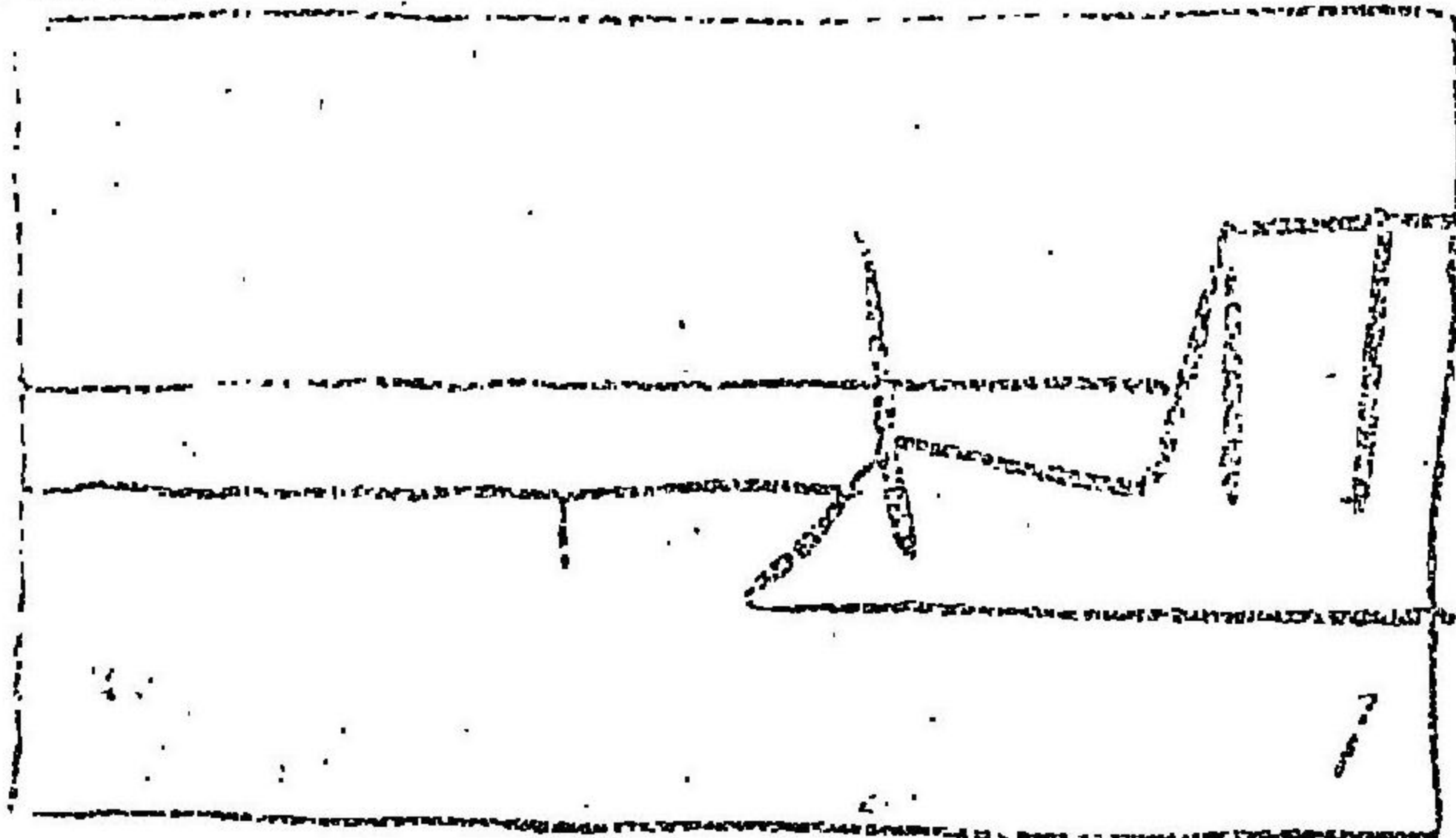


白帆

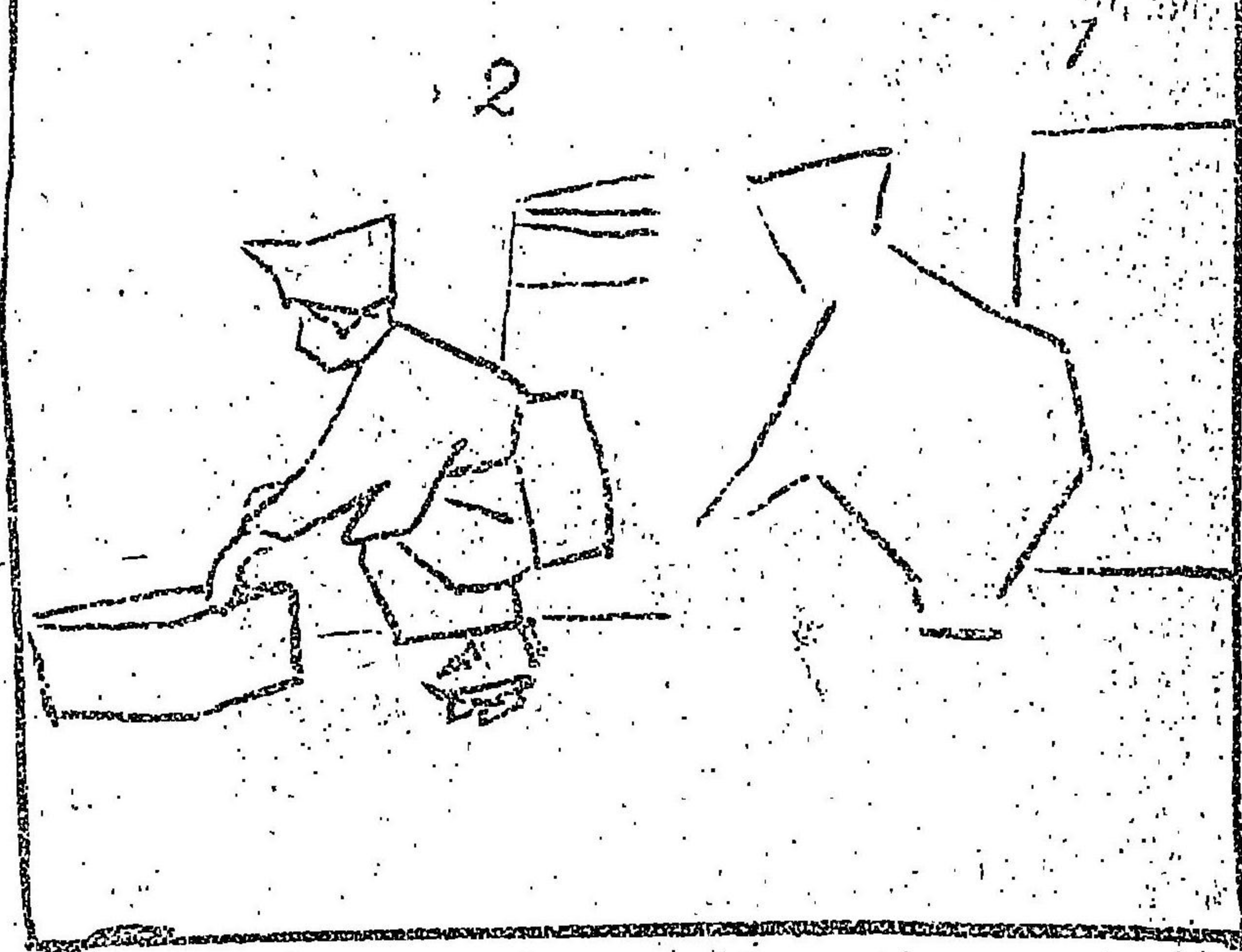




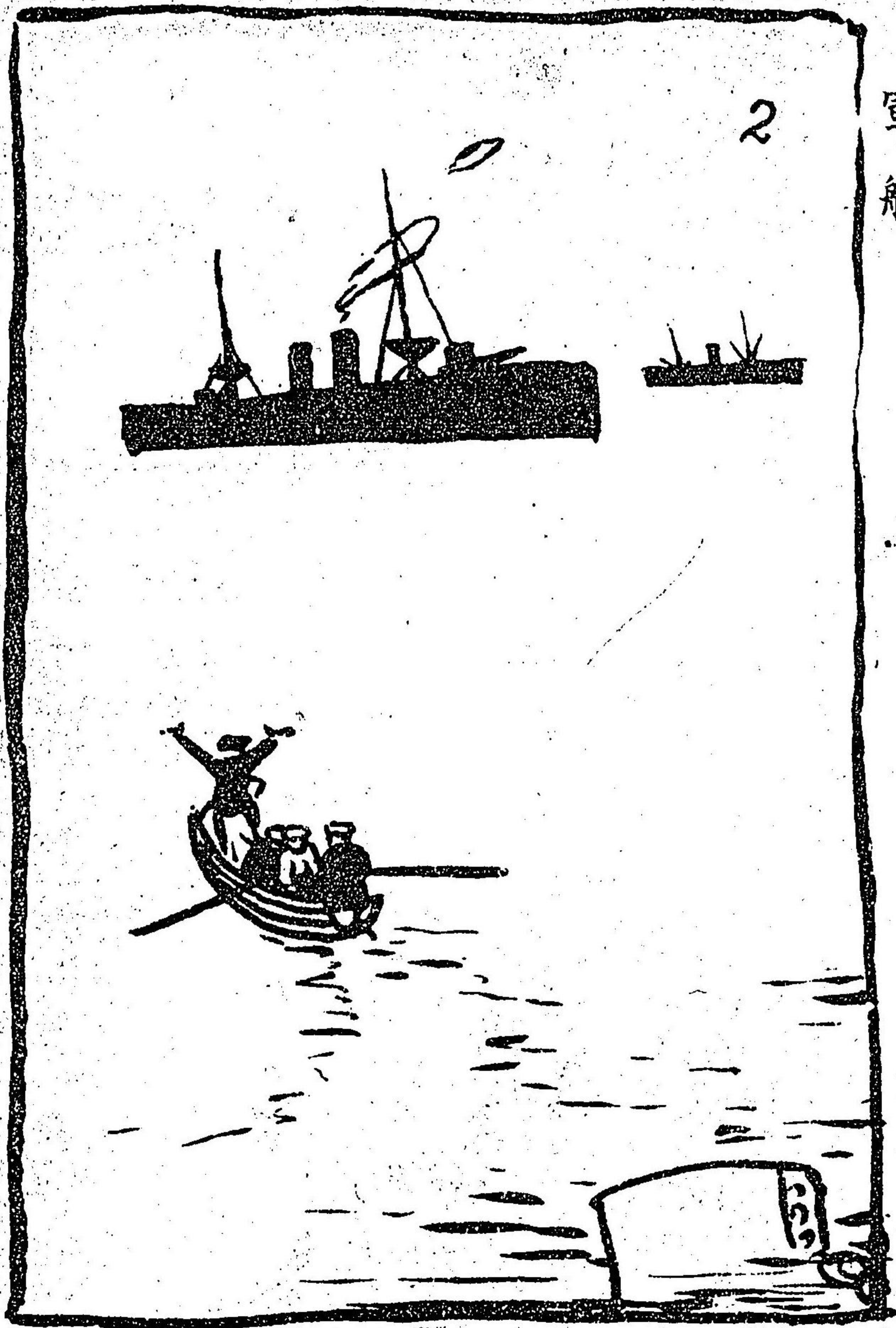
鐵橋



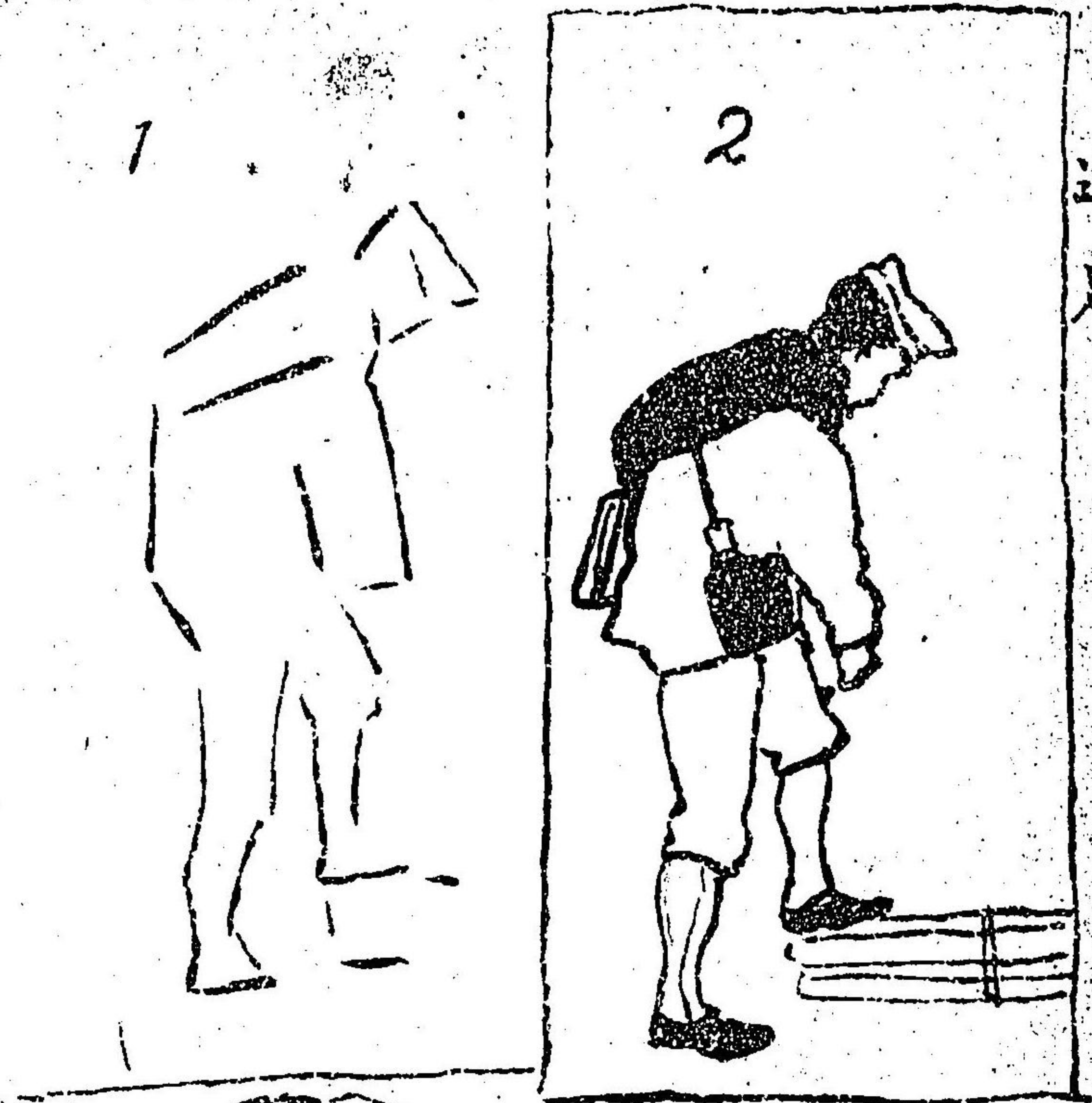
洗濯







軍艦

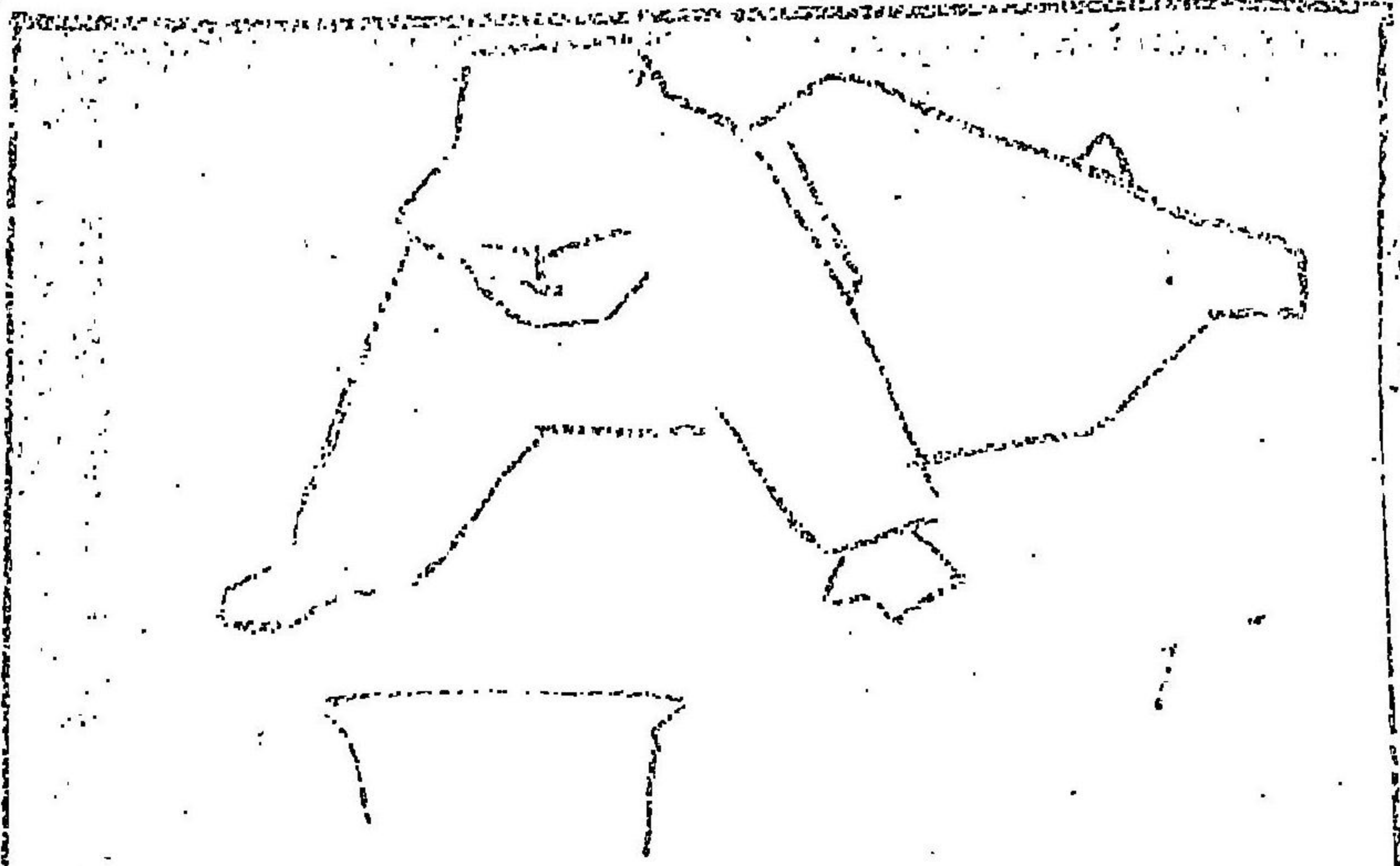


遠足

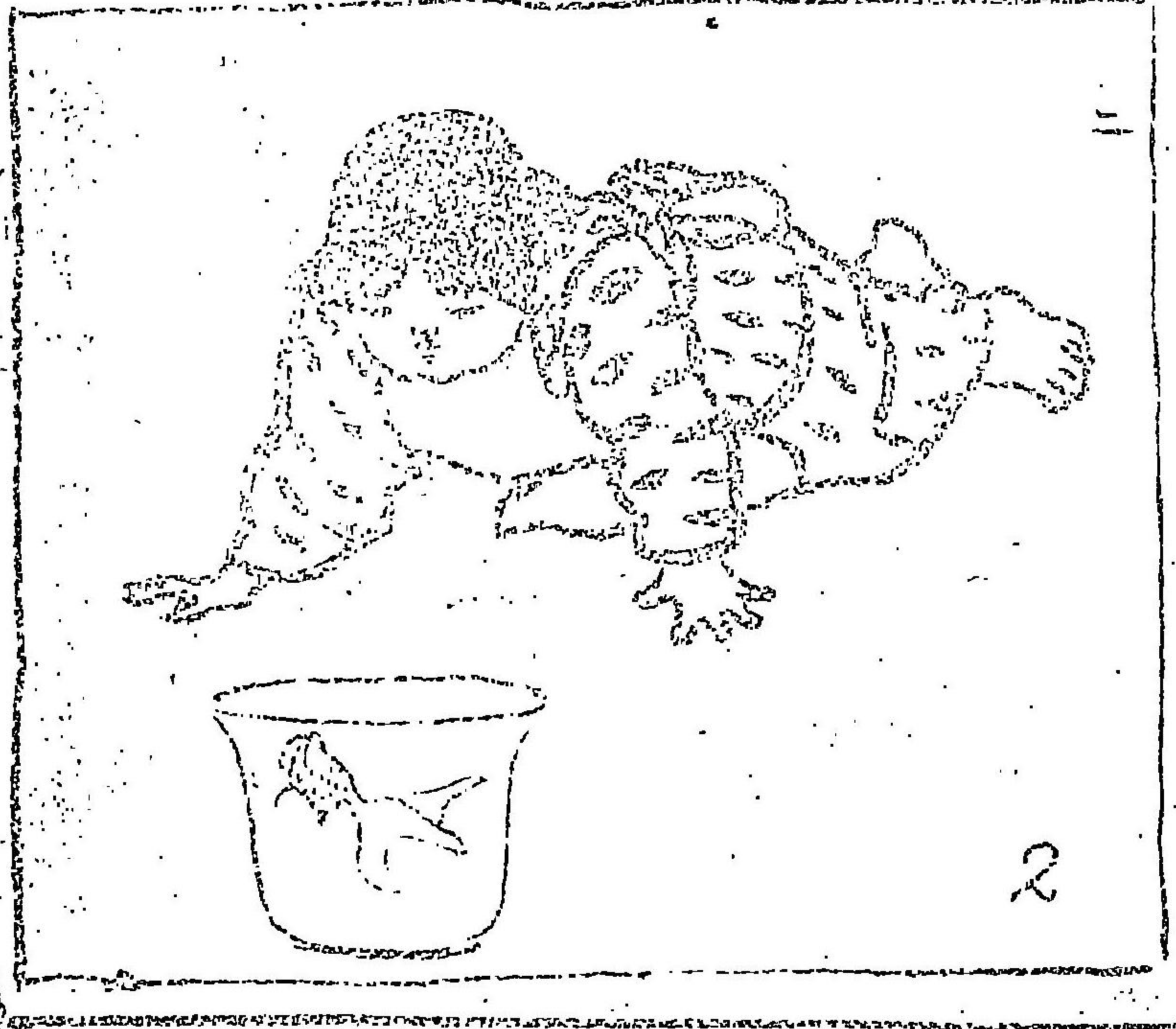


16. 5. 26

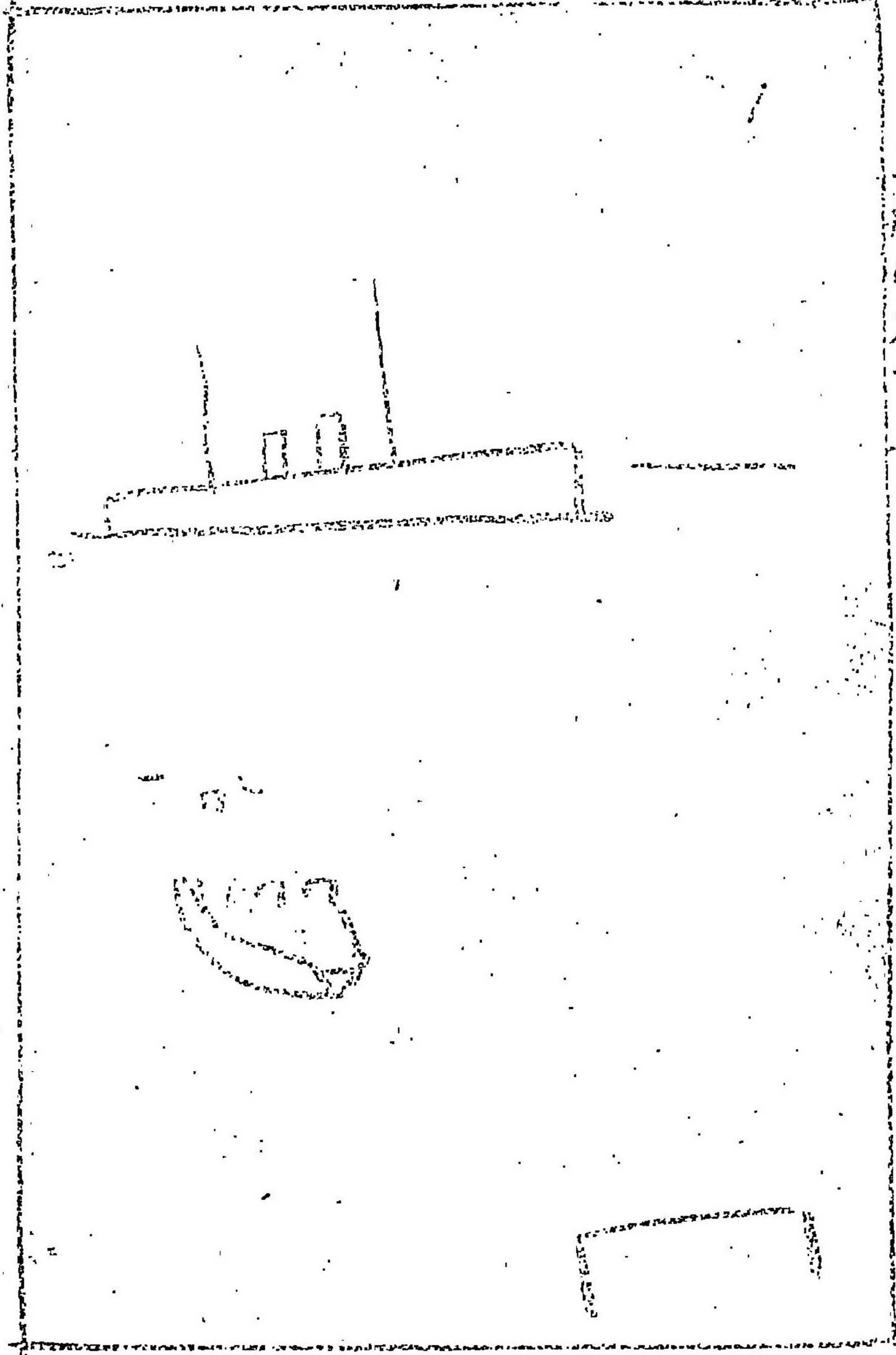




熊



2



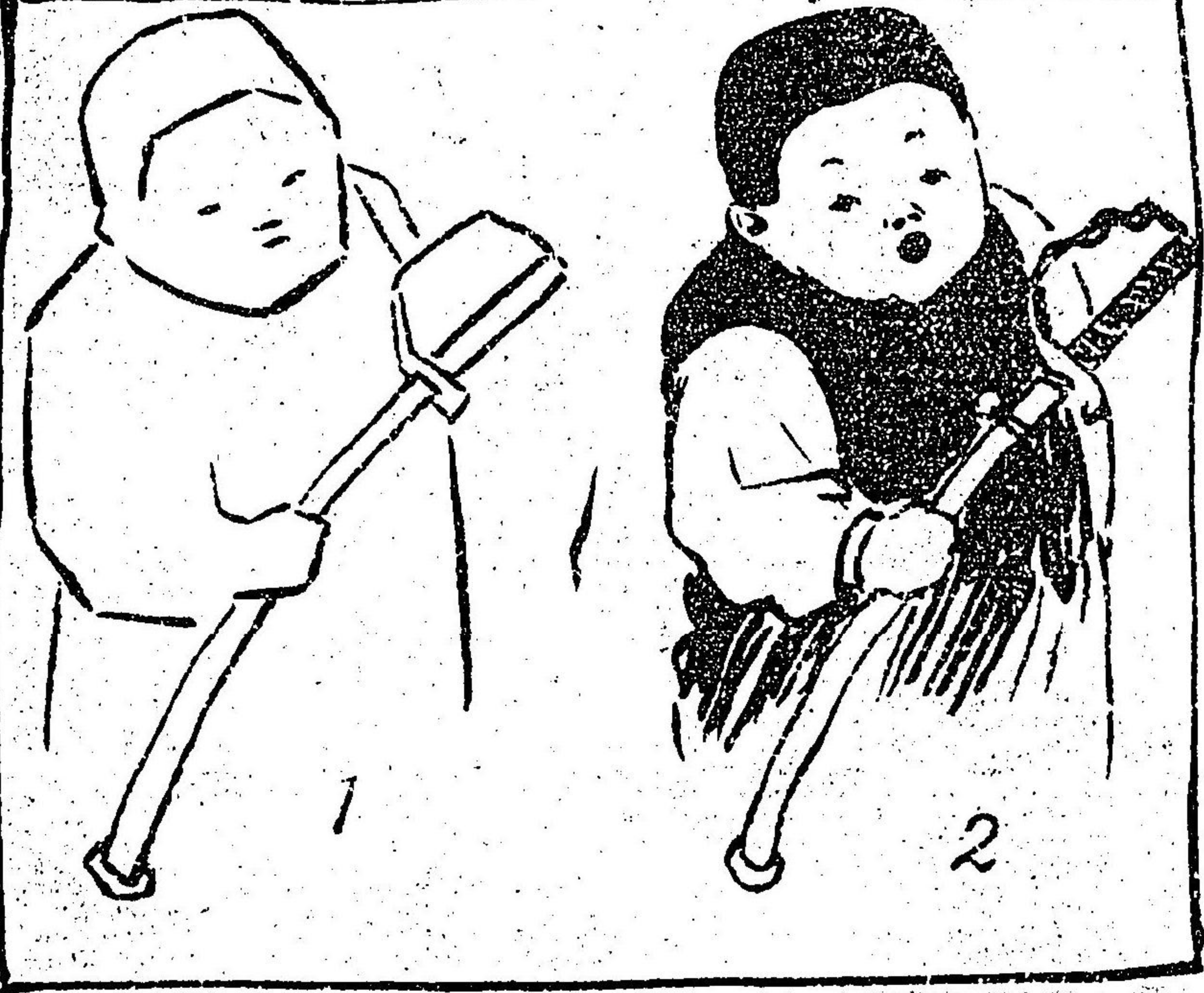
橋



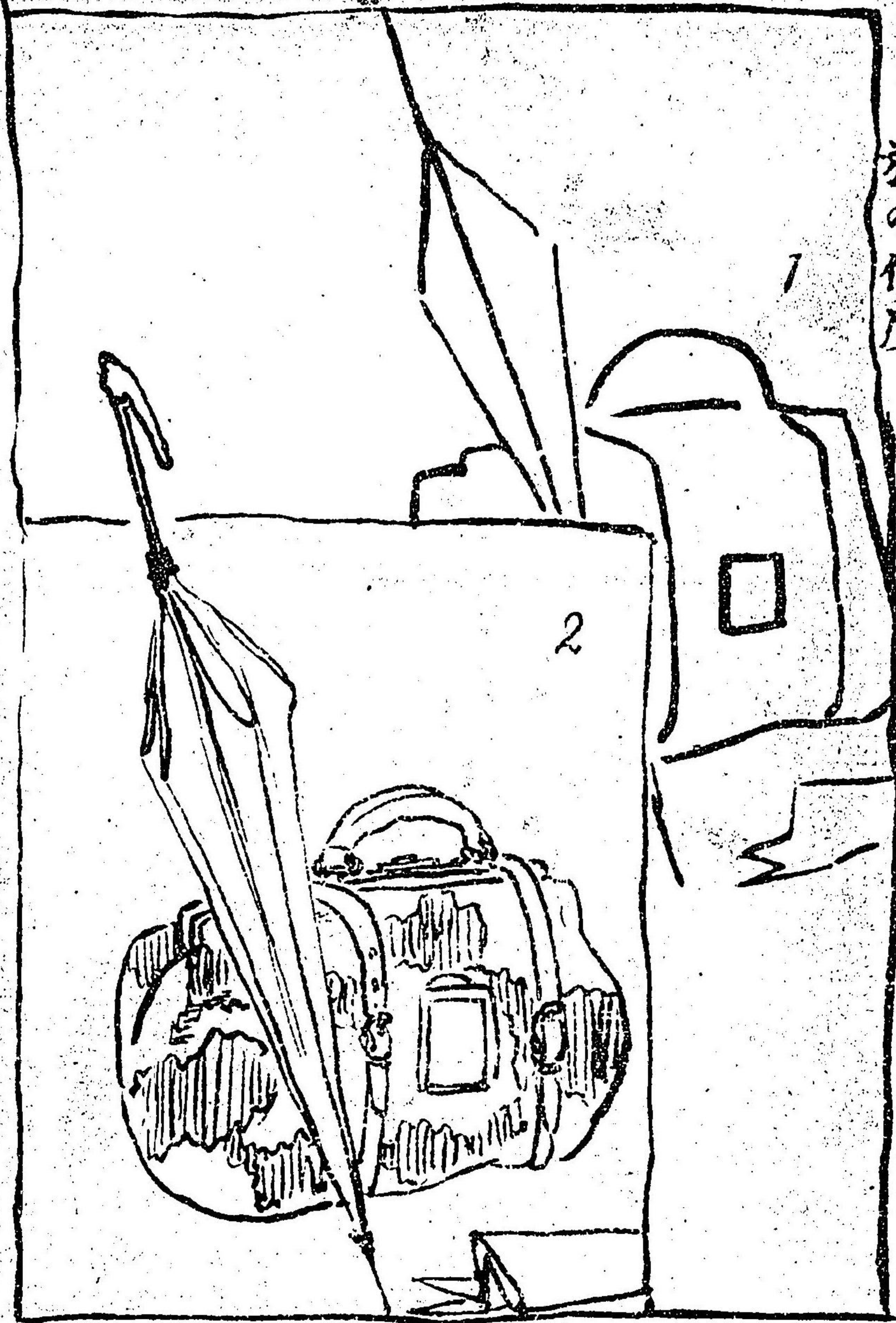


おばあさん

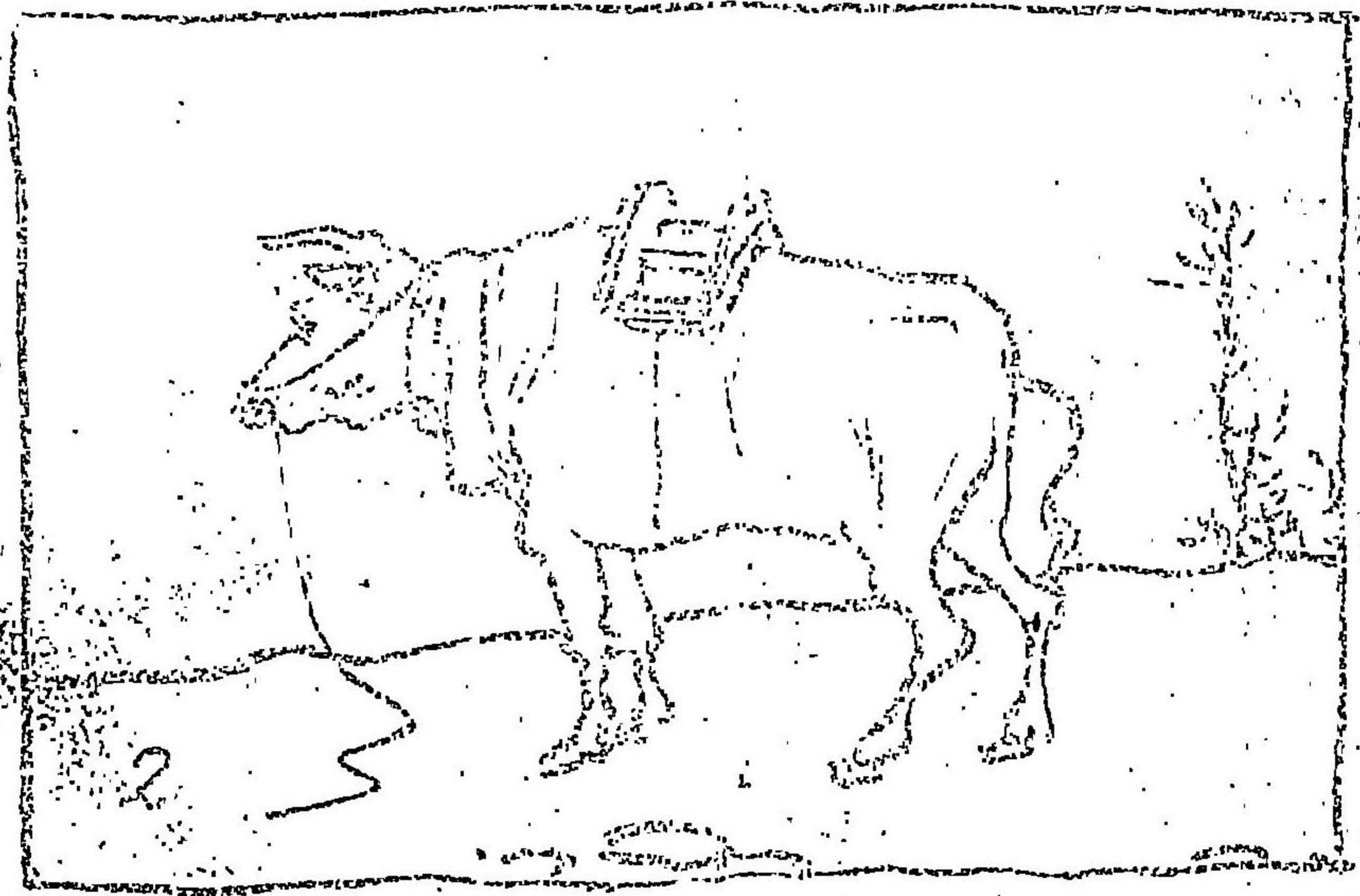
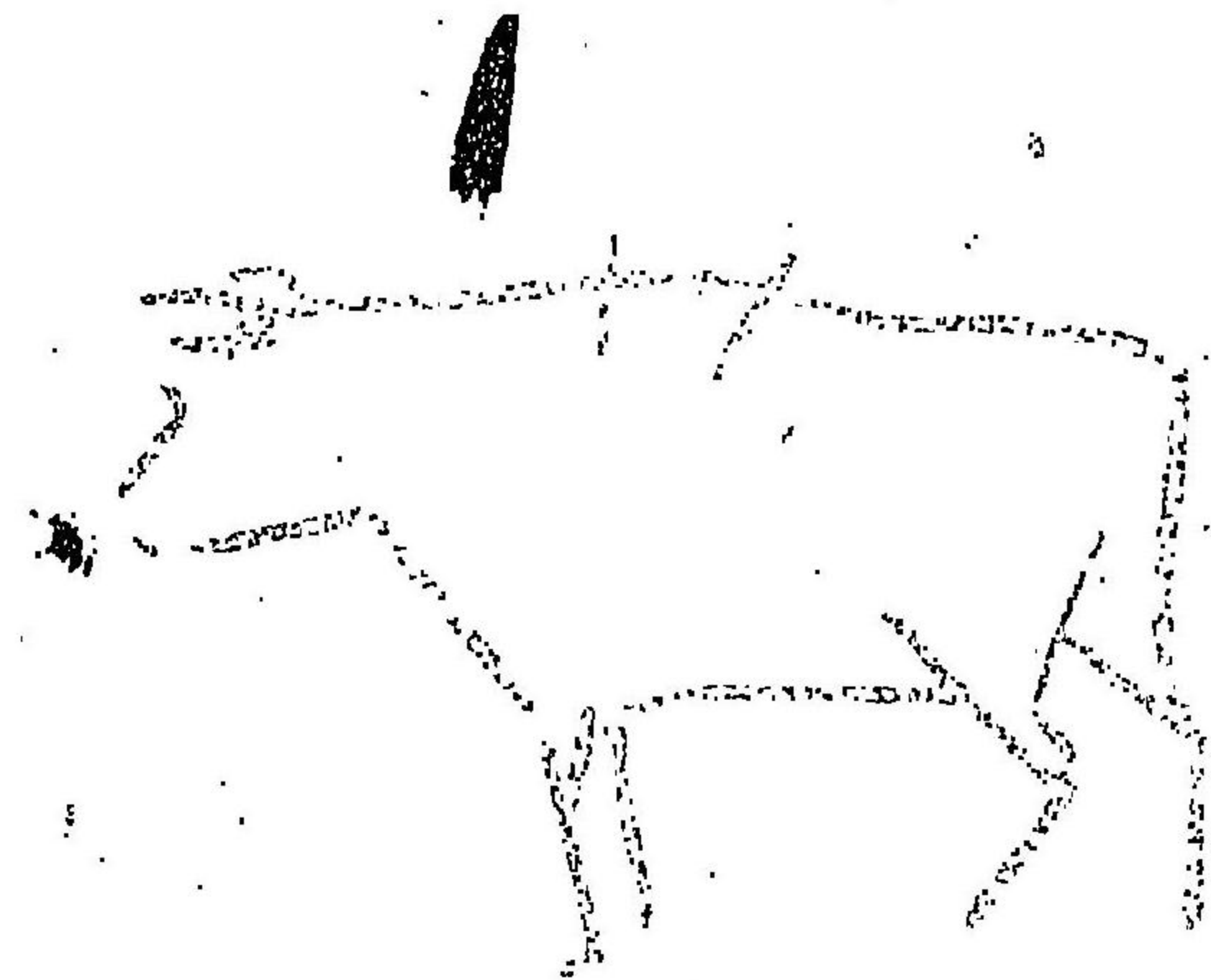
お土産



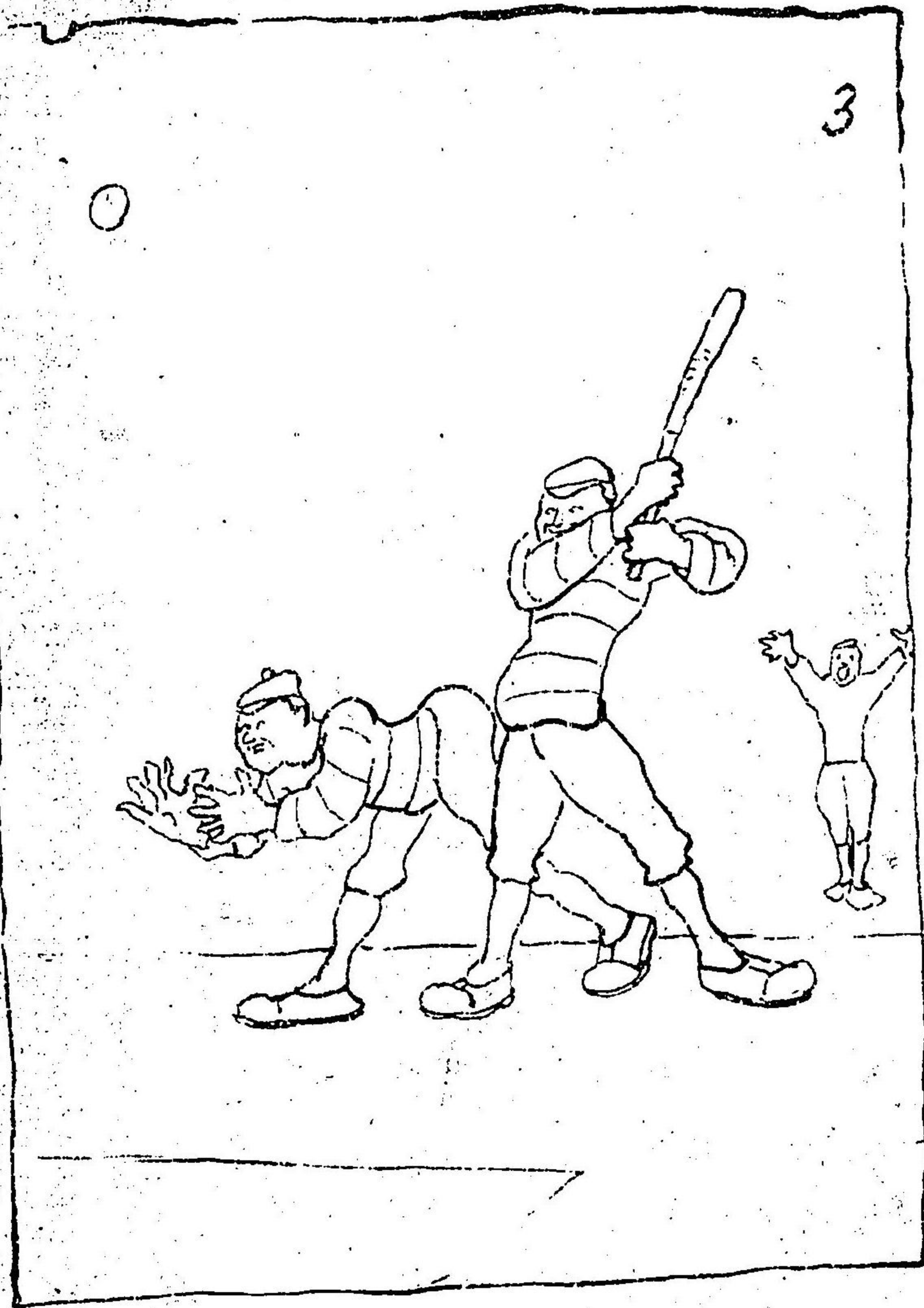
旅の仕度









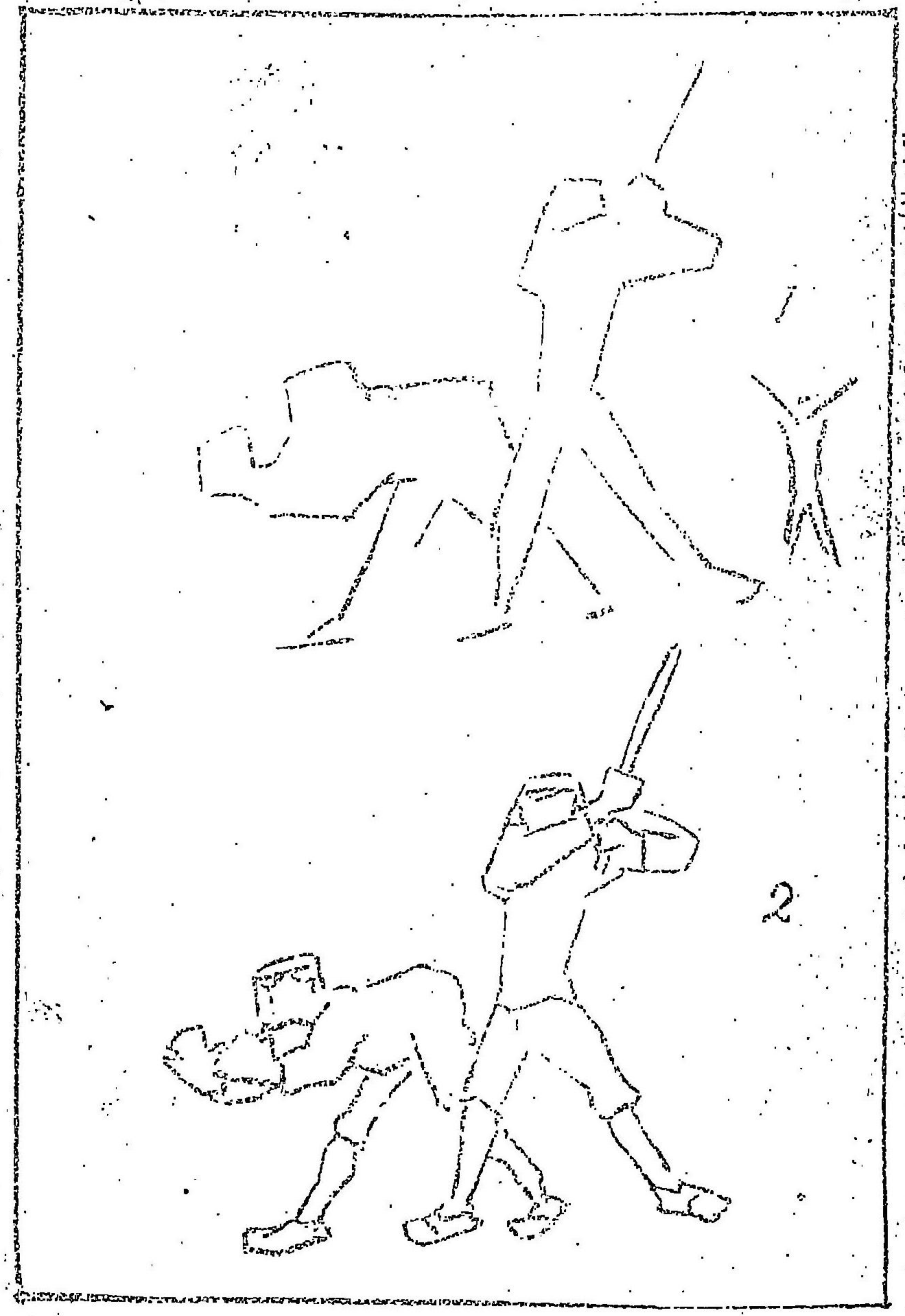
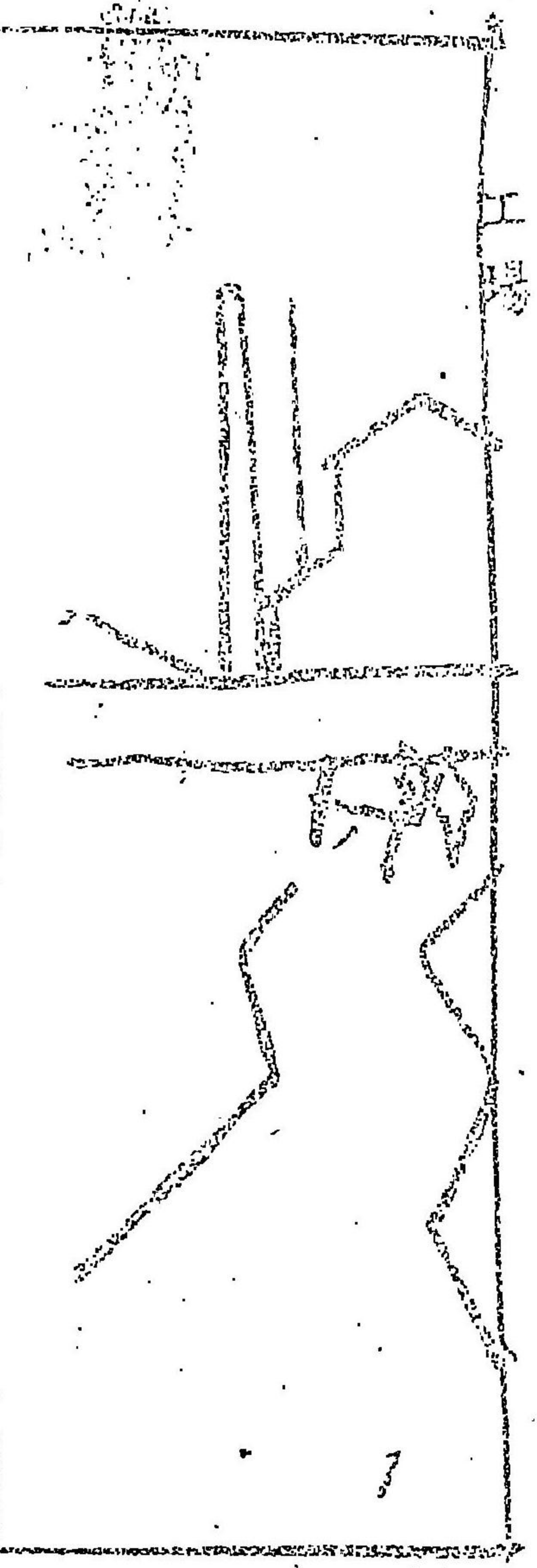
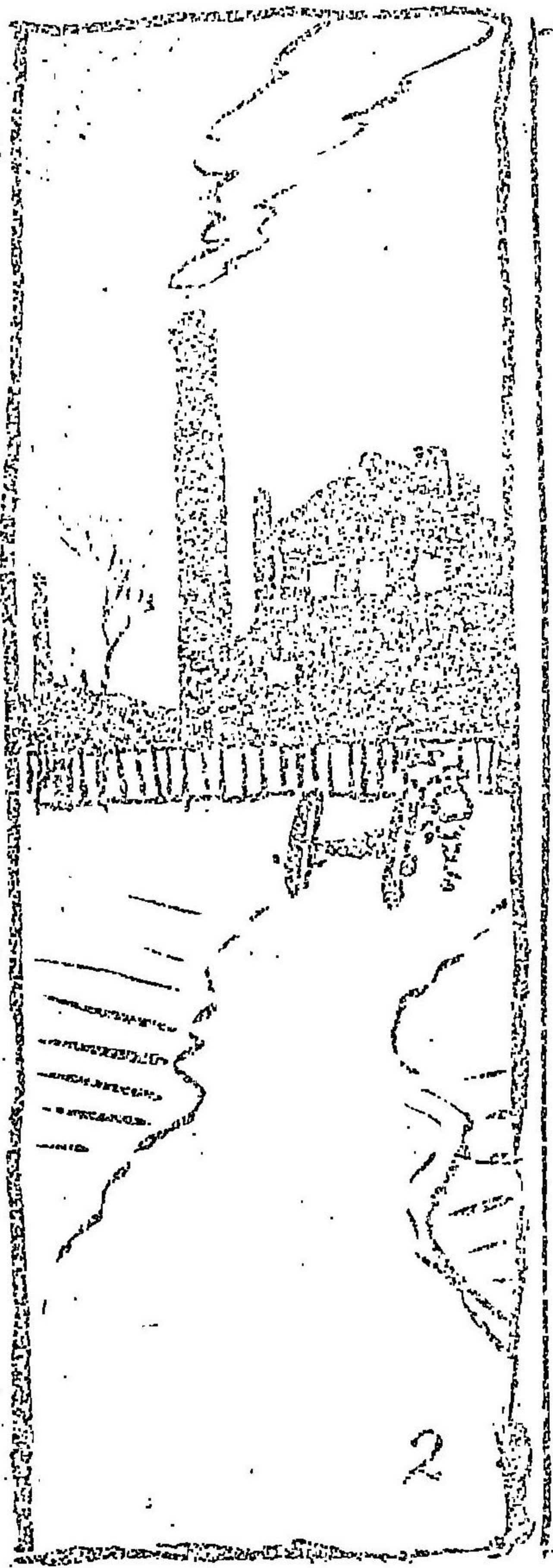


野球



松籟のスケッチ





馬のスケッチ





水兵のスケッチ

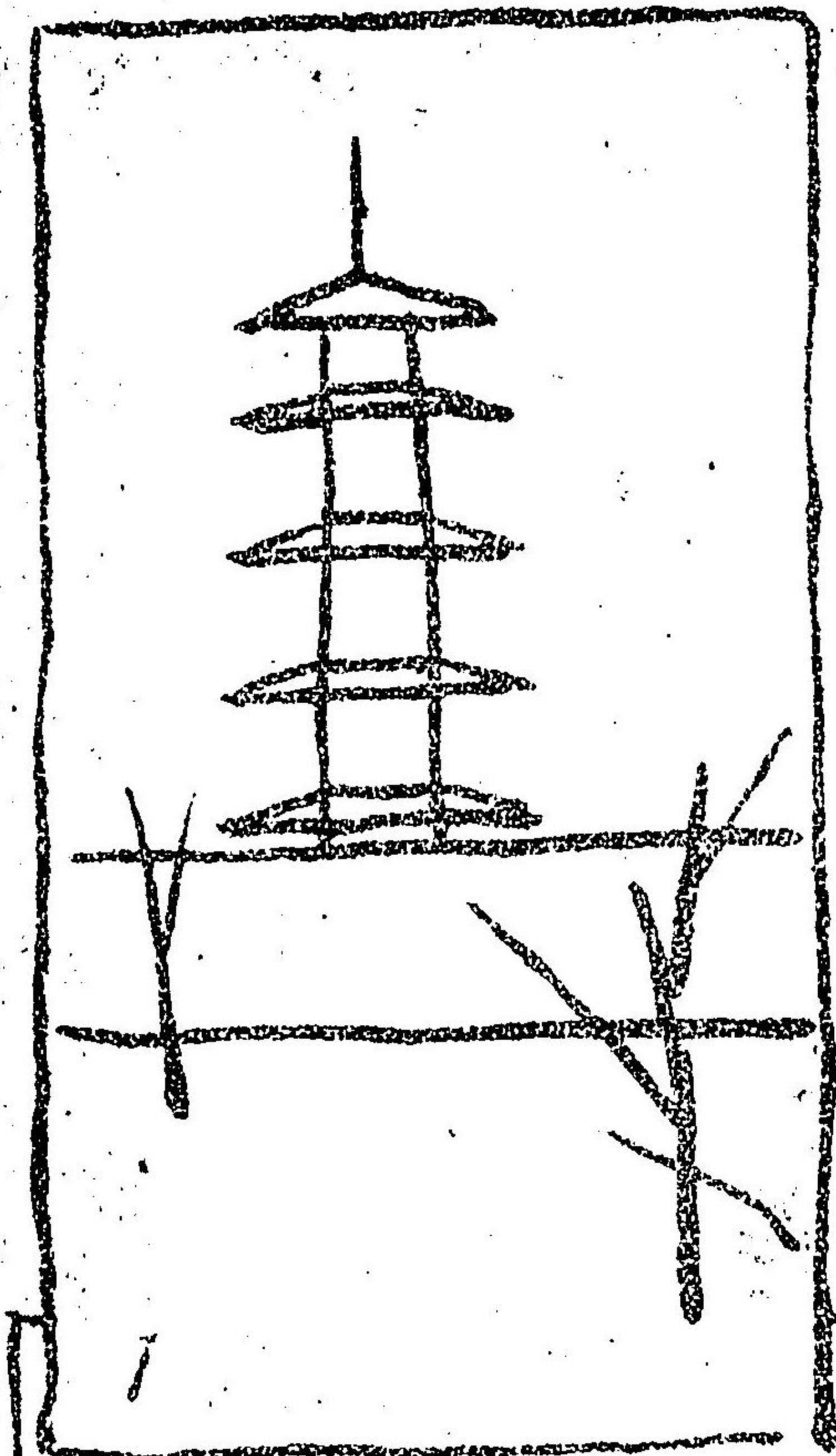
1



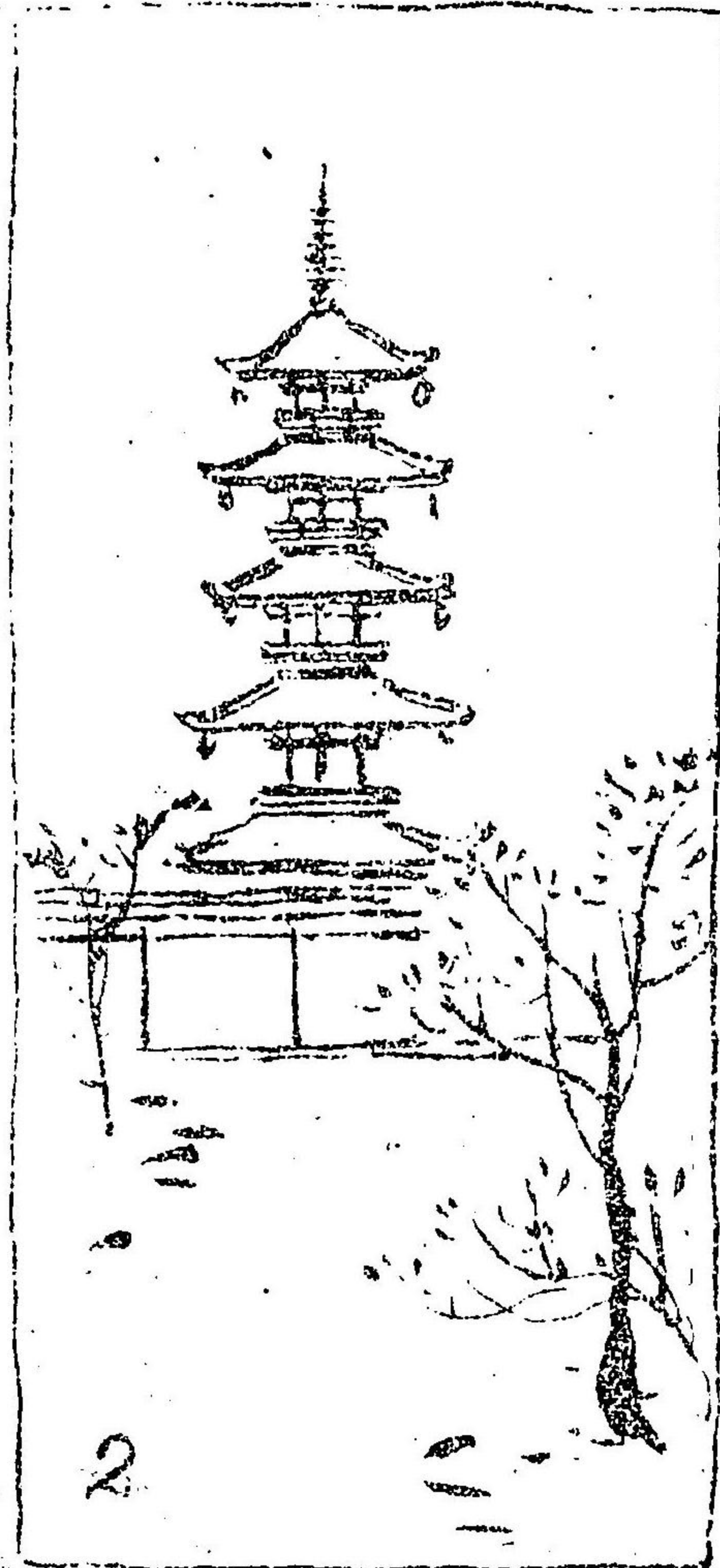
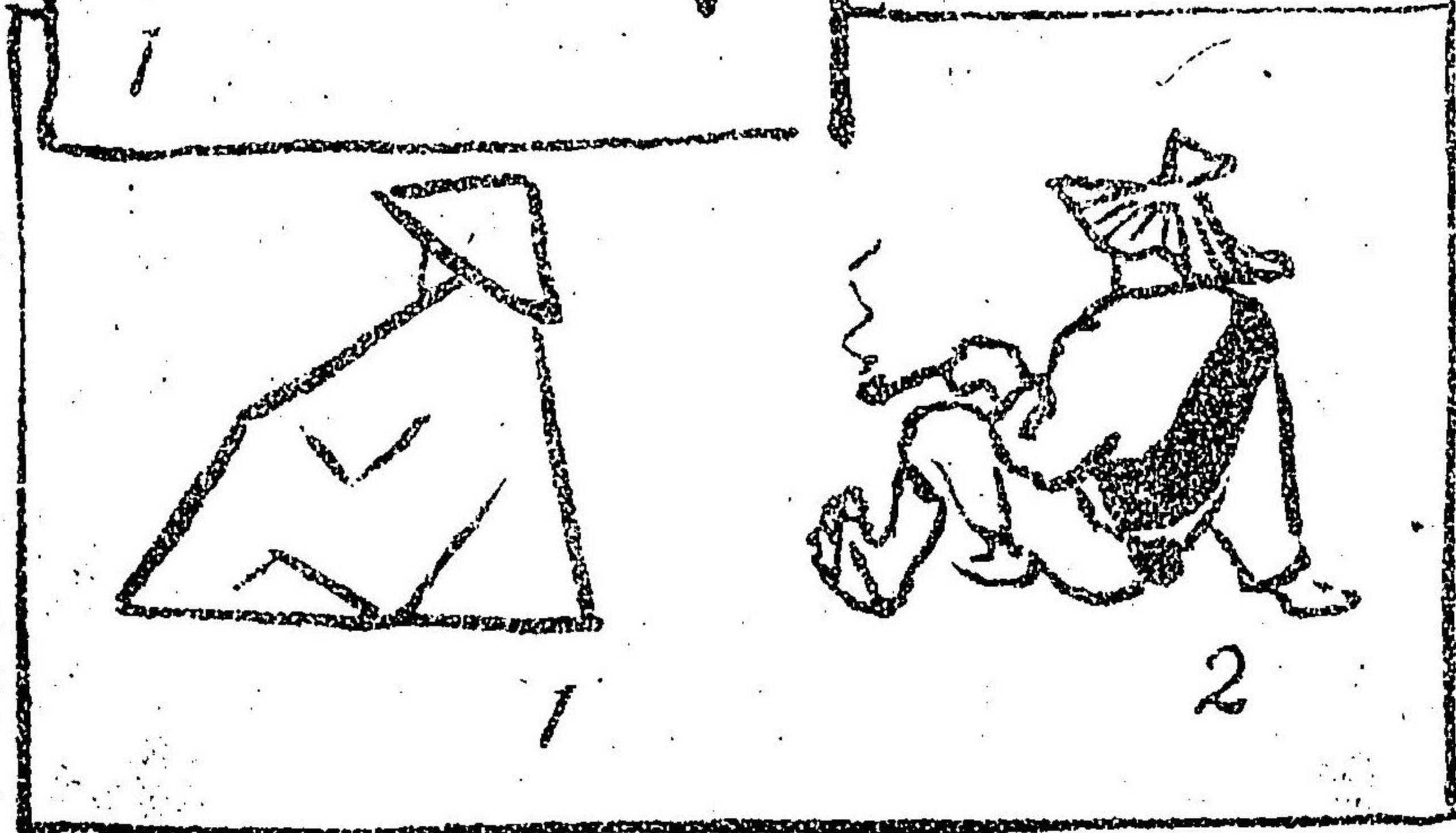
水兵

2



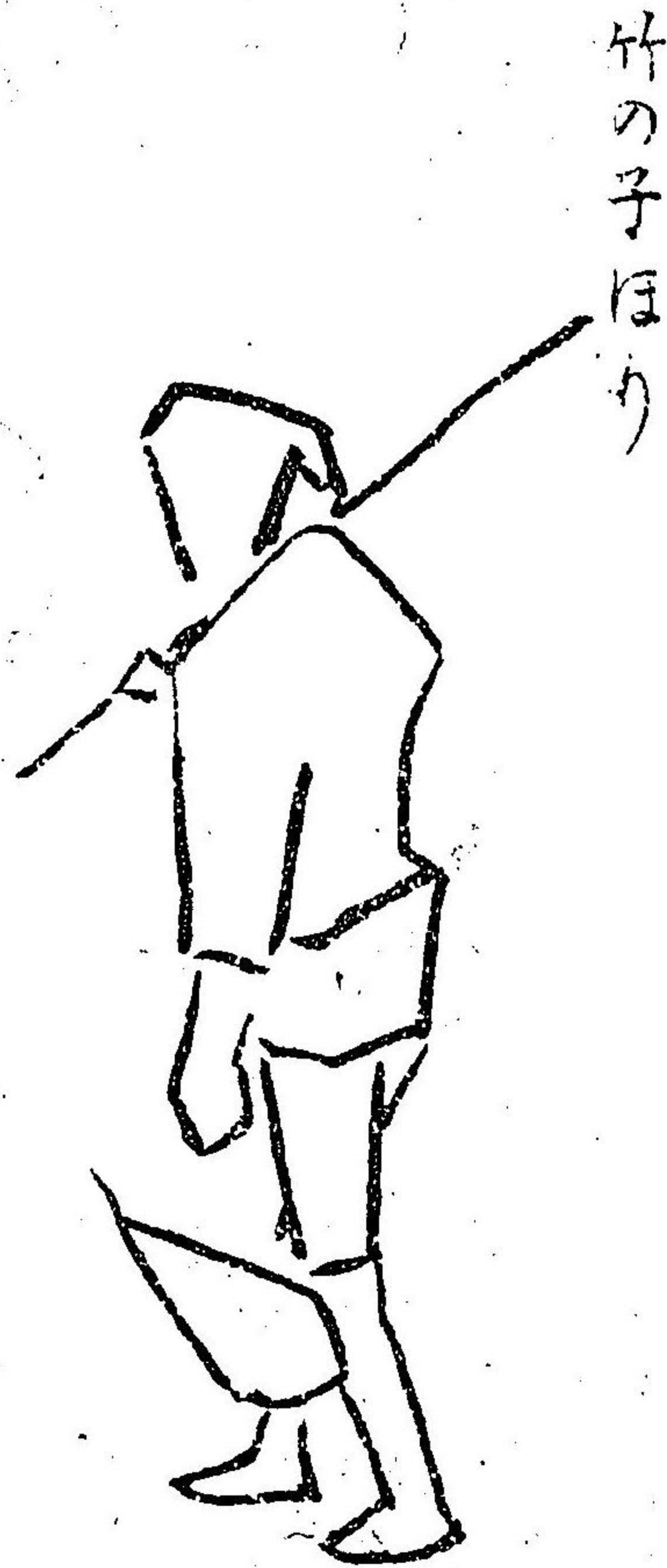


五重塔のスケッチ



五重塔



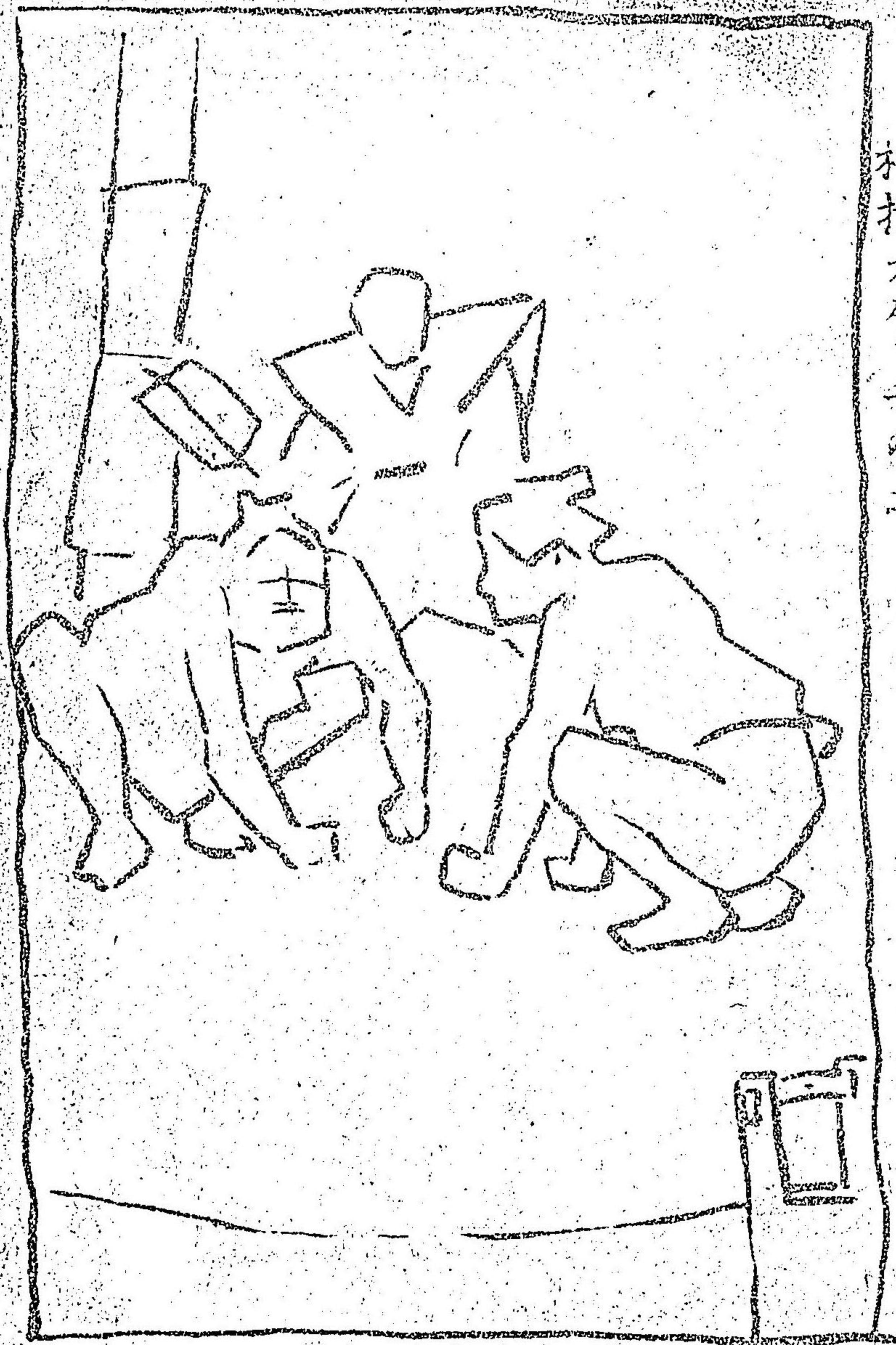


竹の子ほり



鶏





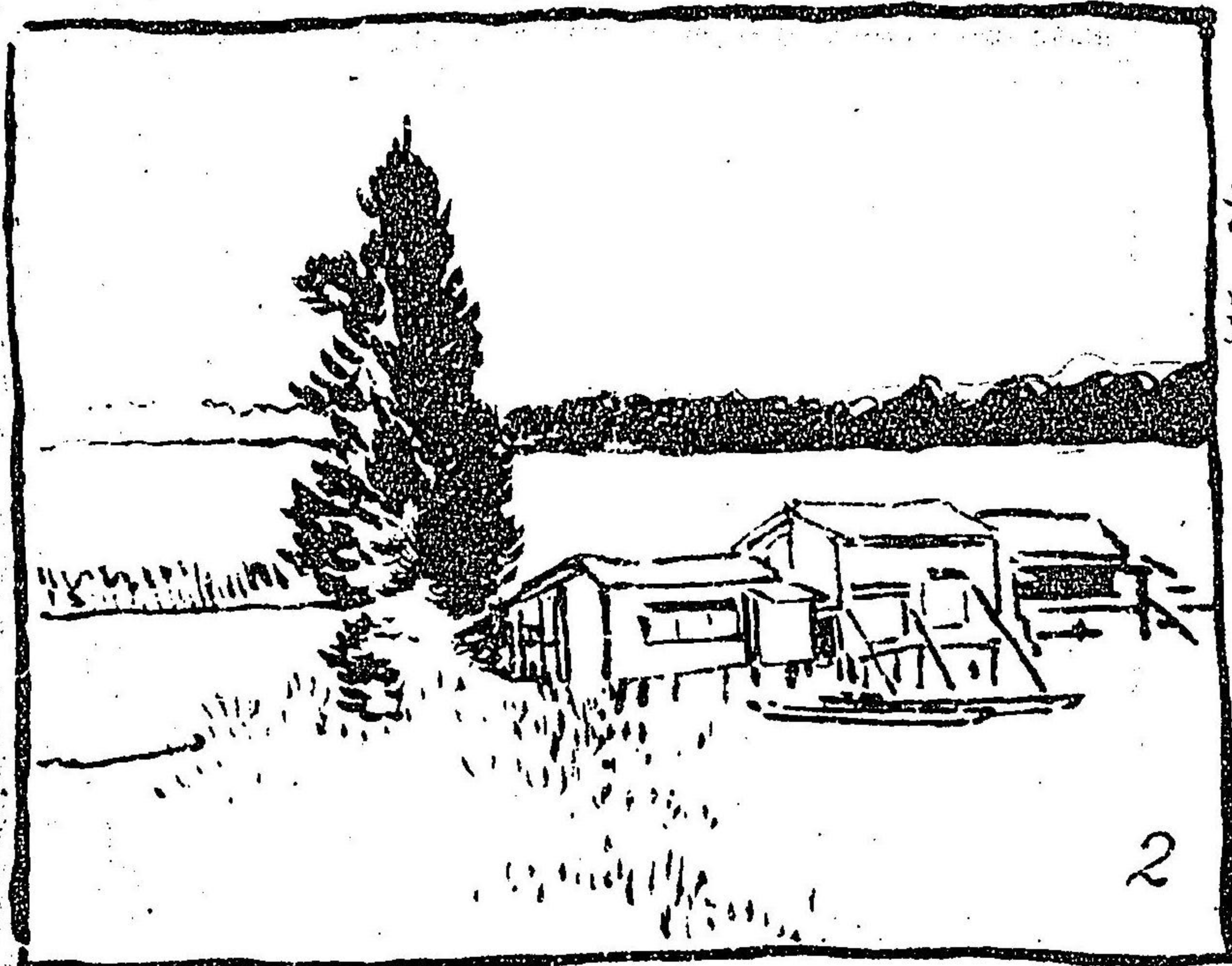
相撲スケッチの二



3

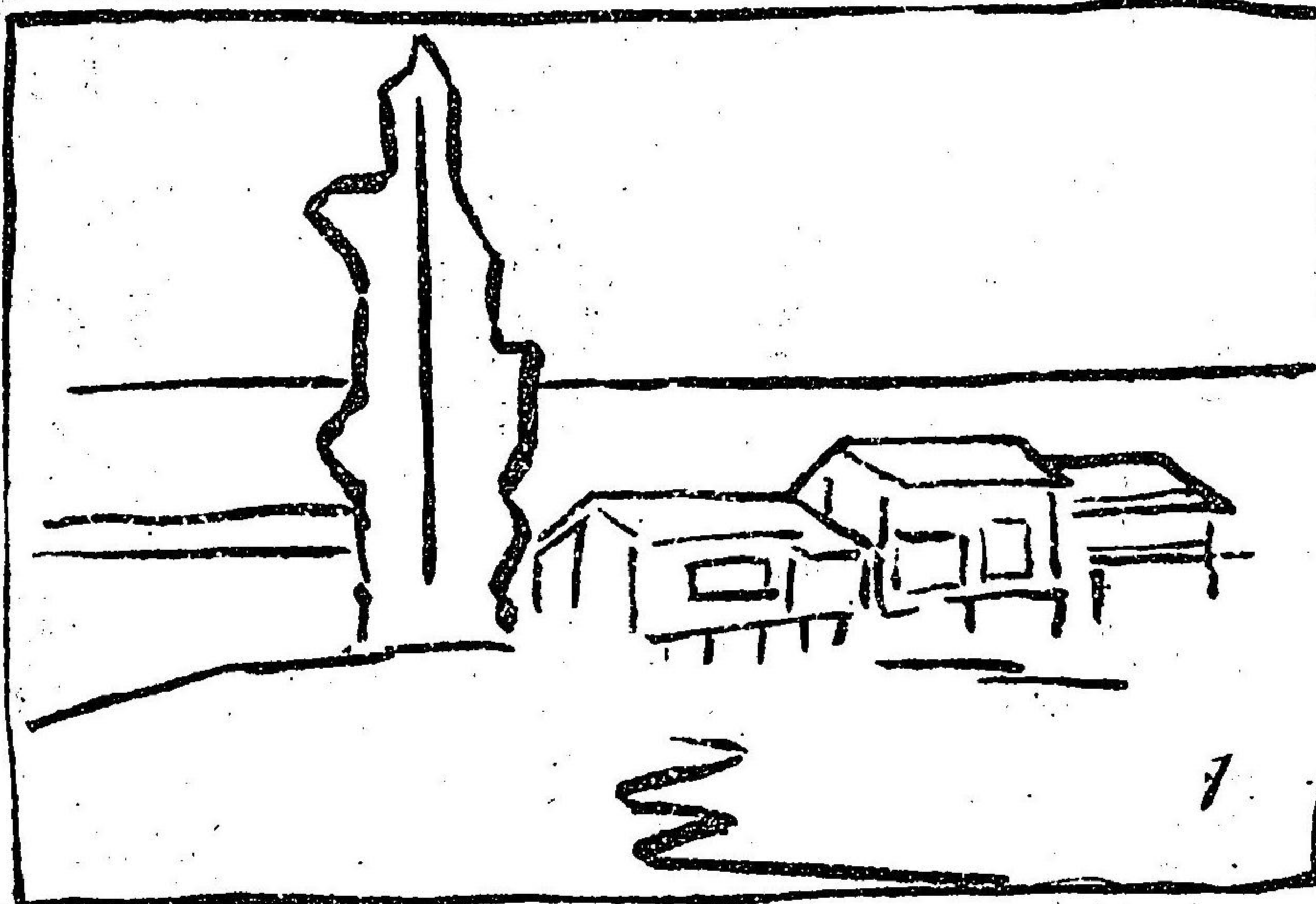
相撲



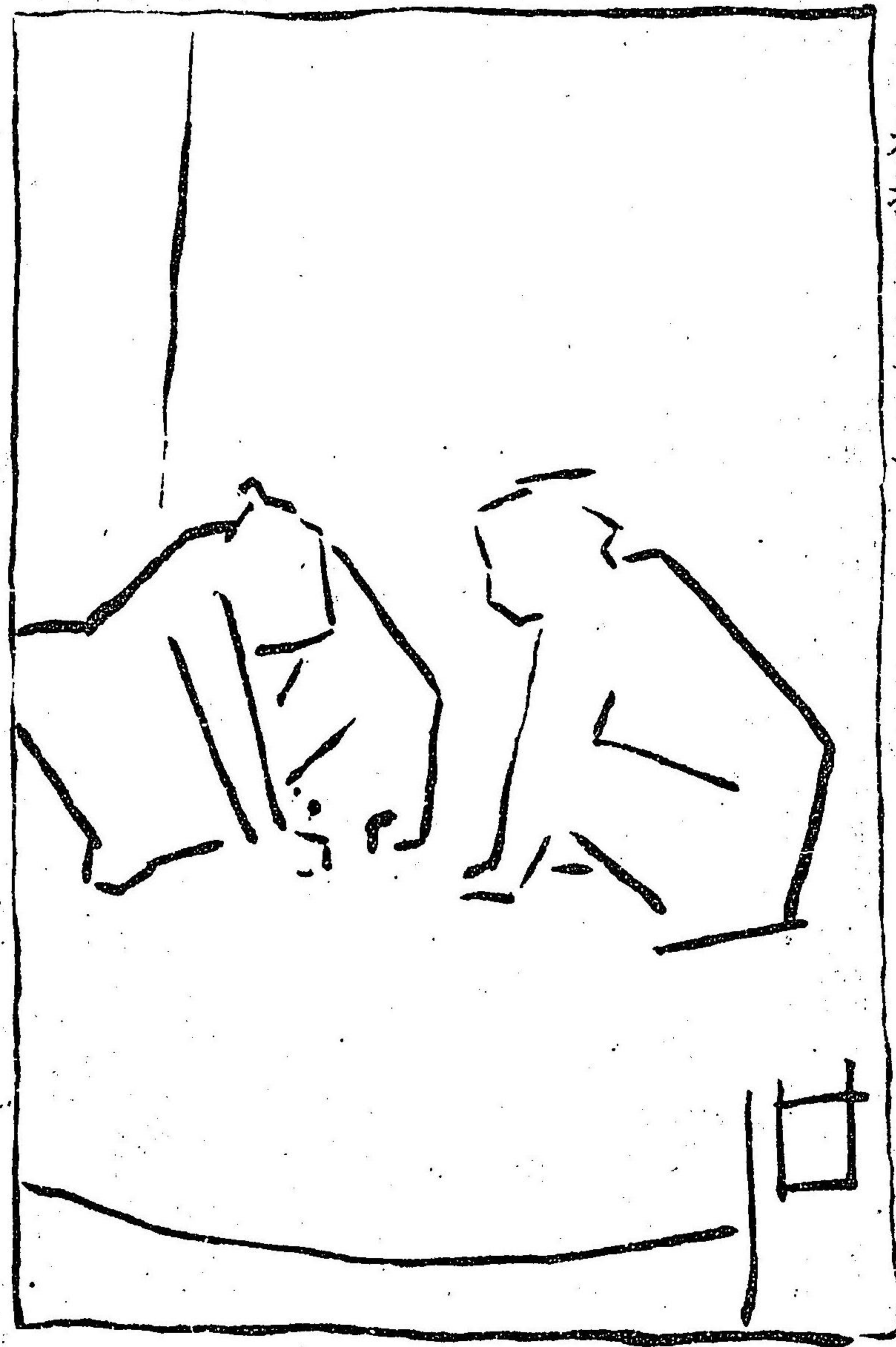


湖邊

2



7

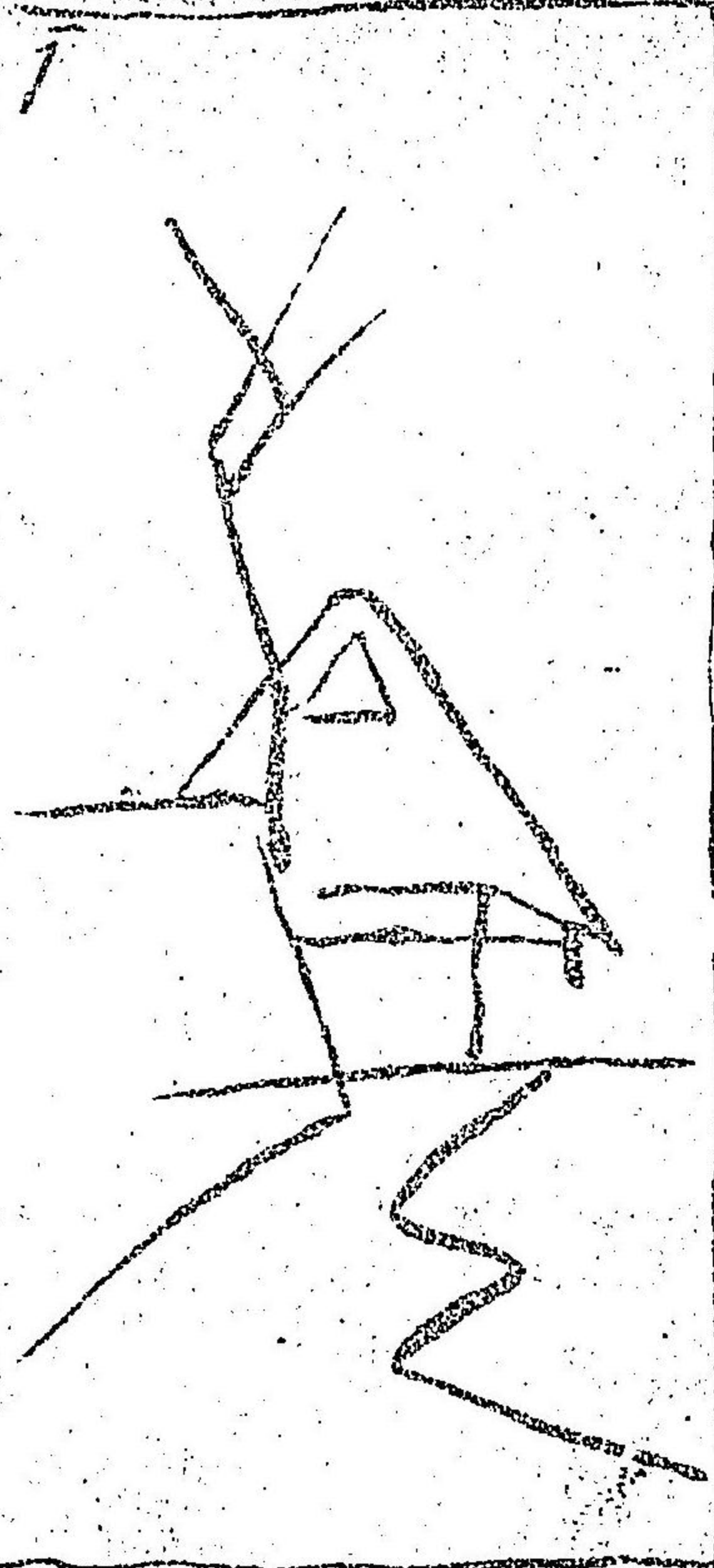


相撲スケッチの一

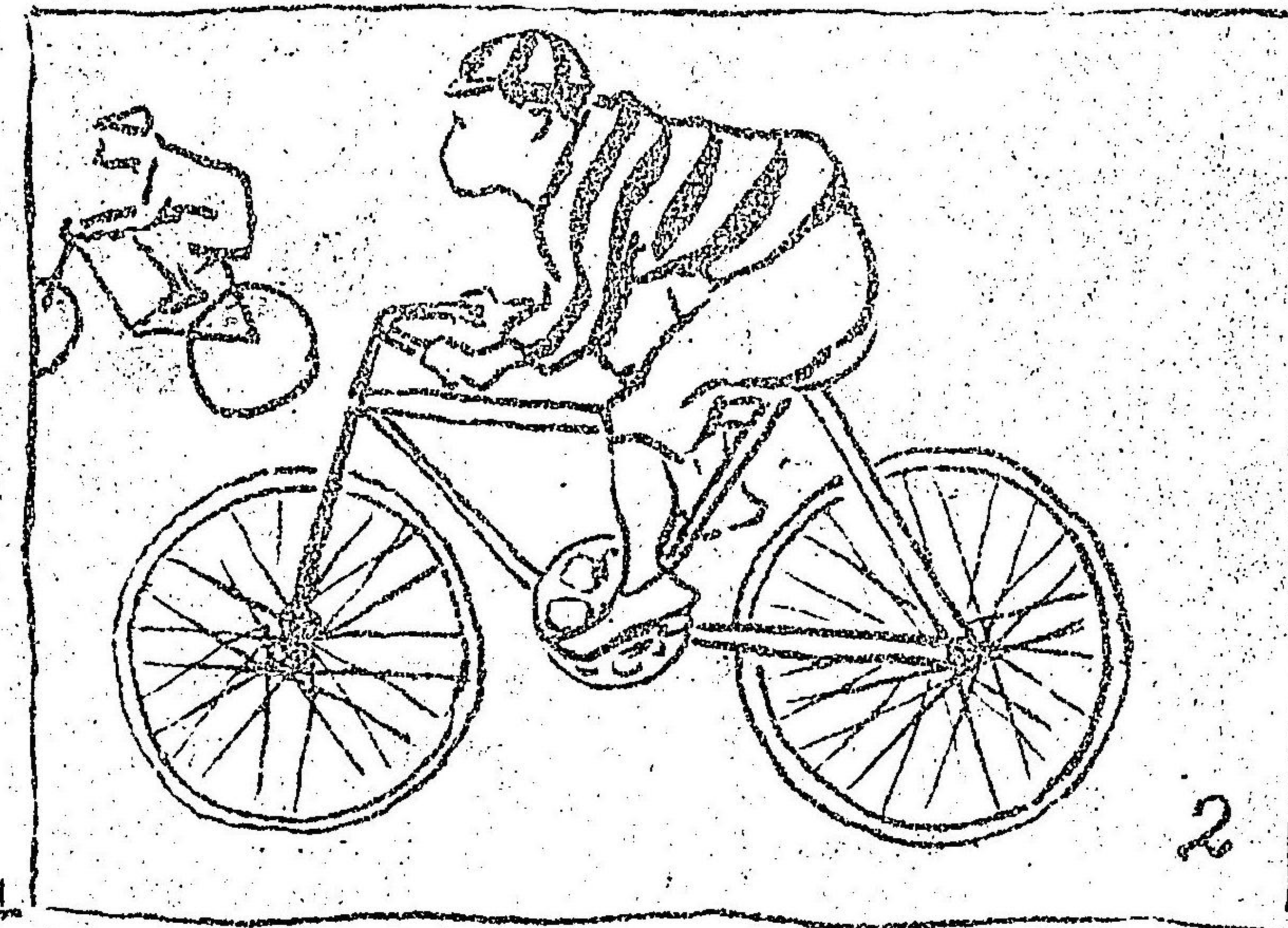
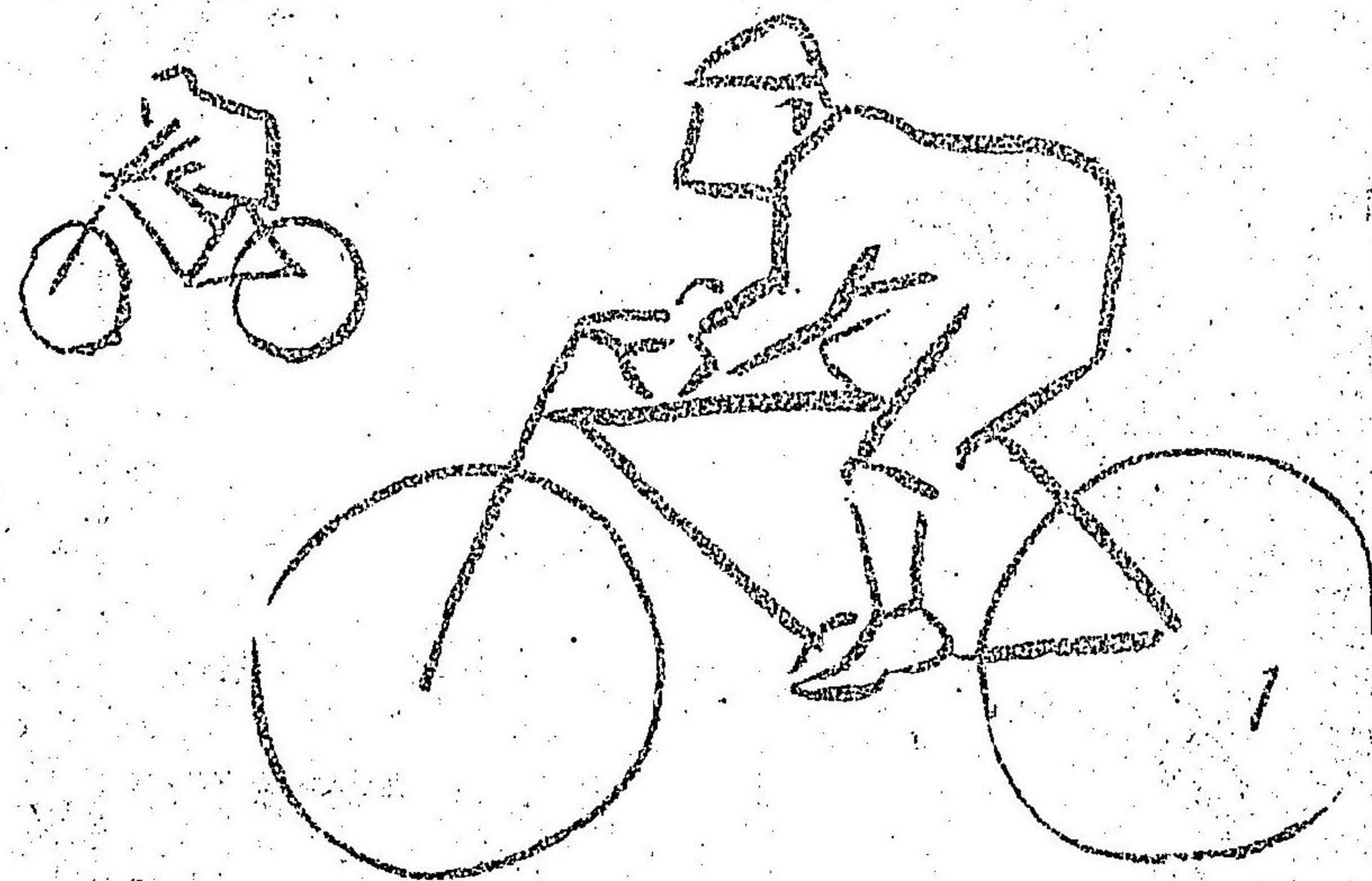
1



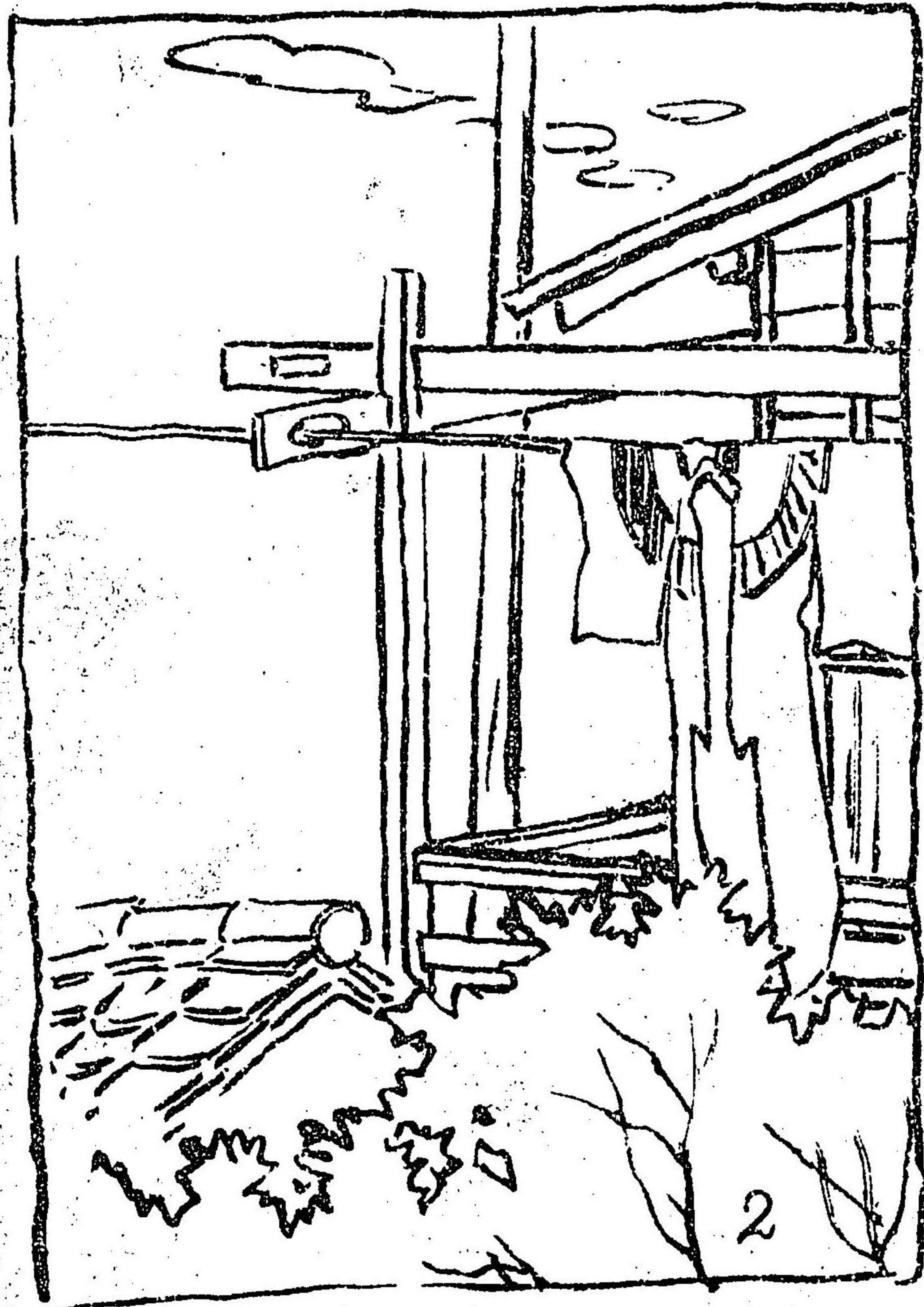
田舎の秋



自転車競争







物干

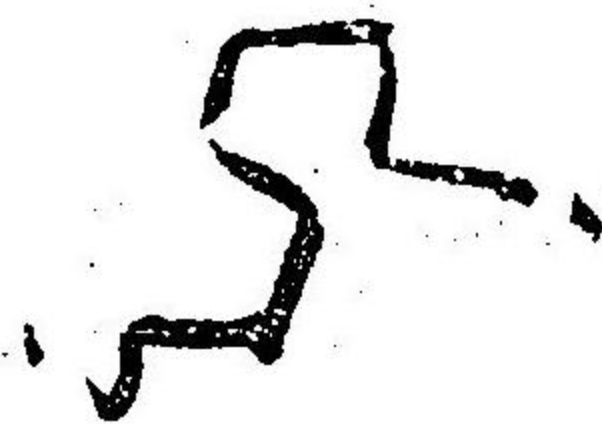
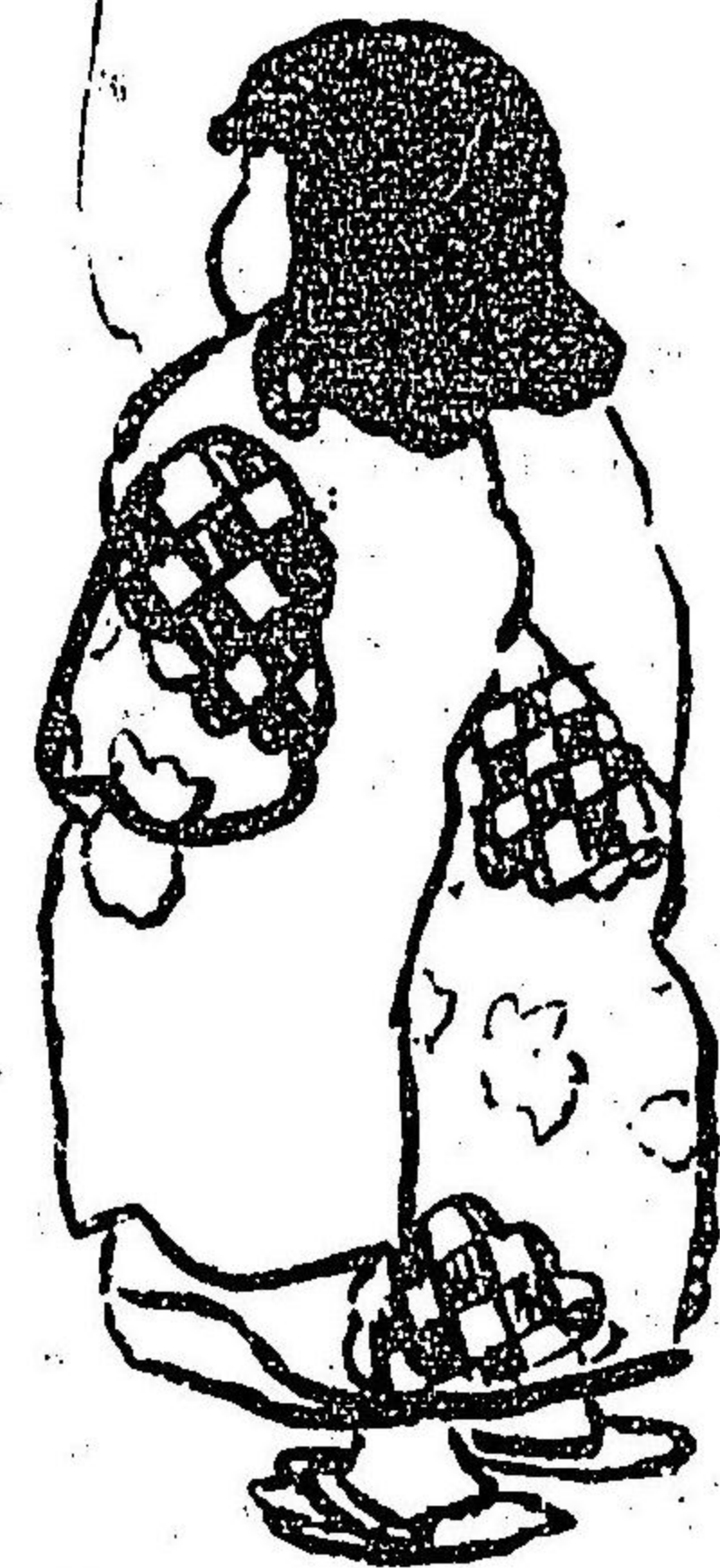
船 風



1



2

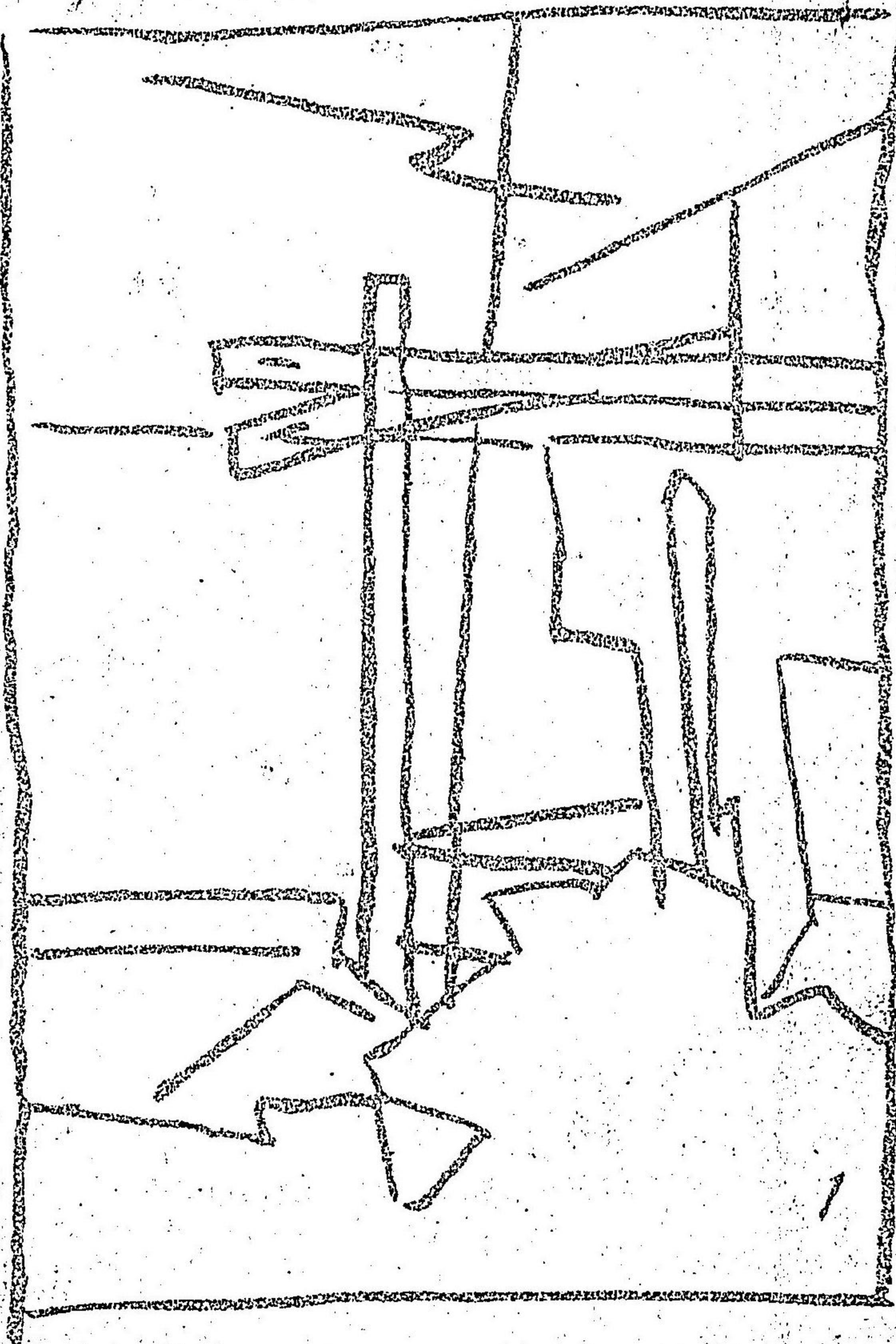






2

銃獵



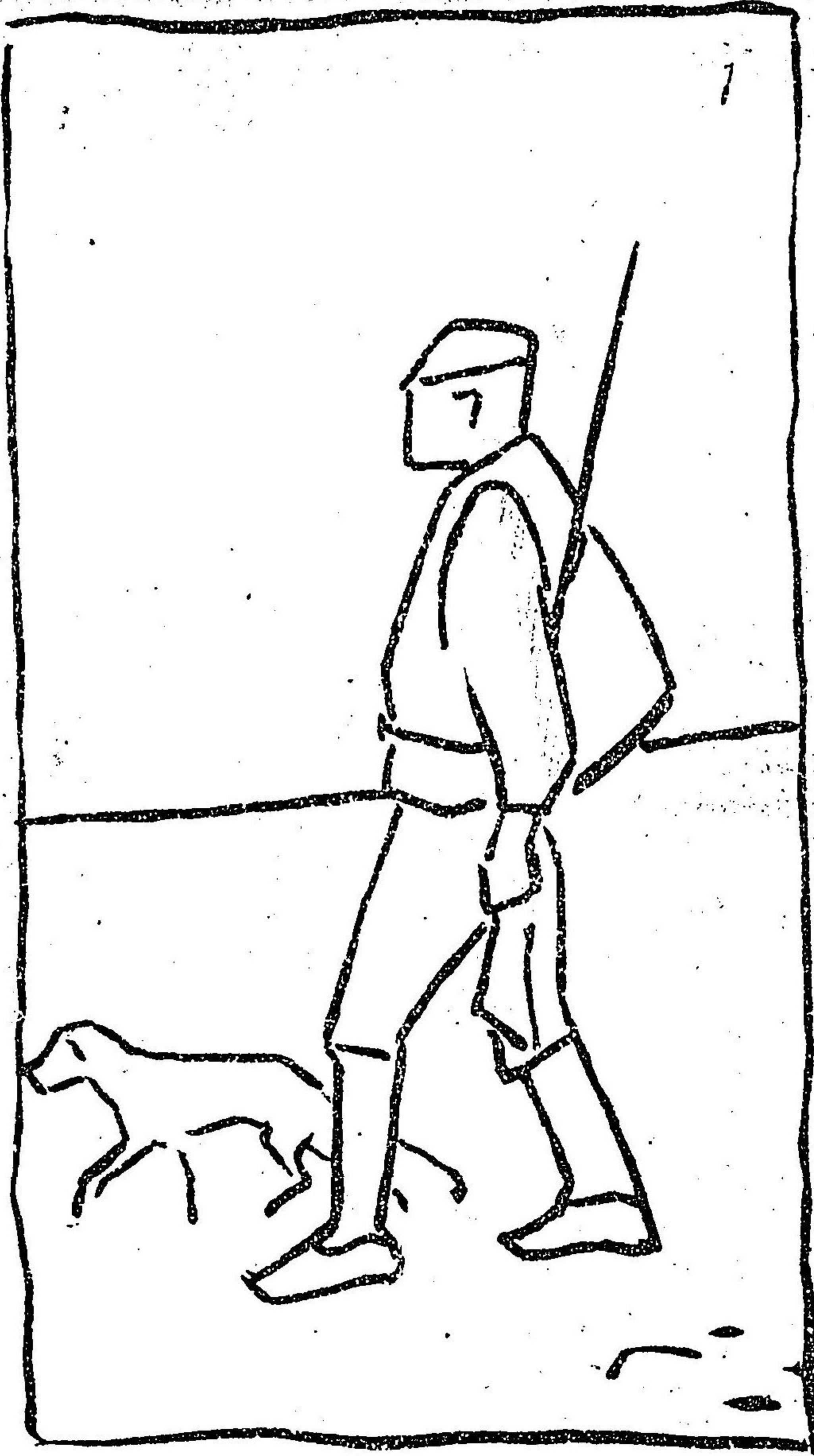
物干のステッキ





泊舟

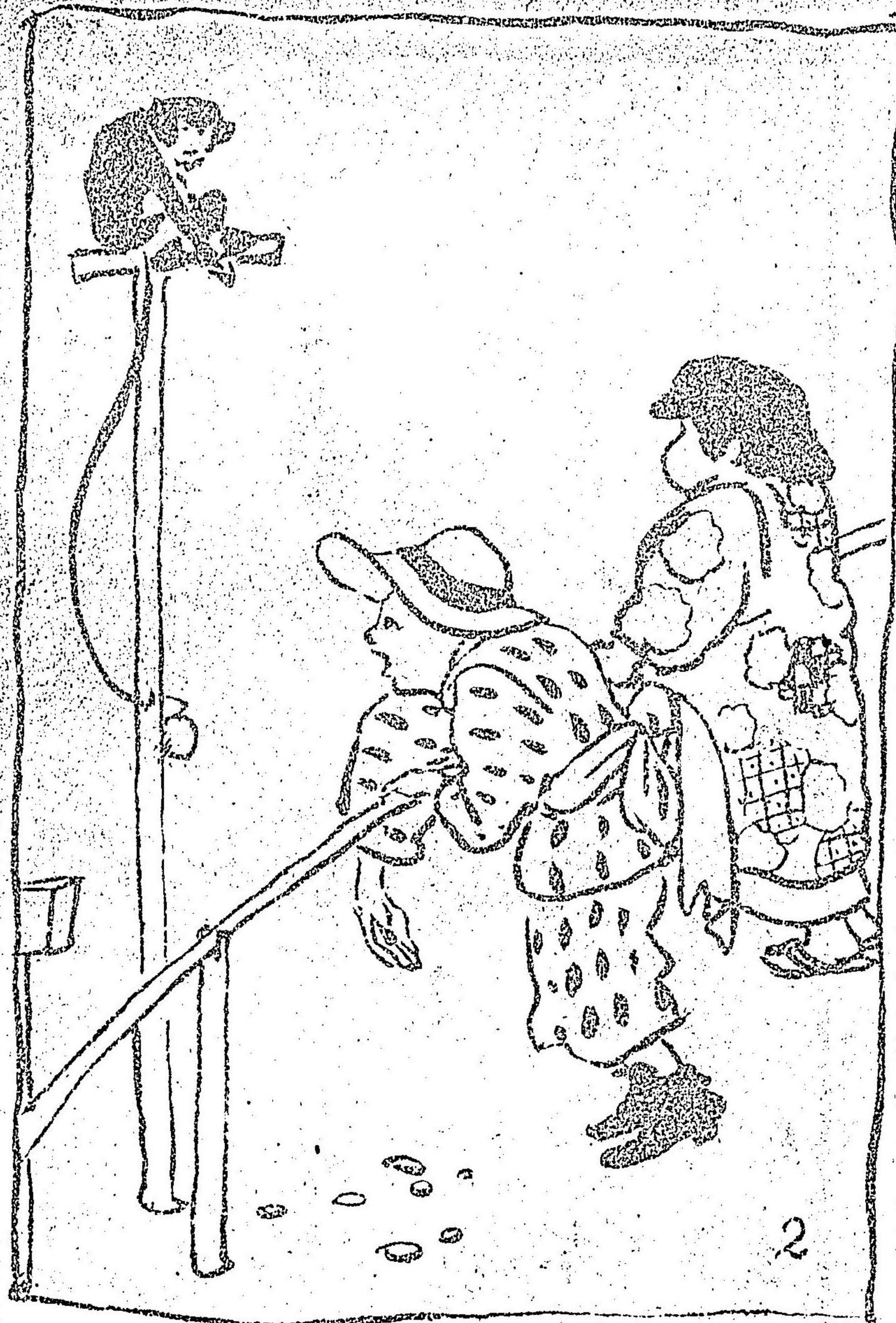
2



銃獵のスケッチ

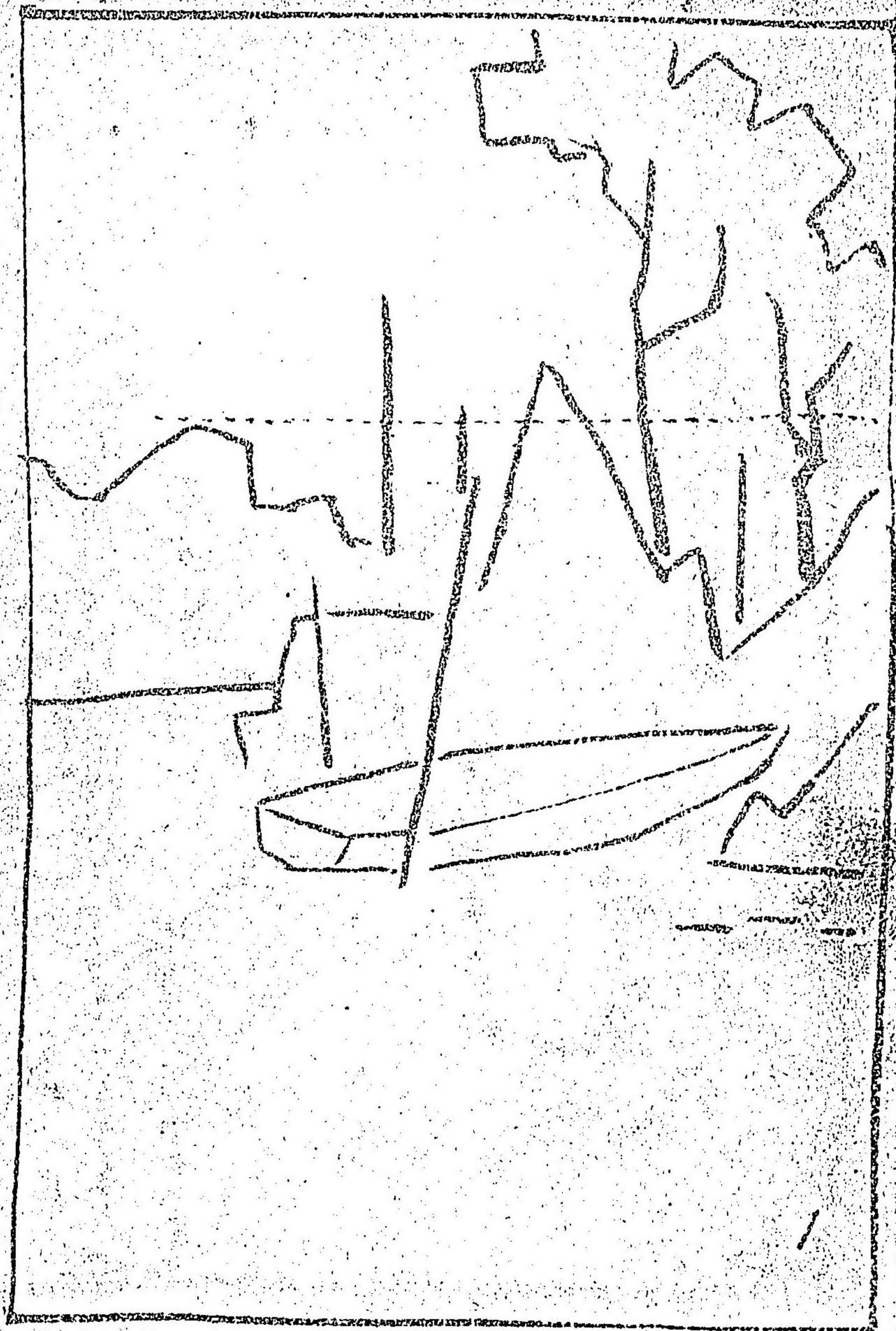
7





動物園

2



泊舟のスケッチ

1



動物園のスケッチ



1

社頭

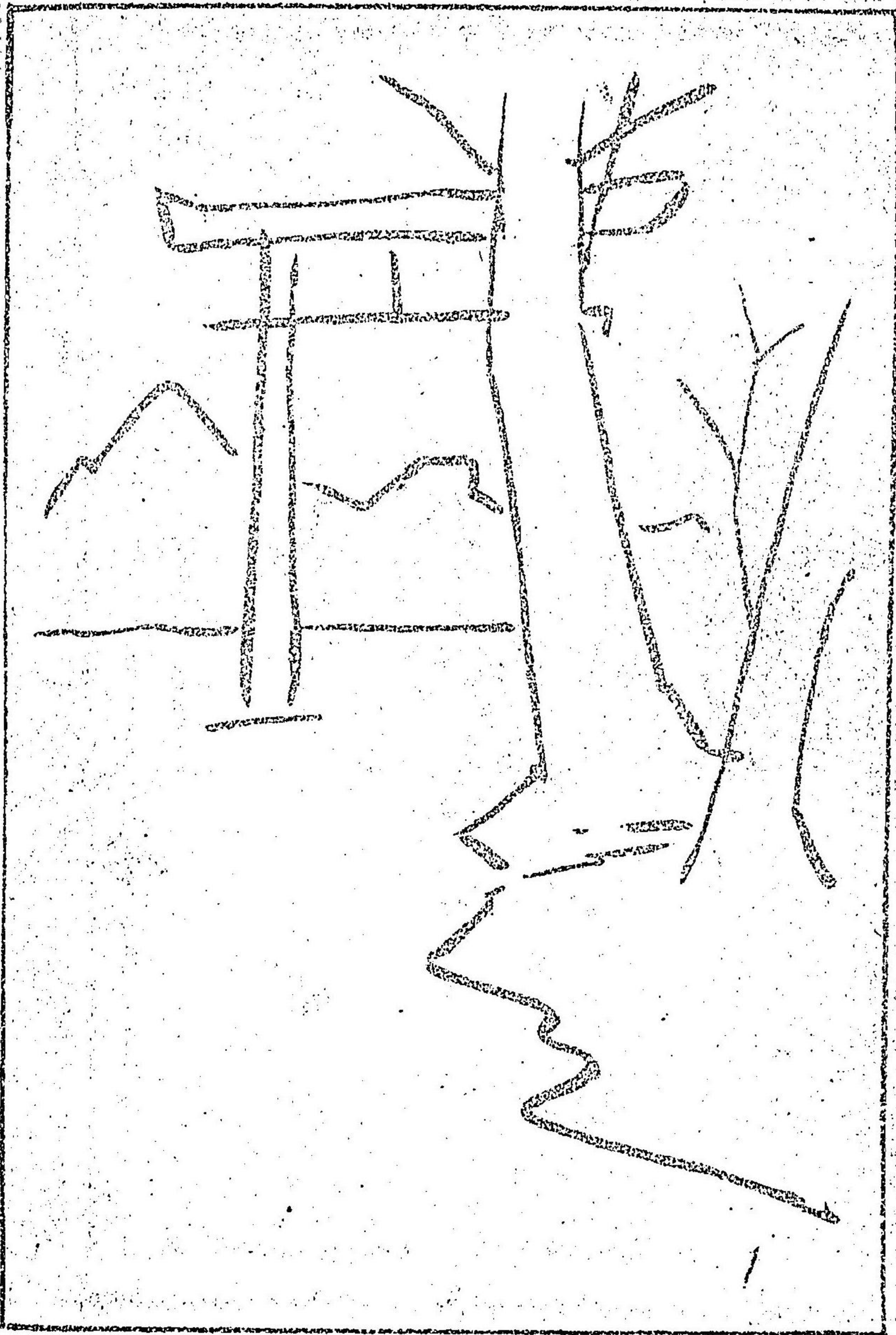


2





哨兵



社頭のスケツキ





夕暮

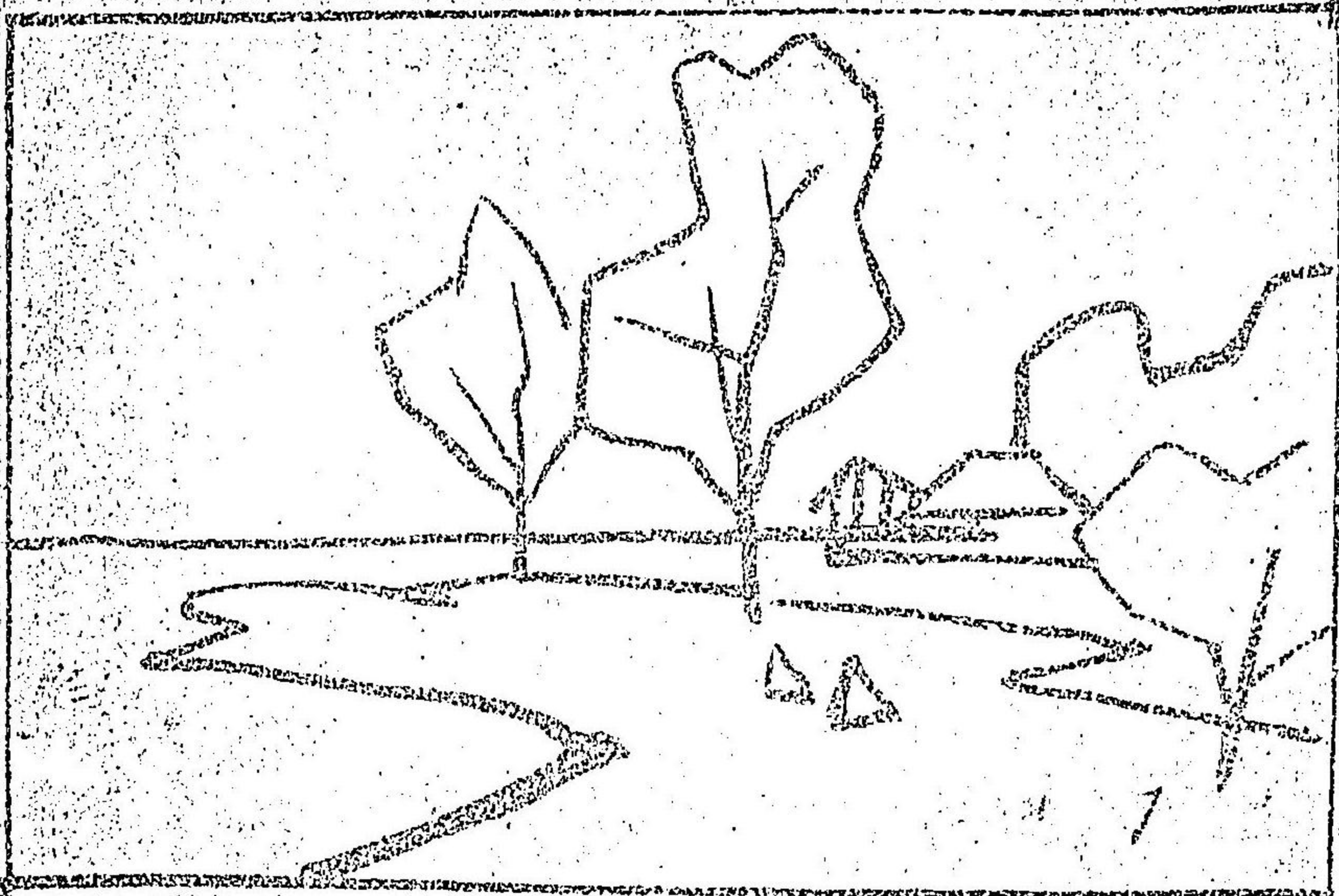
2



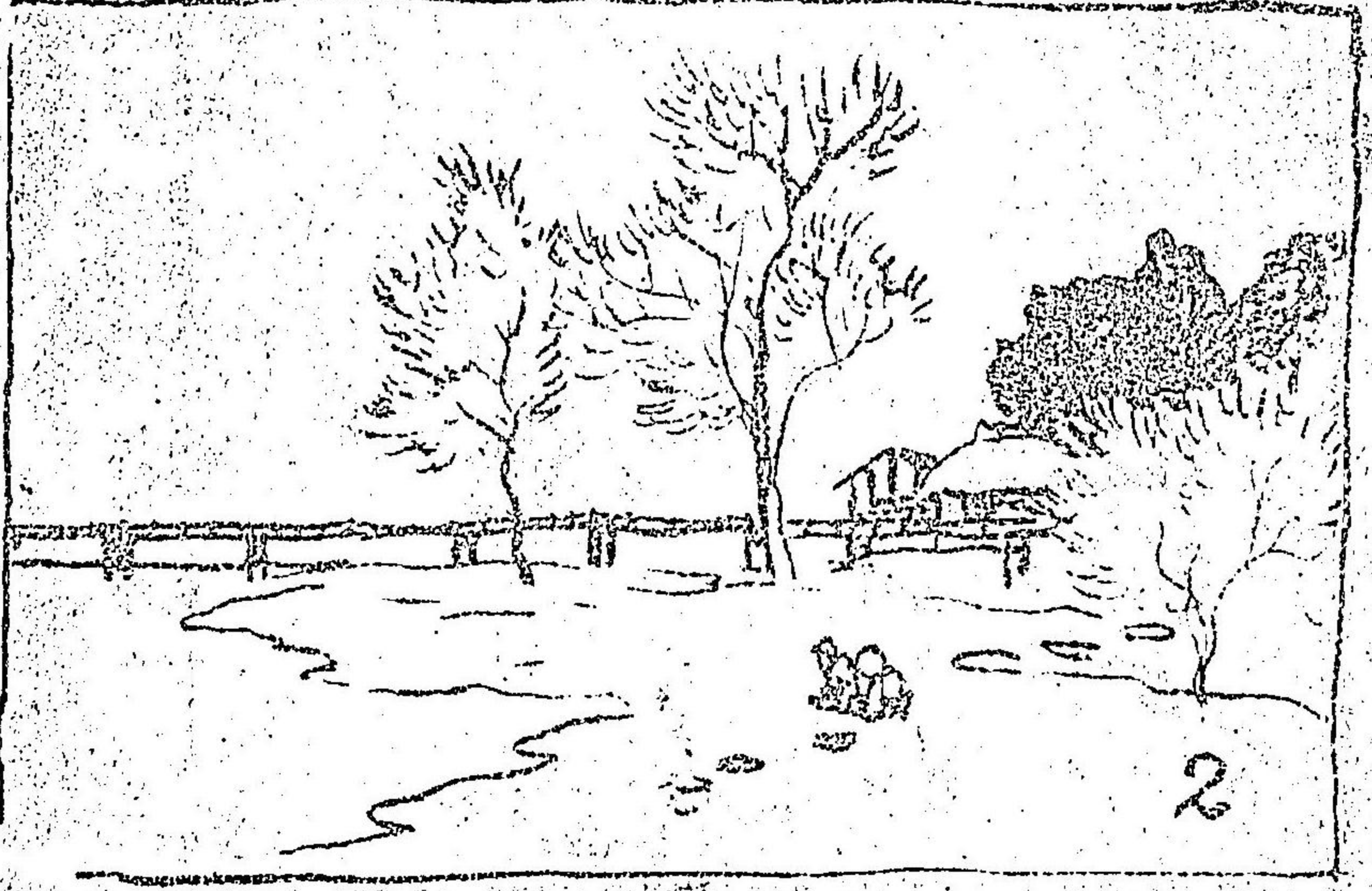
哨兵のスケッチ

1





風景

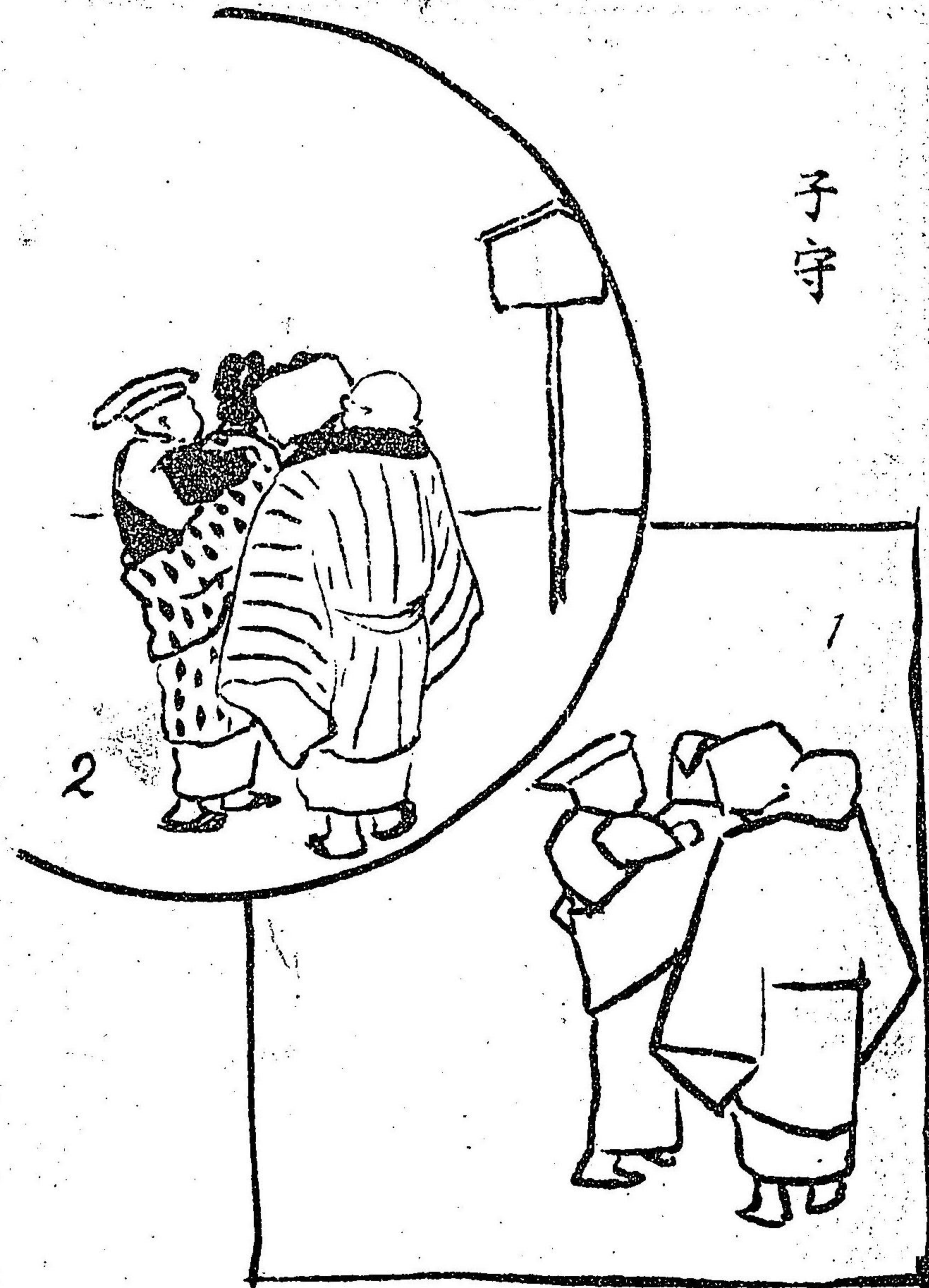


2

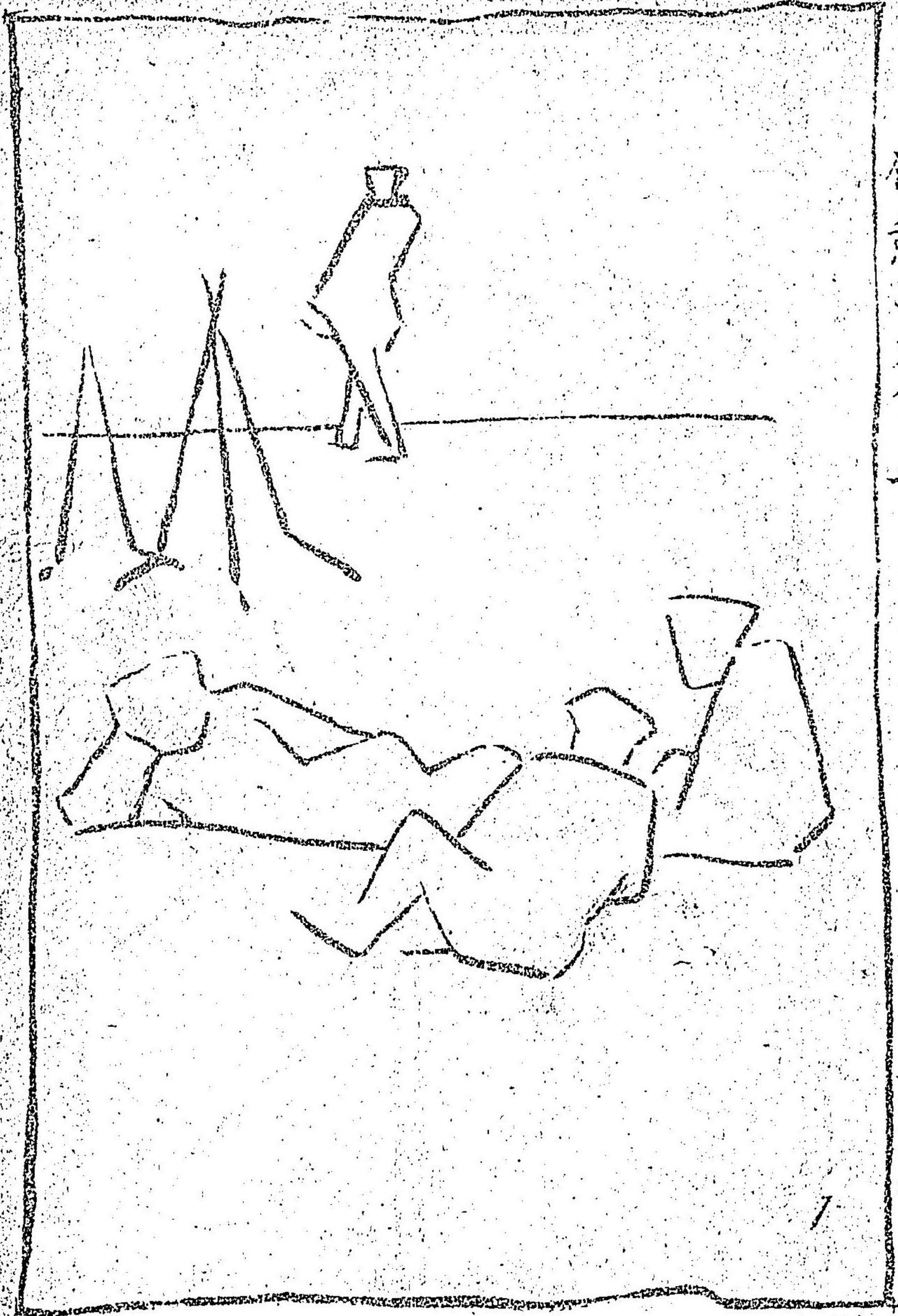


夕暮のスケッチ







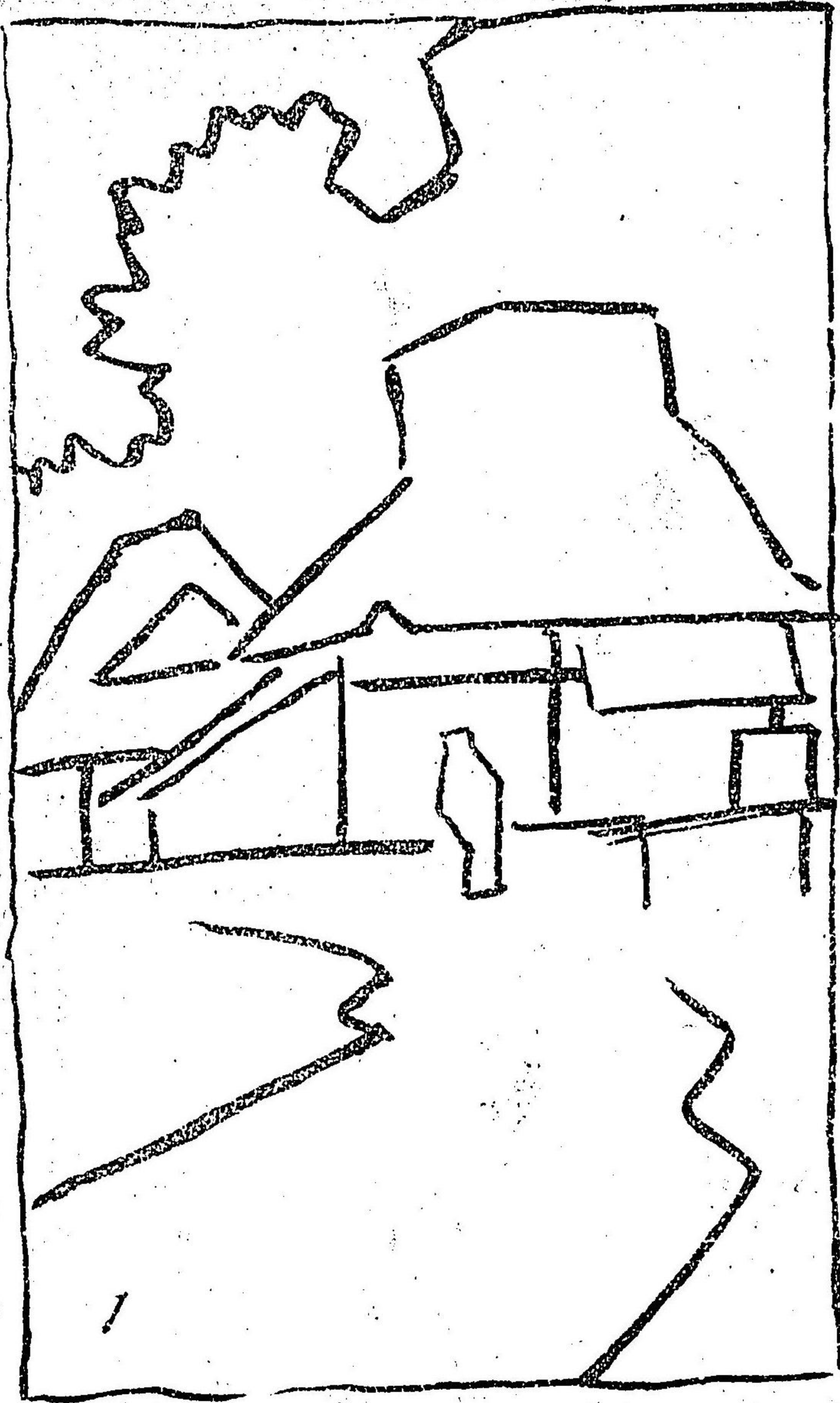


休憩の夕ヶ子



休憩





田舎みちのスケッチ



田舎みち





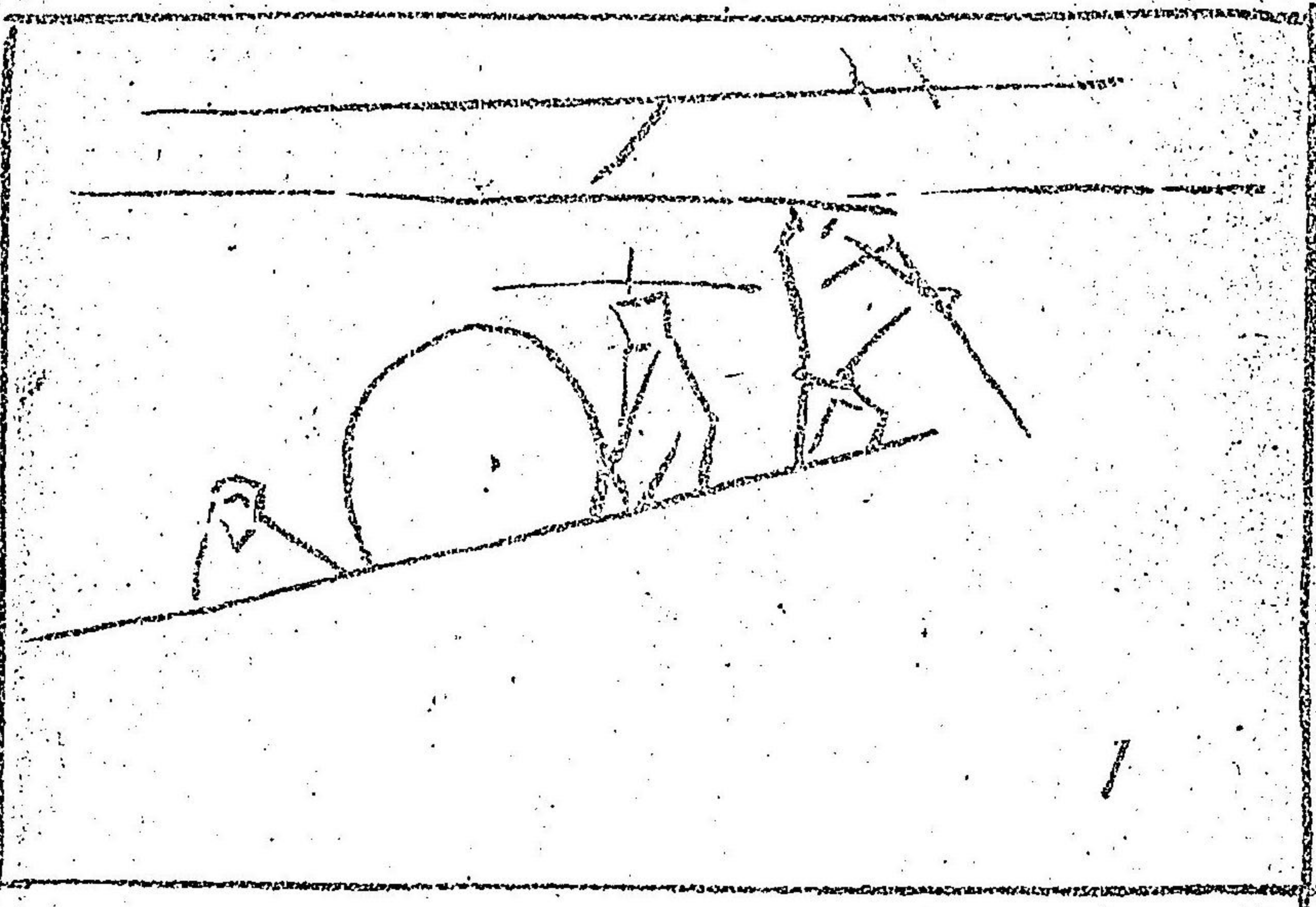
騎兵

2



渡舟

2



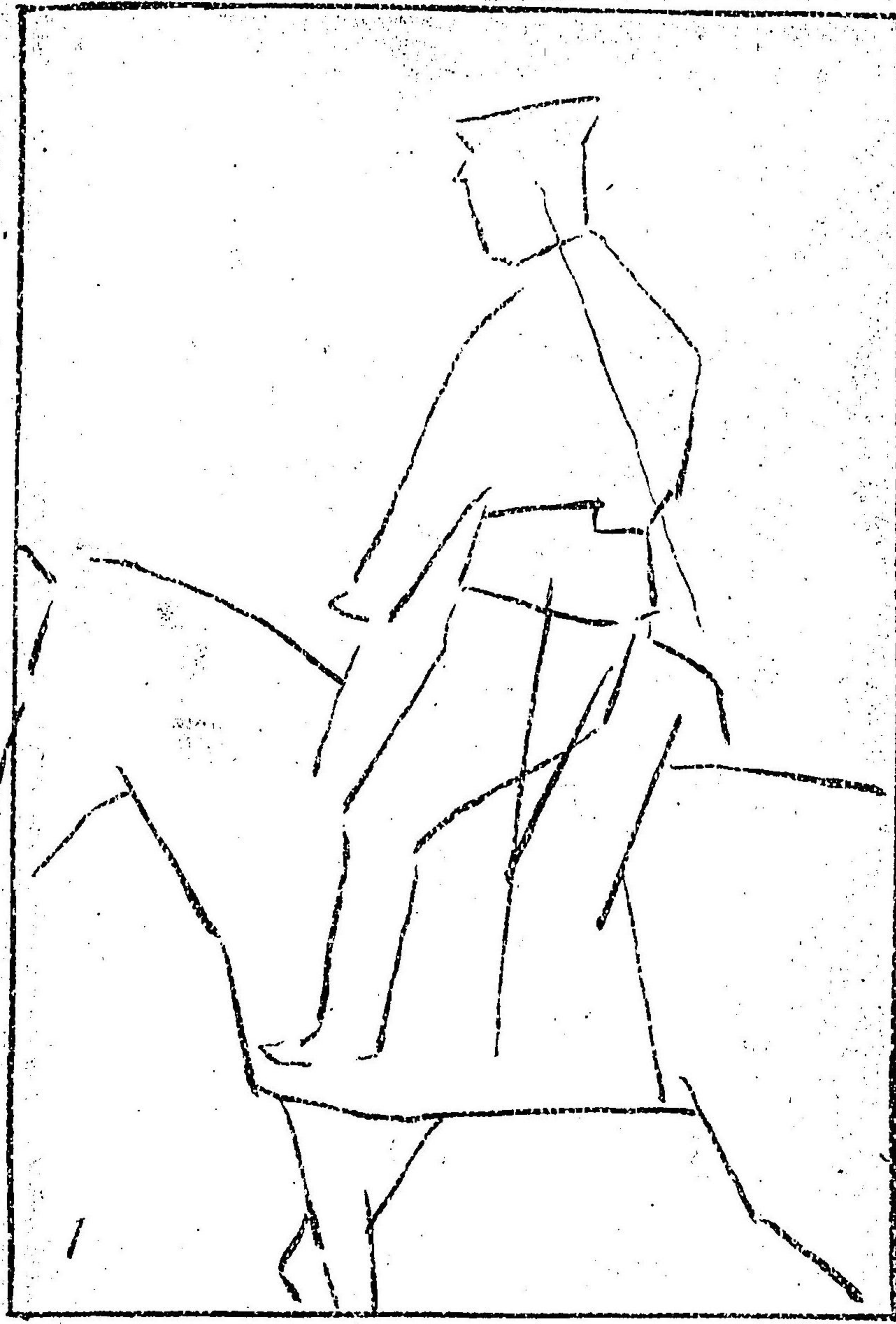
1





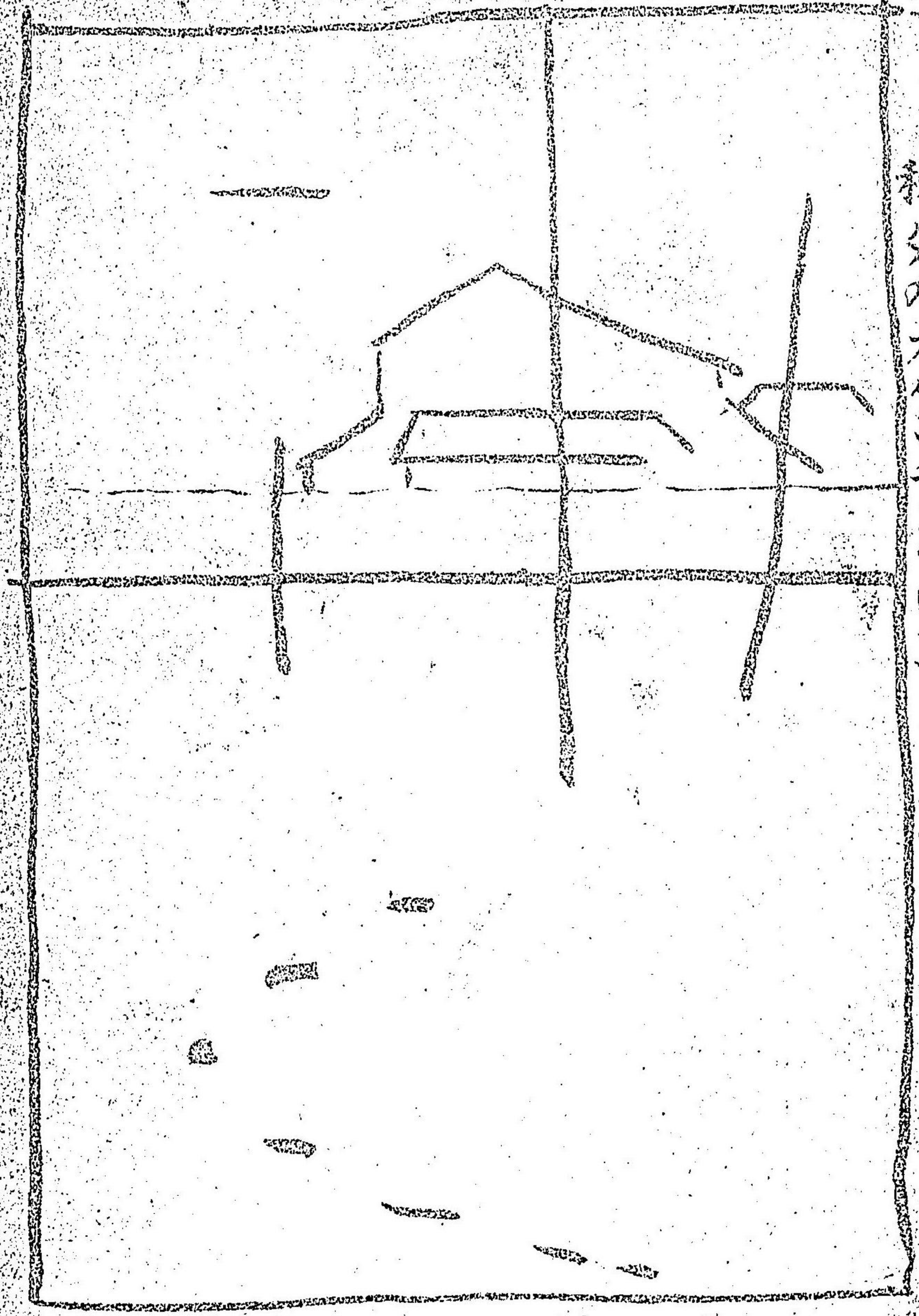
秋夕

3



騎兵のスケッチ





秋夕のスケッチその一

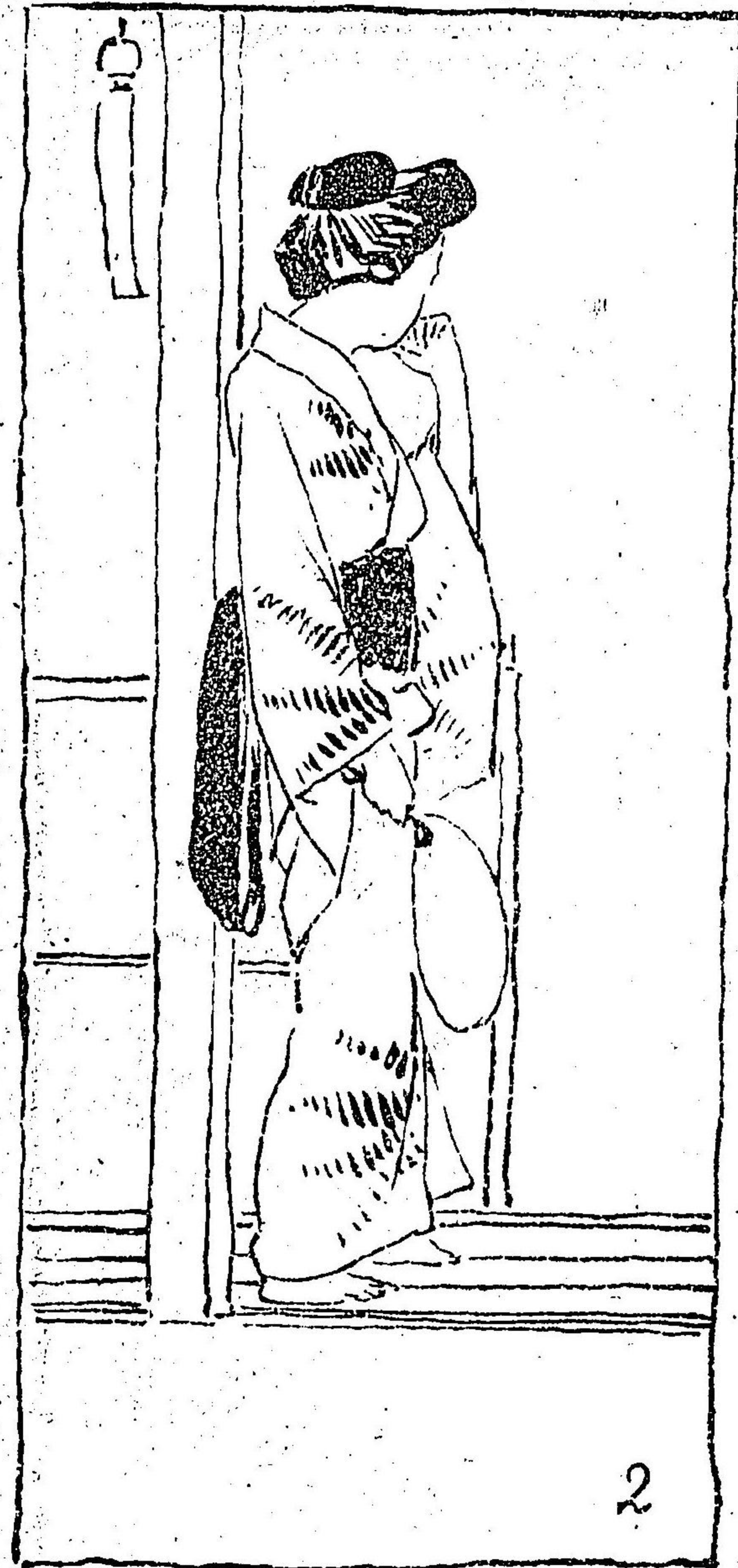


秋夕のスケッチその二





古井戸



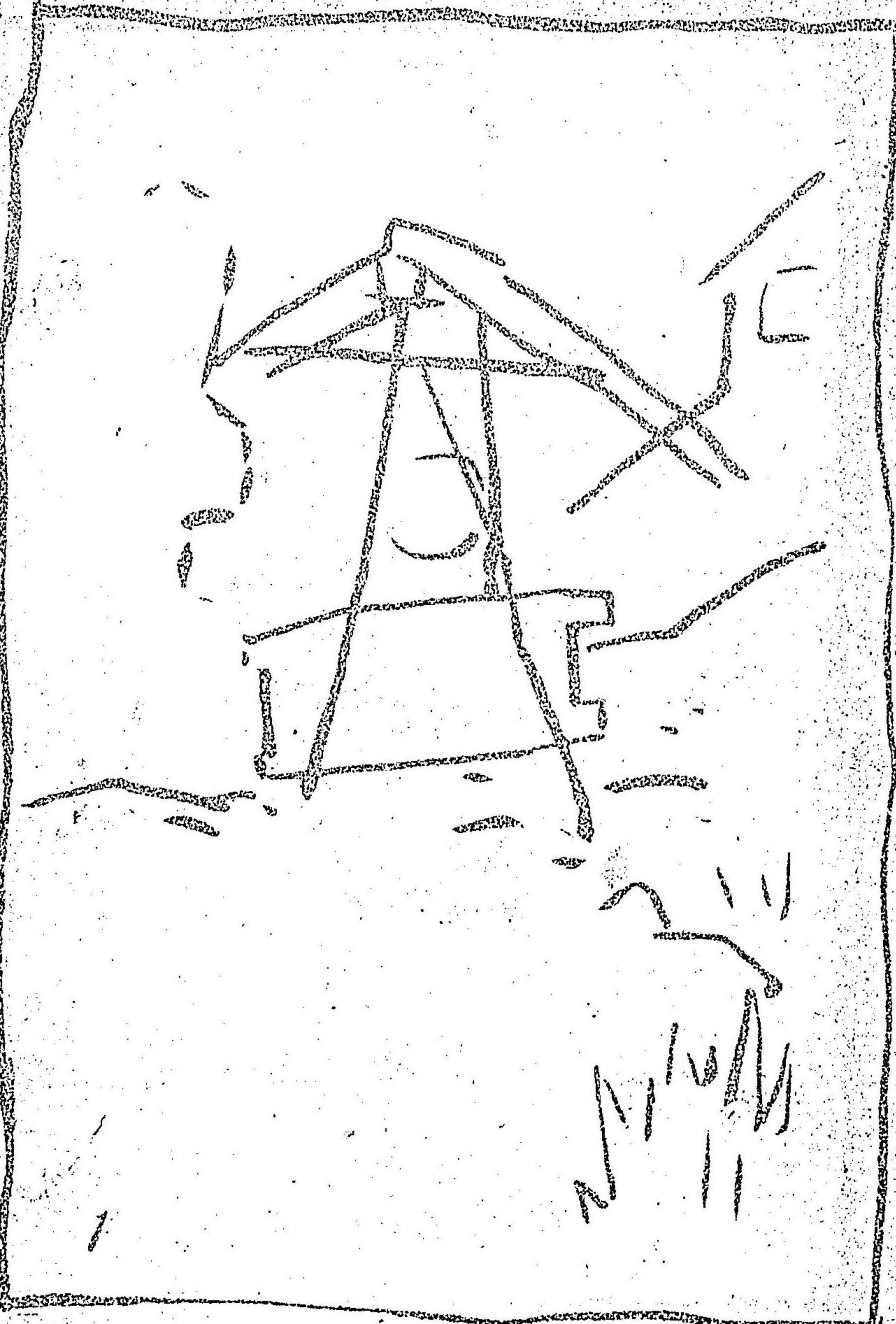
夏の夕ぐれ





物賣り

2



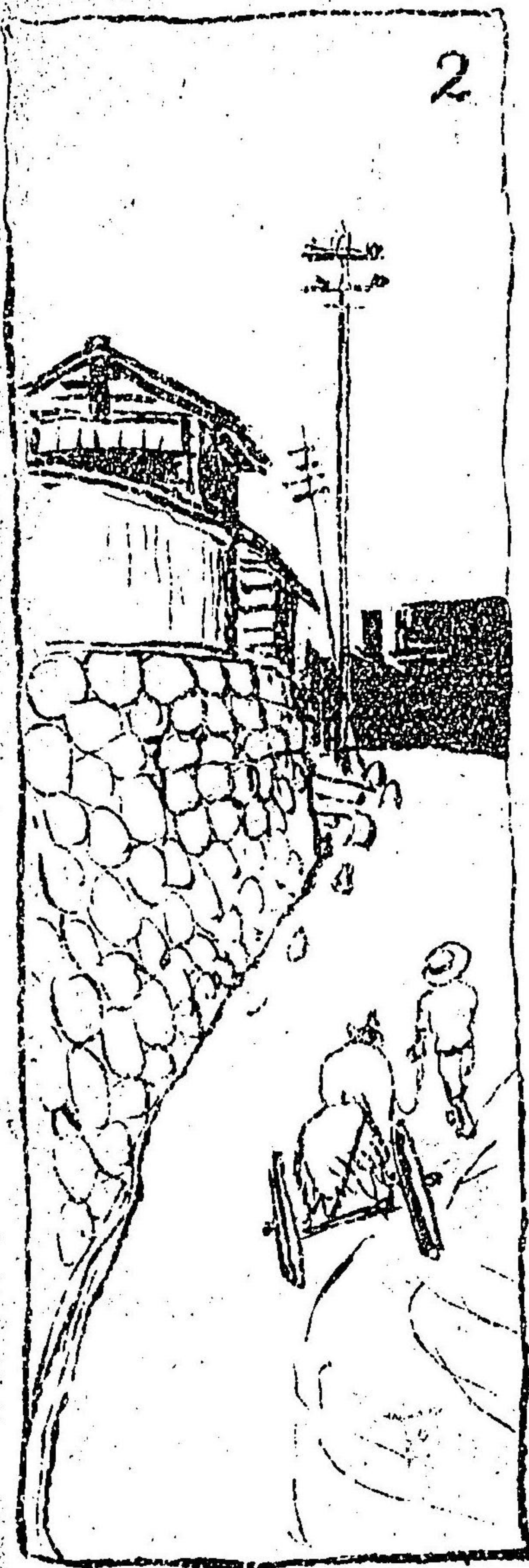
古井戸のステッキ

1

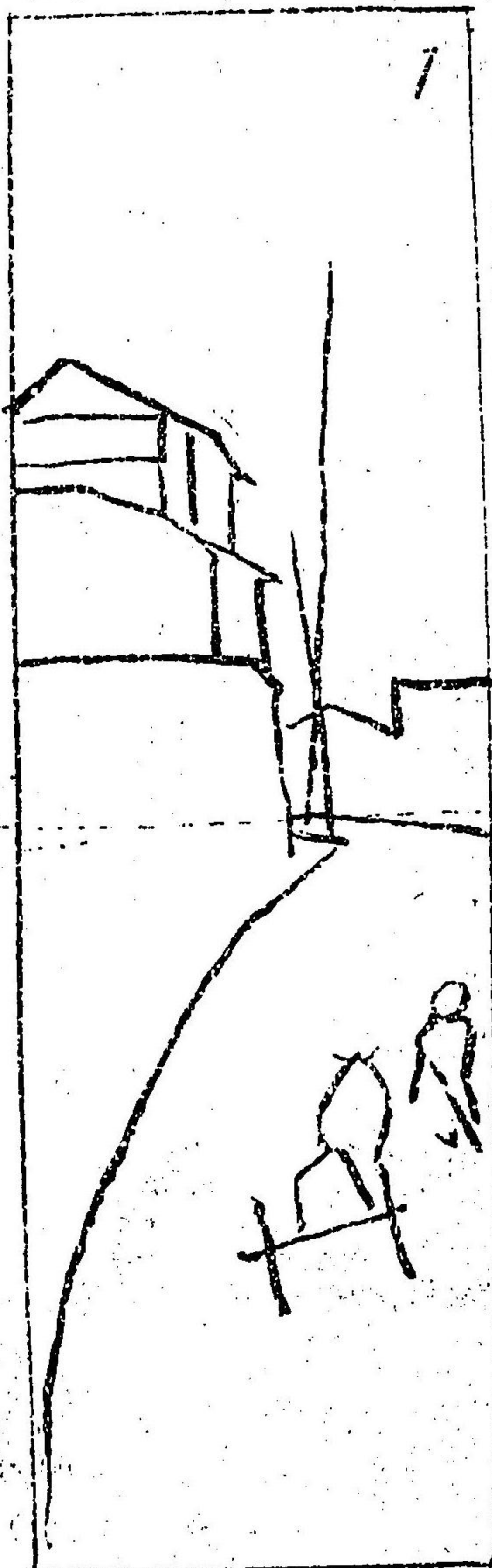


坂路

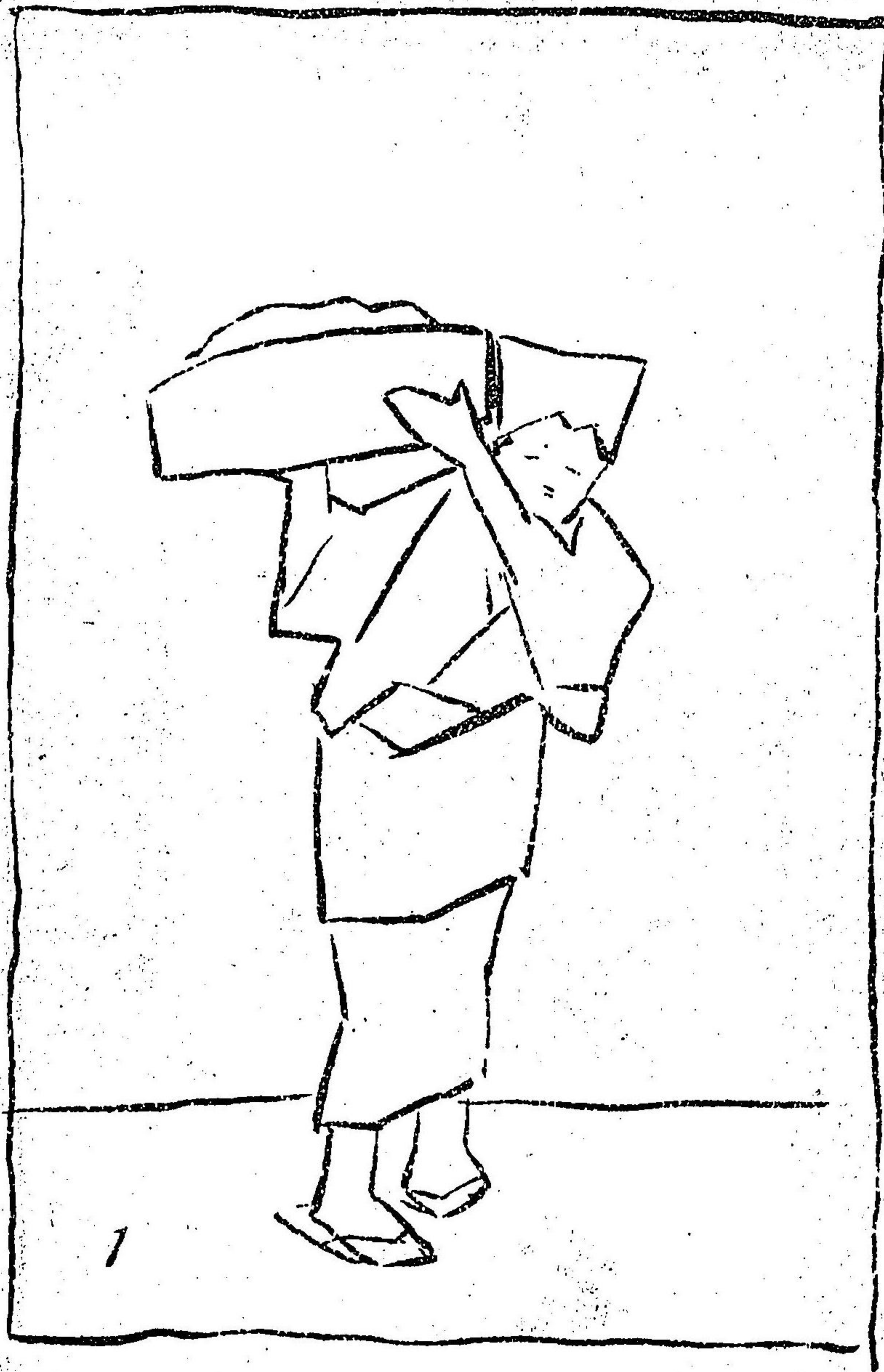
2



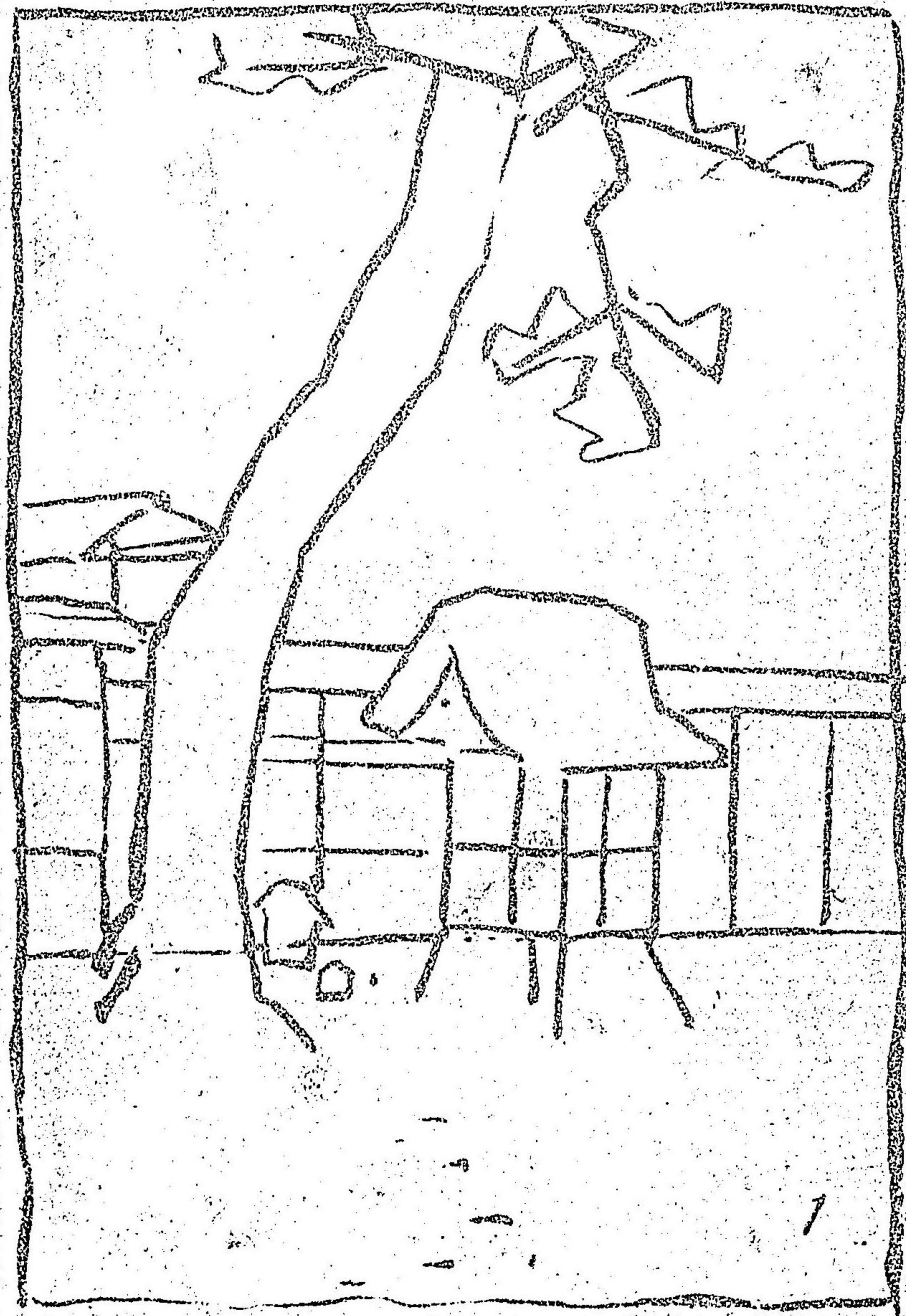
1



物賣りスケッチ







村社スケッチ

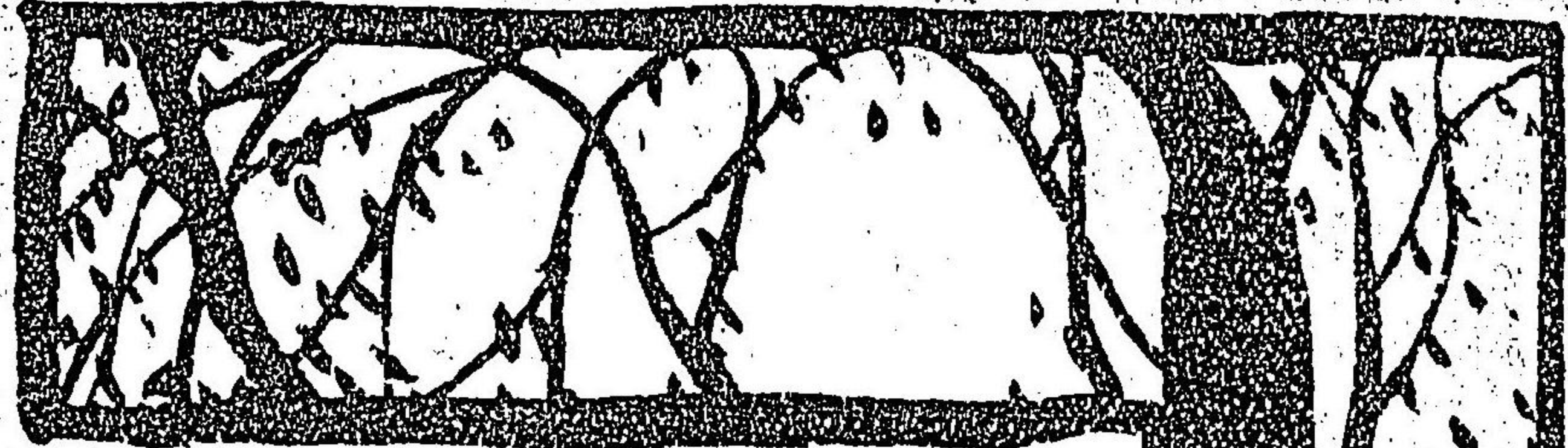
1



村社

2





明治四十三年九月十八日印刷  
明治四十三年九月廿一日發行

定價金參拾五錢

揮毫者

伊藤龍涯

發行者

東京市麹町區二番町四十四番地  
草場

印刷者

東京市麹町區築地三丁目五番地  
數崎芳次郎

印刷所

臺紙開舍

發賣所

東京市麹町區南鍛冶町  
振替東京七九三四番

松邑三松堂







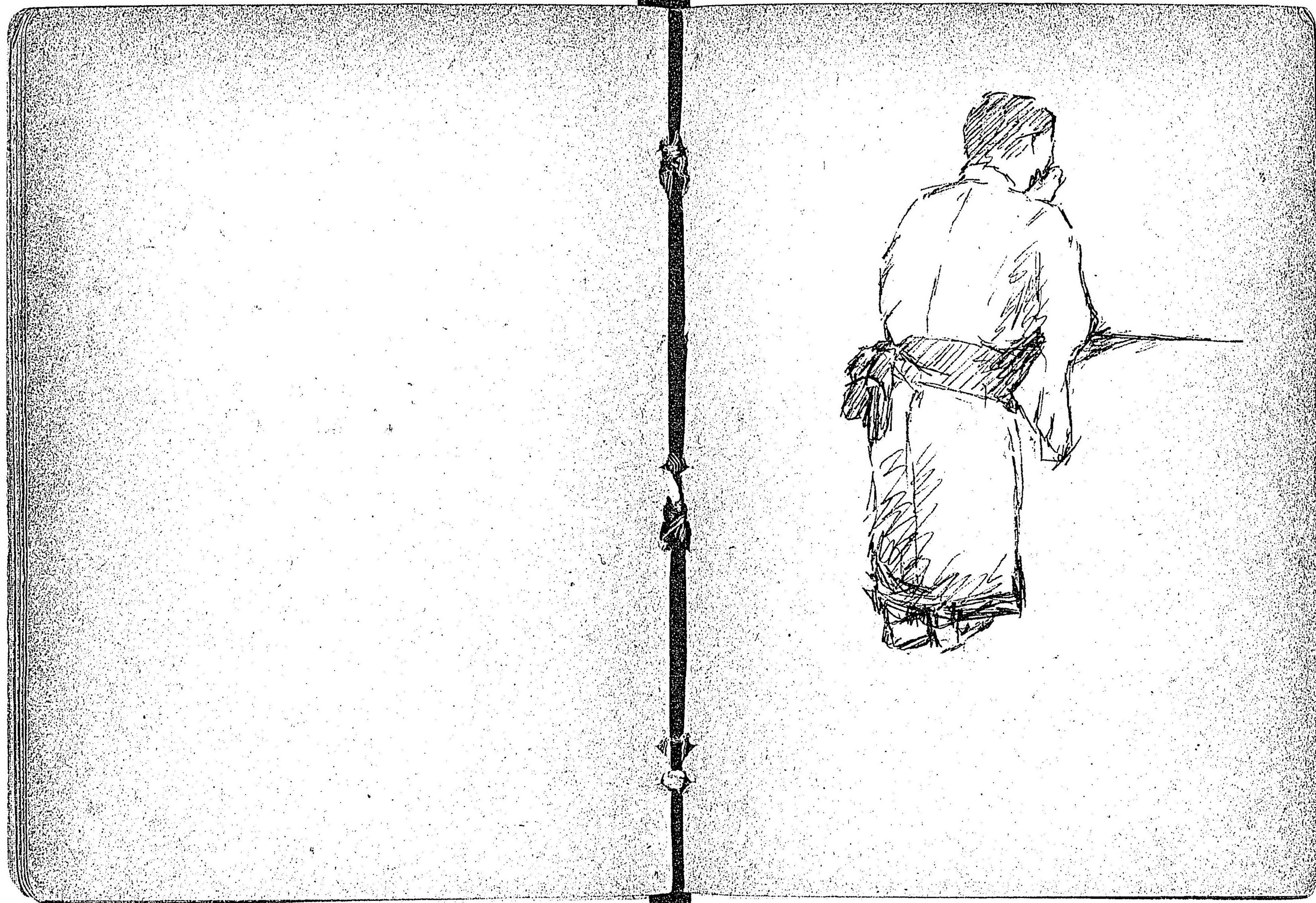
















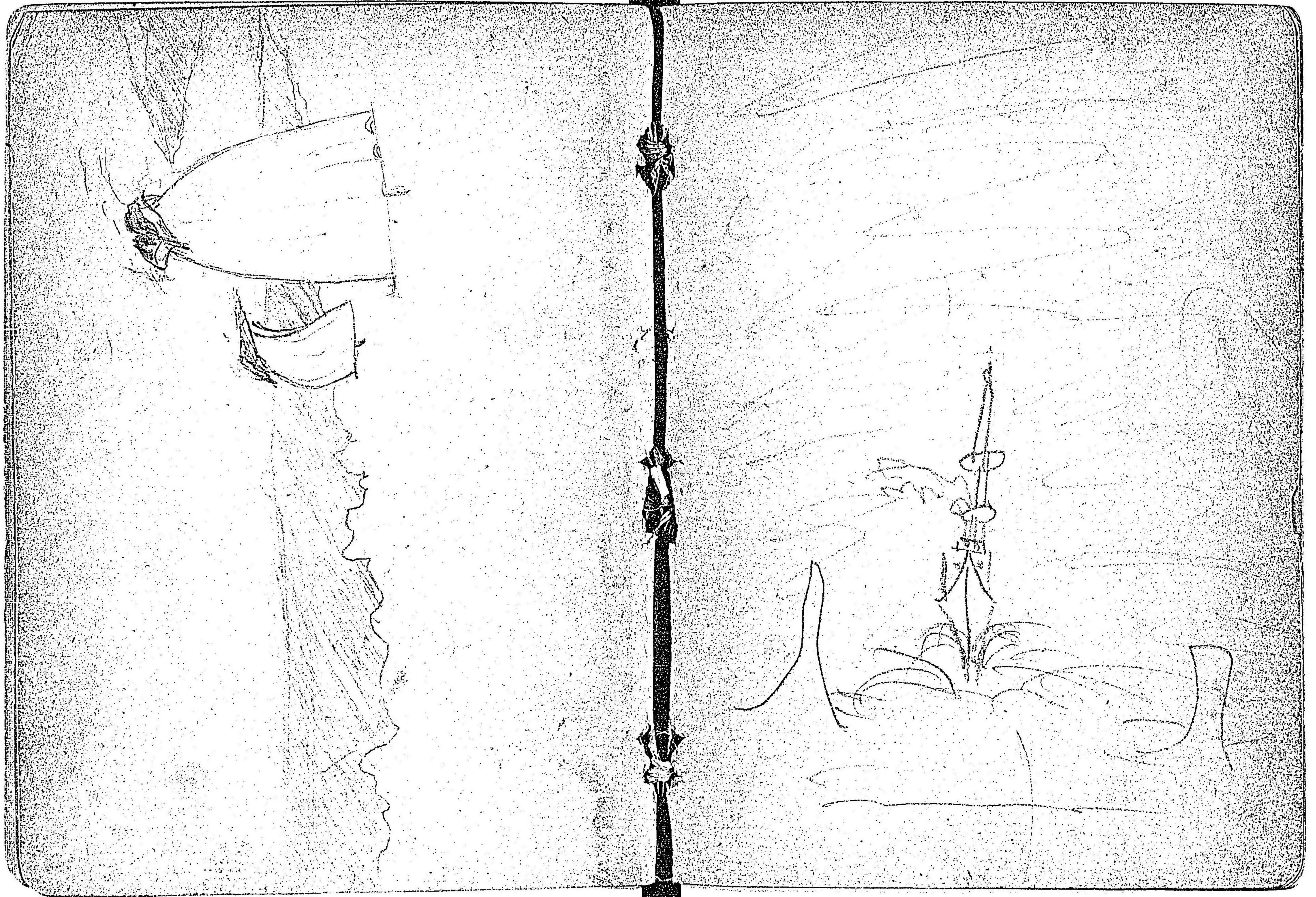




搖  
石  
一  
樹

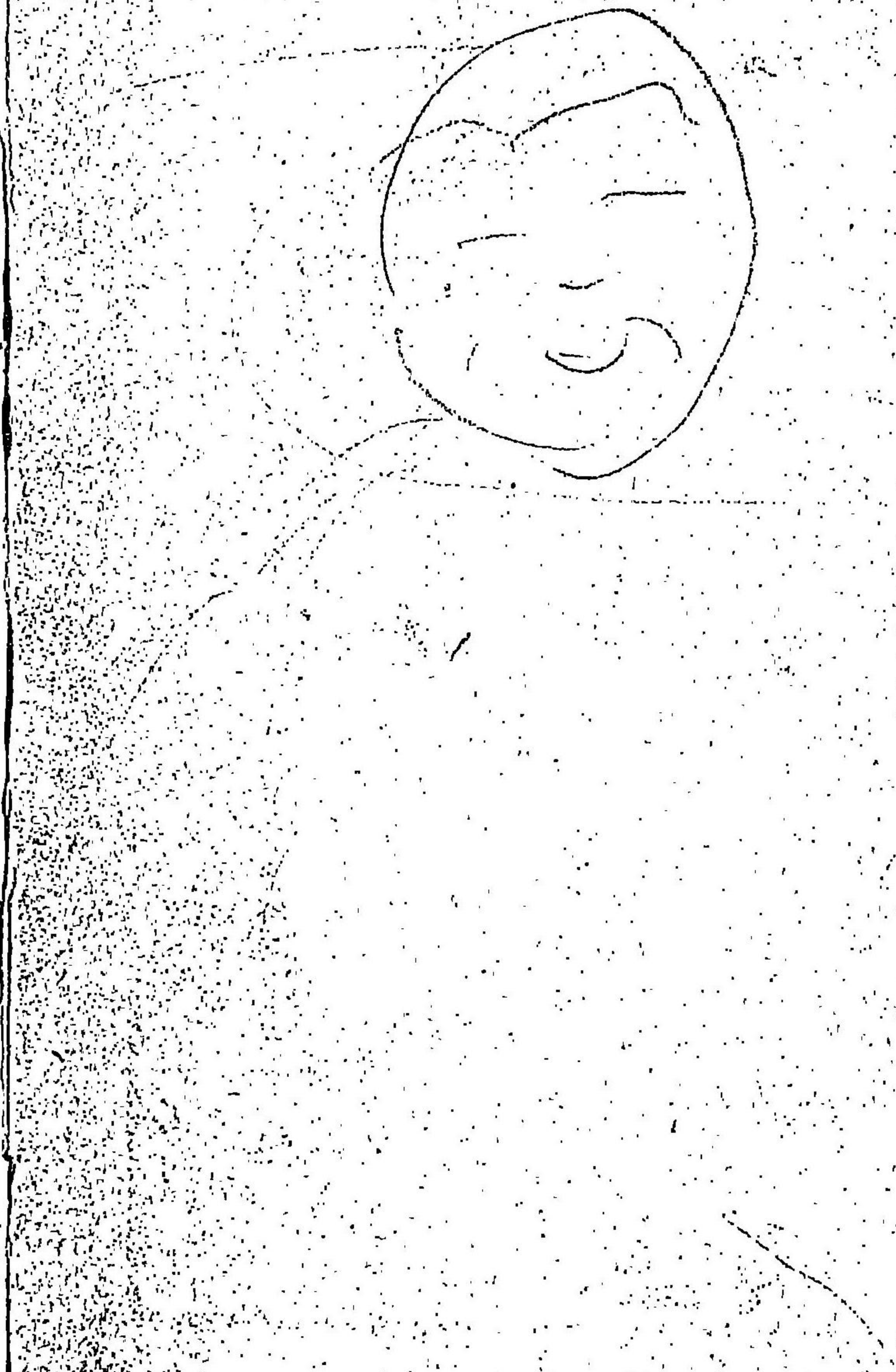






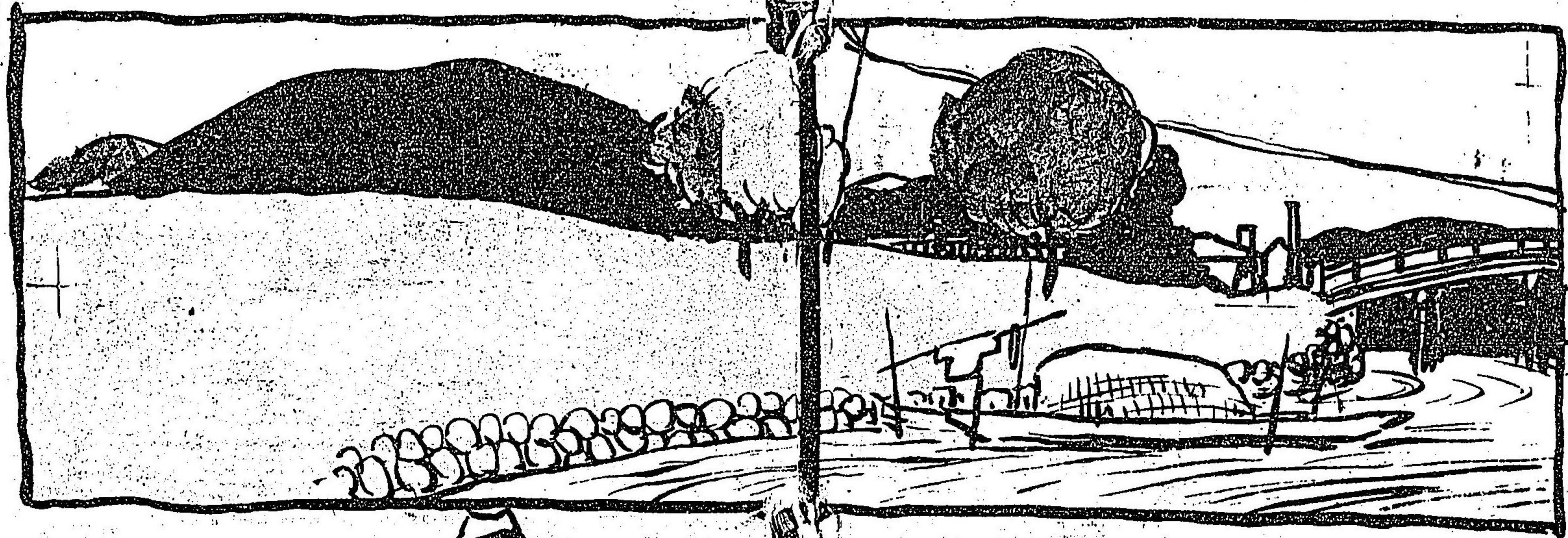


11

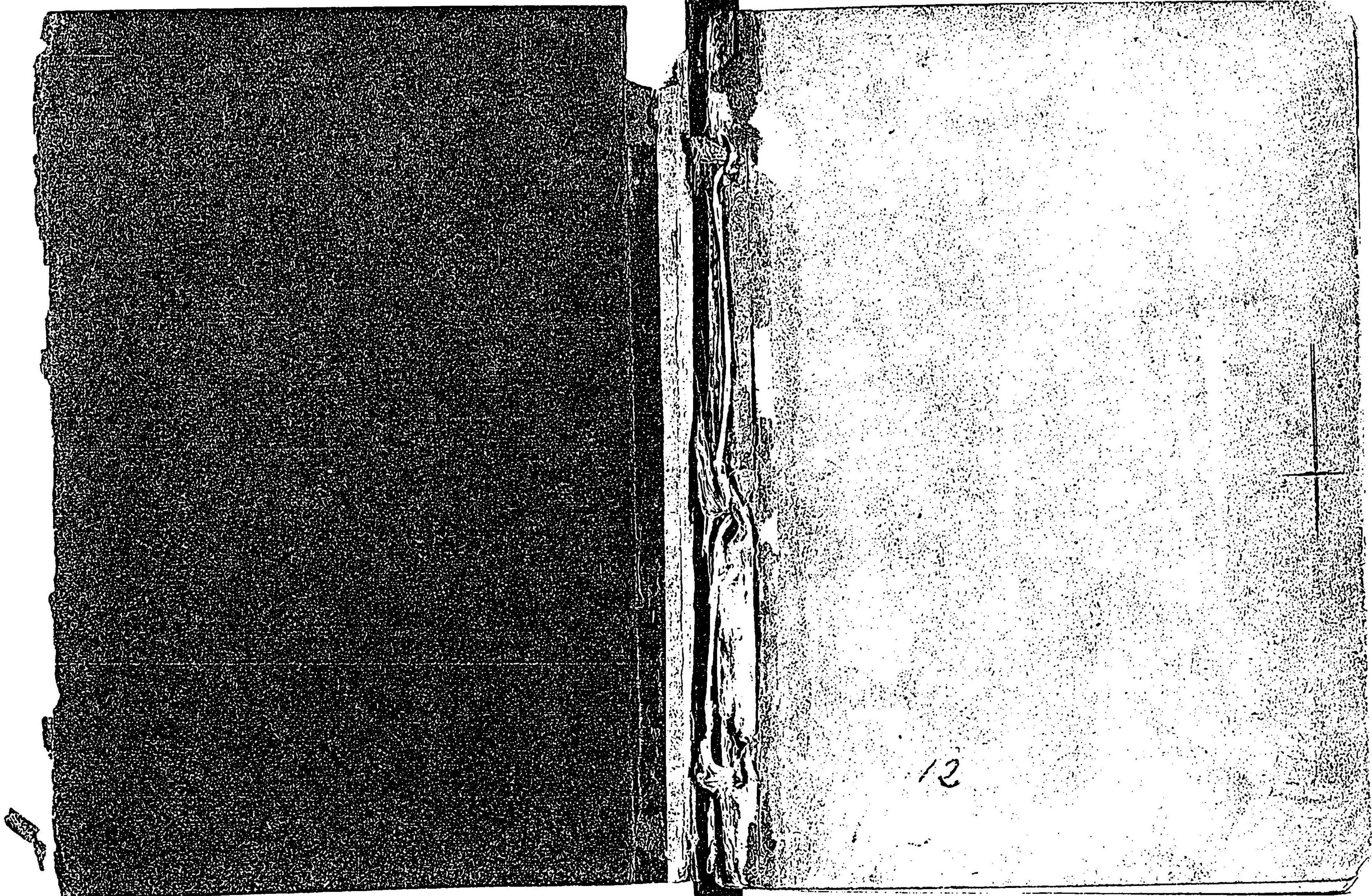




29  
1847







12

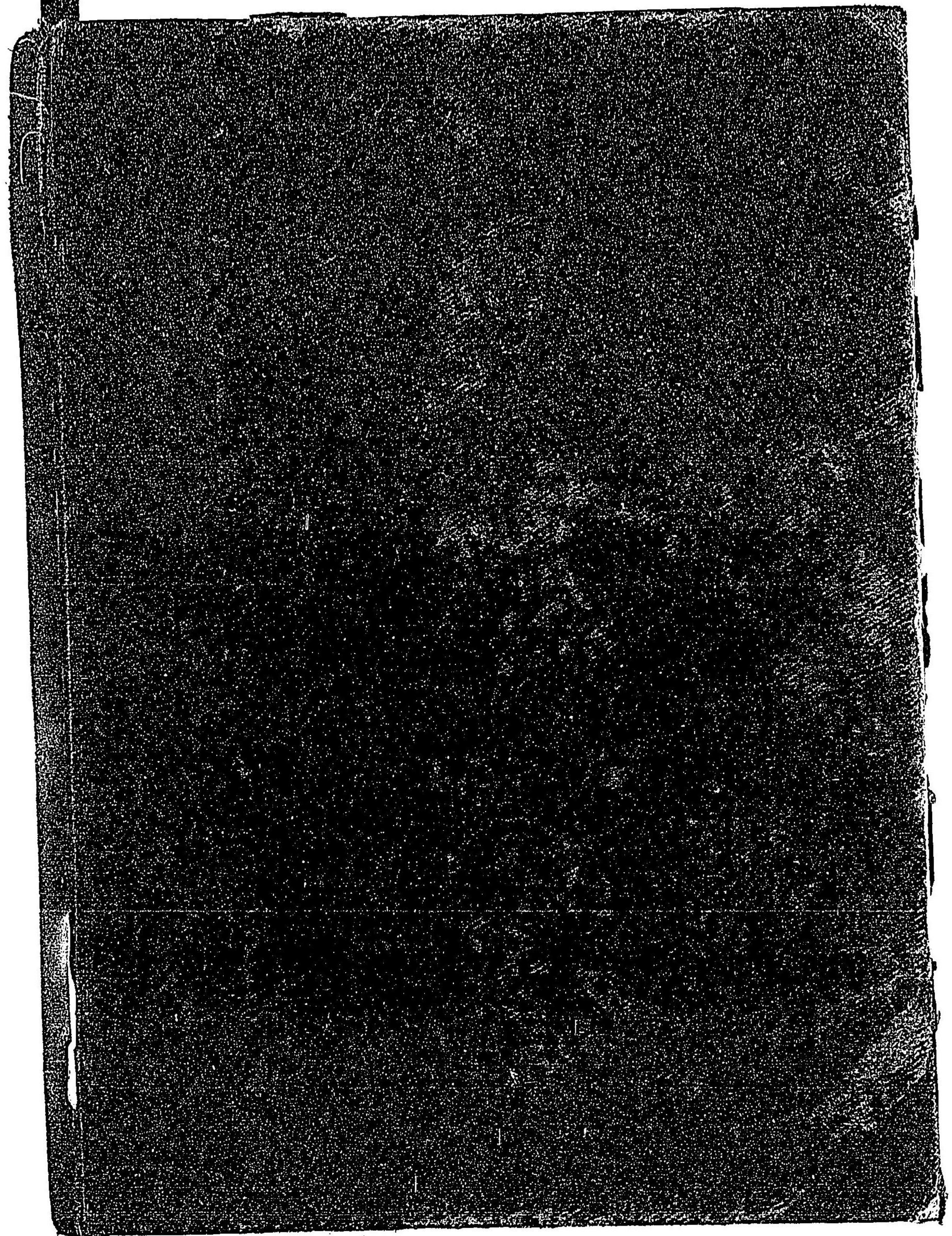


29

347

6







29

347

069941-001-5

29-347

写生の仕方

伊藤 龍涯/編

M43, 44

CEC-0800





